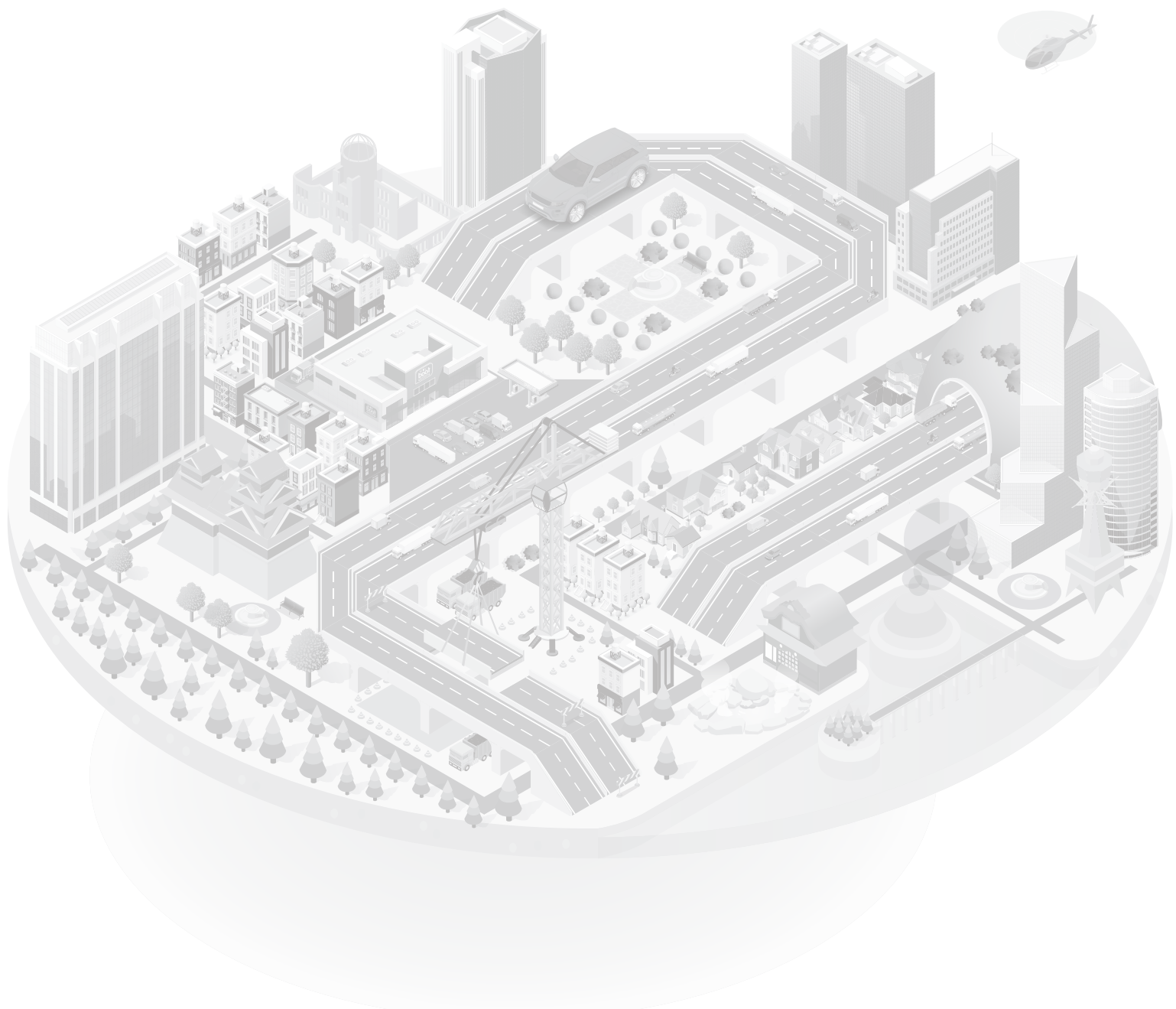


Communication Report 2018

NEXCO西日本グループ
コミュニケーションレポート

全体版



[スローガン]

みち、ひと・・・

[3つの目指す姿]

● 高速道路に変わらぬ安全と、これまでにない感動を

目次

NEXCO西日本グループの使命 1

トップメッセージ 3

事業エリア・会社概要・グループ会社 5

NEXCO西日本グループの事業 7

数字で見るNEXCO西日本グループ・

中期経営計画2020 9

コーポレート・ガバナンス 11

特集1 高速道路ネットワークの機能強化 ... 13

特集2 高速道路の長期保全 17

特集3 高速道路の新技术 21

特集4 お客さまサービス向上 23

お客さま 25

社会 29

投資家・国民の皆さま 35

お取引先 36

グループ社員 37

環境保全 39

社会貢献 41

CSRの重要課題と取り組み状況 43

財務報告 47

第三者意見 49

編集方針・Q&A 50

使用する略称

本レポートでは、「NEXCO西日本」「当社」は西日本高速道路株式会社を、「NEXCO西日本グループ」「当社グループ」は西日本高速道路株式会社とその子会社および関連会社を含めたグループ全体を表します。

また、「高速道路機構」は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構を表します。インターチェンジは「IC」、ジャンクションは「JCT」、サービスエリアは「SA」、パーキングエリアは「PA」と略記します。

グループ理念

私たちはリスクマネジメントを徹底し、
高速道路の安全・安心を最優先に、お客さまの満足度を高め、
地域の発展に寄与することにより、
社会から信頼され成長する企業グループをめざします。

グループ行動憲章（抜粋）

- 1. 法令や社会のルールを遵守し、いかなる場合であっても、決してこれに反する行為は行いません。
- 2. 自由で活発な創造的企業活動を、公正を旨として行います。
- 3. 一人ひとりがグループにおける自らの役割と権限を自覚し、その責任を全うするため、全力を尽くします。
- 4. 企業活動における情報の重要性を踏まえて、情報の入手と活用及び適正な取り扱いを常に心がけて行動します。
- 5. 5つのステークホルダー（お客さま、社会、投資家及び国民の皆さま、グループの社員、お取引先）の信頼に応えます。

グループのCSR活動方針

事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します

当社グループの最大のCSRは、本業（事業活動）を通じて社会の持続的な発展に貢献することです。具体的には「高速道路の安全・安心の確保と着実な整備」、「SA・PAでのお客さまサービスの提供」であり、それらを着実に実行することにより、社会の発展への貢献、ひいてはグループの成長につながっていくものと考えています。

ステークホルダーへの約束

私たちはCSRを推進させていくにあたっては、ステークホルダーとの対話を通じて当社グループへの期待を的確に把握し、事業活動のプロセスに組み込んでいくことを大切にしています。対話を通じて明らかになった社会的課題を、これまで培ったノウハウや資源を活かして解決していくことで、社会の持続的な発展に貢献していきます。

未来へ。

安全・安心・快適な高速道路が結び、
人と人、地域と地域。夢ひろがるアイデアと、
心のこもったサービスで新しい出会いや
喜びを生み出します。NEXCO西日本は、
100年先の未来に向け技術の革新と
新たな価値の創造に挑み続けます。

● 地域を愛し、地域とともに生きる

● たゆまぬ技術の革新で、100年先の未来へ

社会の持続的な発展

NEXCO西日本グループの成長



社会貢献



環境保全



お客さま

ドライバー、バス事業者
トラック事業者など



投資家・国民の皆さま

金融機関、株主(財務大臣)、
国民など



社会

道路周辺の地域住民、
地方自治体、産業界、学术界、
国際社会など



お取引先

建設会社
SA・PAテナント会社
など



グループ社員

連結子会社26社
約14,000人

より広い社会、未来への働きかけ

経営を支える基本姿勢

コンプライアンス／リスクマネジメント／情報セキュリティ



これからも高速道路の安全・安心を最優先に、 社会から信頼され成長する企業グループをめざします。

現在、当社が管理する高速道路は約3,500kmを超えています。その中には、開通から30年を超え、老朽化が進行している道路もあります。そのため当社グループでは、高速道路ネットワークの機能を維持し、将来の世代へ健全な社会資産を残すために、高速道路リニューアルプロジェクトを進めています。また、熊本地震での教訓を踏まえ、

災害に強い道路を目指して高速道路における耐震補強対策を進めています。

日本の東西交通の要衝である近畿圏の高速道路網整備においては、交通混雑解消や自然災害・重大事故等、有事の際のリダンダンシー強化のため新名神高速道路の2023年度全線開通を目指しています。そのうち2018年3月に開通した

高槻JCT・IC～神戸JCT間においては、沿線において工場の立地が進み、新たな雇用が創出されている一方で、並行する名神高速道路や中国自動車道の渋滞が約9割減少するなど、目に見える効果が出てきています。また、当社管内の各道路においても、円滑で快適な走行と交通事故の減少を図るべく四車線化事業を進めています。



高速道路は、我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かさない重要インフラであり、当社グループは24時間365日、この高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担っています。

その中で、「私たちはリスクマネジメントを徹底し、高速道路の安全・

安心を最優先に、お客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与することにより、社会から信頼され成長する企業グループをめざします」というグループ理念のもと、中期経営計画2020を推進しています。

そのために、社員の健康と安全を預かる経営者として社員の健康管理を強く意識し、働きやすい職場づくりを推進するなど、働き方改革にも取り組んでいます。

当社グループは、高速道路という社会インフラとしての使命を果たすことを企業の社会的責任(CSR)として考えています。その一環として、当社は「国連グローバル・コンパクト」の人権・労働・

環境・腐敗防止に関わる10原則を支持しており、2009年からその活動に参加しています。あらゆる事業活動を通じてお客さまや株主の皆さまをはじめ、協力会社や取引先、社員、沿道地域の皆さまなど、さまざまなステークホルダーへの責任を果たすことに努めていきます。皆さまには、本レポートや当社グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2018年7月

西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

酒井和広

ゼロ災害を目指し、 工事安全管理体制を更に強化します

2016年に発生した重大事故以降、重大事故リスクを抽出し、事前に安全対策を定める重大事故リスクアセスメントをはじめとした工事安全管理に継続的に取り組んでいます。2017年度にも重大事故が連続して発生しました。

工事中事故を撲滅するためには、重大事故リスクに着目した重大事故リスクアセスメントの着実な実施とともに、次のような「工事施工会社による工事安全管理」が工事現場で日々実施されることが重要となります。

- 作業員の不安全行動等による労働災害リスクを適切に想定したKY活動
- 計画通りの施工や作業員の不安全行動を監視する現場巡視
- 作業計画の周知や不安全行動を防止する作業員の教育

今年度より、全社的な工事安全レベルの向上を図るため、次の会議体を設置し、工事安全管理体制を強化しました。これにより、発注者による確認や安全啓発活動を通して、工事施工会社の安全意識を高めてまいります。

●「安全対策部会」

現場で発生した工事中事故の報告、重大事故リスクアセスメントの実施状況の確認等を行うことで、事故対策の共有や工事安全管理の確実な実施等を推進させ、現場での工事安全性の向上を図ります。

●「工事安全推進会議」

各現場での取り組みの展開や安全啓発活動、新技術・新工法の検証等を行います。



安全対策部会の様子

これらの取り組みを継続的に実施することで、ゼロ災害を目指し、「安全と品質を確保したうえで、工期内に工事を完成させ、社会に貢献する」という受発注者共通の目標を実現します。

事業エリア (24府県)

高速道路事業

営業中道路 3,513km

I C 数 IC 385カ所 スマートIC 29カ所

利用台数 286万台/日(2017年度実績)

営業収入 7,643億円(2017年度実績)

建設中道路 (NEXCO西日本が整備する区間) 81km

建設中道路 (新直轄方式で整備する区間) 85km

SA・PA事業

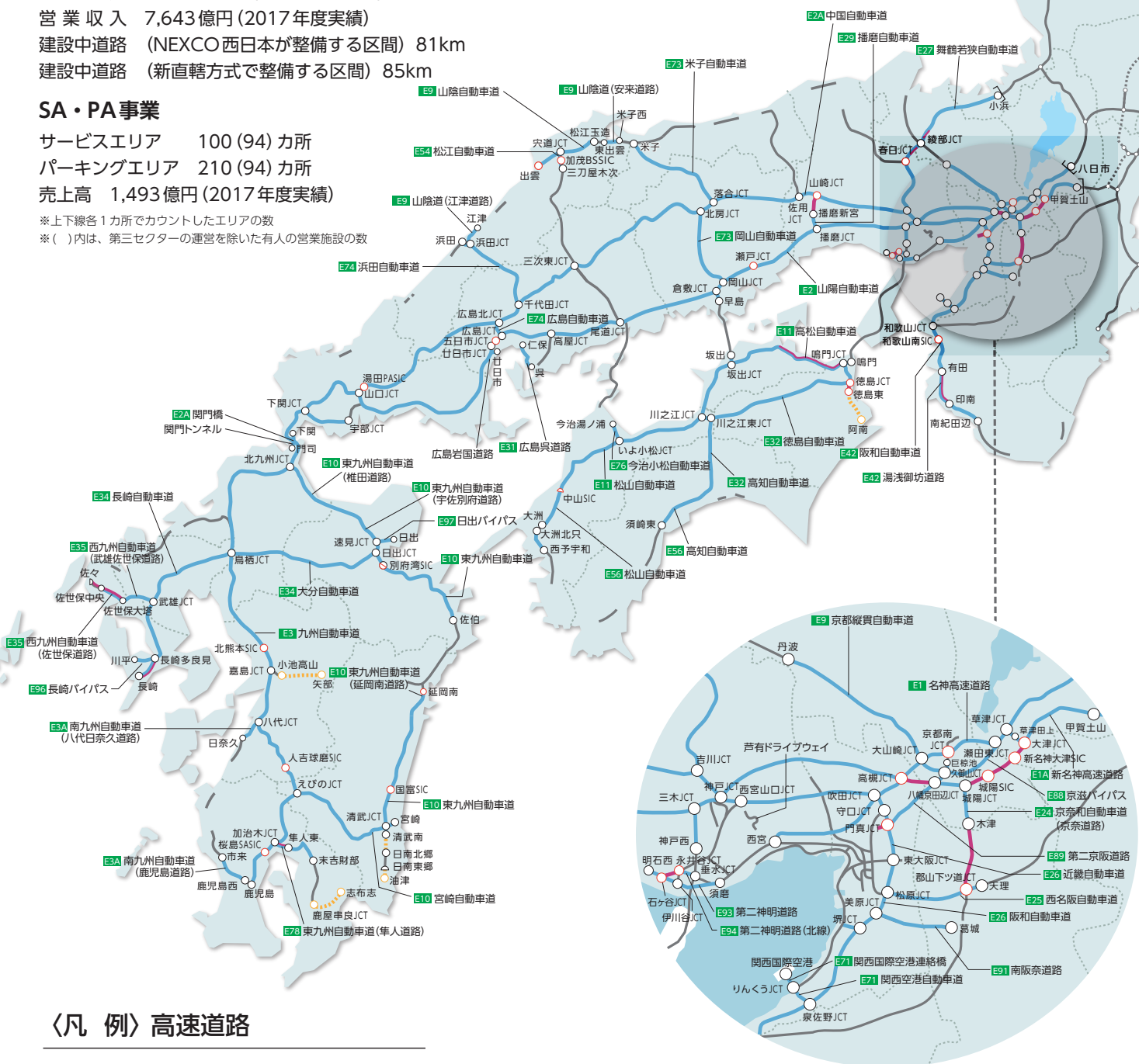
サービスエリア 100(94)カ所

パーキングエリア 210(94)カ所

売上高 1,493億円(2017年度実績)

※上下線各1カ所でカウントしたエリアの数

※()内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数



〈凡 例〉高速道路

— 営業中道路

— 事業中道路注1

— 事業中道路注1(新直轄方式注2で整備する区間)

— 他の自動車専用道路など

注1 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称

注2 国土交通大臣が施行主体となって高速道路を整備する方式

※標記上の略称

JCT : ジャンクション

SA : サービスエリア

PA : パーキングエリア

SIC : スマートインターチェンジ



(2018年7月現在)

会社概要 (2018年7月現在)

商 号 西日本高速道路株式会社
(West Nippon Expressway Company Limited)

代 表 者 代表取締役社長 酒井 和広
本社所在地 大阪市北区堂島1丁目6番20号

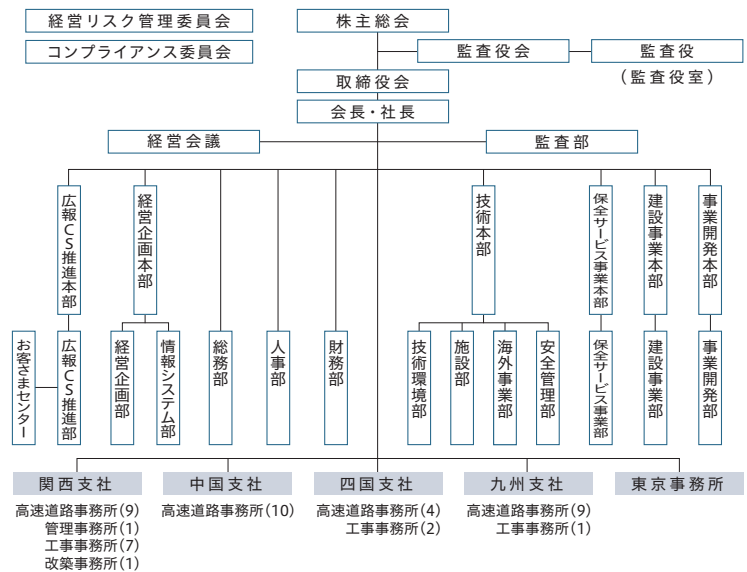
資 本 金 475億円

設立年月日 2005年10月1日

従業員数※ (単体) 2,431人 (連結) 14,652人

※ 2018年3月末現在

組織図 (NEXCO西日本、2018年7月現在)



グループ会社 (2018年7月現在)

連結子会社 26社

■ 料金収受

西日本高速道路サービス関西株式会社
西日本高速道路サービス中国株式会社
西日本高速道路サービス四国株式会社
(※ 交通管理も実施)

西日本高速道路サービス九州株式会社
西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社
(※ 交通管理、点検・管理、保全作業も実施)

■ 交通管理

西日本高速道路パトロール関西株式会社
西日本高速道路パトロール中国株式会社
西日本高速道路パトロール九州株式会社

■ 点検・管理

西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社
西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
(※ 保全作業も実施)
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
西日本高速道路ファシリティーズ株式会社
(※ 保全作業も実施)

■ 保全作業

西日本高速道路メンテナンス関西株式会社
西日本高速道路メンテナンス中国株式会社
西日本高速道路メンテナンス九州株式会社

■ 不動産関連業務および人材派遣業務

西日本高速道路ビジネスサポート株式会社

■ SA・PAの運営・管理

西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社
西日本高速道路ロジスティクス株式会社
西日本高速道路リテール株式会社

■ 有料道路の運営・管理

芦有ドライブウェイ株式会社

■ 海外事業

NEXCO-West USA, Inc.

■ ウルトラファインパブル関連事業

株式会社Ligarc

■ 橋梁補修技術の開発および工事・コンサルタント事業

株式会社富士技建
NEXCO西日本コンサルタンツ株式会社

■ 広告事業

NEXCO西日本コミュニケーションズ株式会社

持分法適用の子会社 1社

■ SA・PAの運営・管理

沖縄道路サービス株式会社

関連会社 6社

■ システムの開発・改良および運用管理

株式会社NEXCOシステムズ

■ 研究および技術開発

株式会社高速道路総合技術研究所

■ 料金収受機械保守

ハイウェイ・ツール・システム株式会社

■ 保険代理店業務

株式会社NEXCO保険サービス

■ トラックターミナルの運営

九州高速道路ターミナル株式会社

■ 海外事業

日本高速道路インターナショナル株式会社

みち、ひと…未来へ。





NEXCO西日本グループの事業

NEXCO西日本グループは、高速道路の建設と安全かつ効率的な運営管理、お客さま満足度の向上を目指すSA・PAの運営管理を主な事業とすると同時に、国民の皆さまの資産である高速道路の価値を最大化するべく、新しい価値の創造に取り組んでいます。

高速道路事業

当社の行う高速道路のプロジェクトでは、道路整備特別措置法（第3条）に基づく事業許可申請を行い、国土交通大臣から事業許可を得たのち、資金を調達し、地元協議、用地取得を行います。その後、沿道地域への工事説明を行い、安全と環境に配慮しながら、コストを削減しつつ工期を短縮し、高速道路の早期開通を目指します。

完成した道路資産は、高速道路機構に譲渡して、以降は高速道路機構との協定に基づき当社が管理・料金収受の業務を行います。お客さまからいただく料金は、高速道路の公共性に鑑み、当社の利潤を含めないことを前提としており、料金収入は高速道路機構への道路の賃借料の支払いおよび管理費用に充てられます。



用地の取得・建設



料金の収受



道路や設備等の維持管理



パトロール

関連事業

SA・PAの運営管理では、レストランやハイウェイショップ等のテナント会社と協力して、くつろぎ、楽しさ、賑わいなどを創出しています。

また、地域と連携した取り組みをSA・PAで実施するなど、お客さまと地域の皆さまに新たな価値を提供しています。

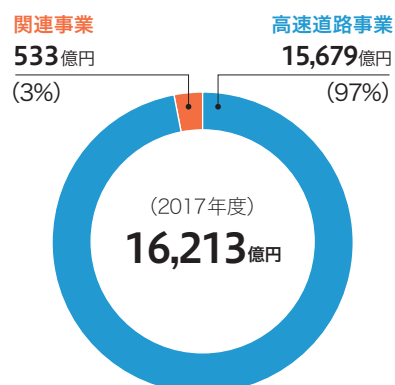


飲食・物販店舗、給油所等の運営

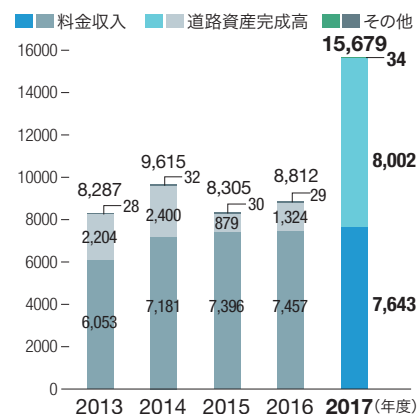


地域と連携した取り組み

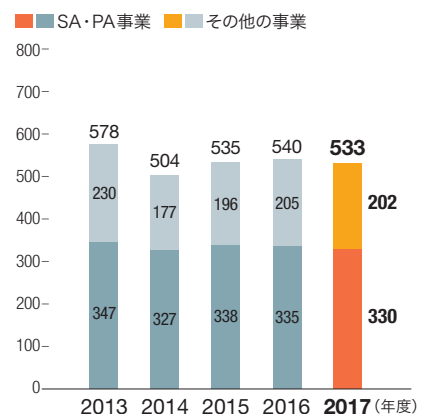
営業収益の事業別内訳（単位：億円）



高速道路事業の営業収益（単位：億円）



関連事業の営業収益（単位：億円）





高速道路事業とNEXCO西日本の役割

高速道路民営化とは

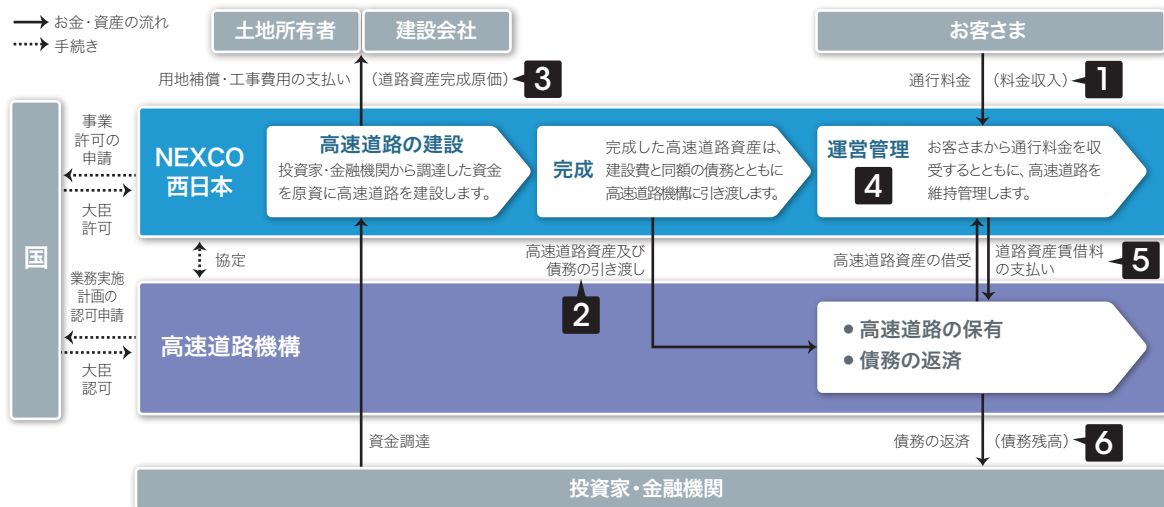
当社は、旧日本道路公団（JH）の分割・民営化により2005年10月1日に設立されました。高速道路資産とその債務は高速道路機構が保有し、当社を含む高速道路会社各社は、高速道路機構から高速道路資産を借り受け、運営管理を担っています。



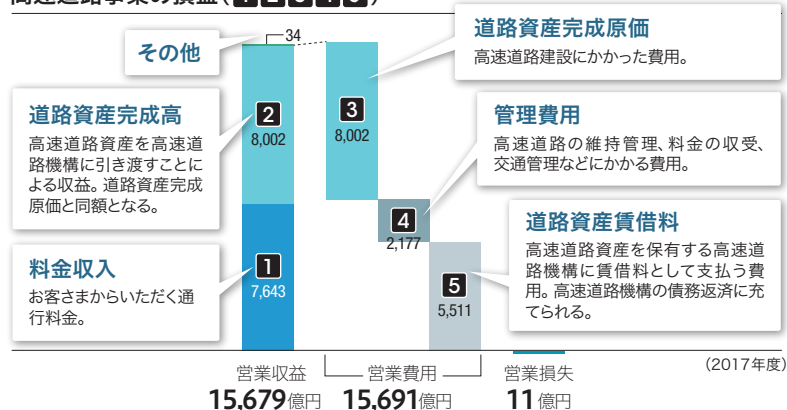
民営化の目的

1. 旧道路関係4公団合計で、約40兆円にのぼる有利子債務を確実に返済すること。
2. 必要な道路を、会社の自主性を尊重しつつ、早期に、できるだけ少ない国民負担のもとで建設すること。
3. 民間企業のノウハウを発揮し、多様で弾力的な料金設定を実現し、お客さまに多様なサービスを提供すること。

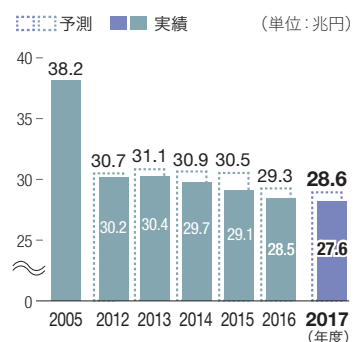
運営スキーム



高速道路事業の損益（1 2 3 4 5）



高速道路機構の債務残高※（6）

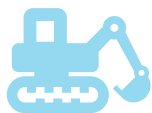


※ 全国路線網（NEXCO3会社）、首都高速道路、阪神高速道路、本州四国連絡高速道路、および全国路線網以外の一般有料道路を含む

数字で見るNEXCO西日本グループ

事業

建設延長



81 km

営業延長



3,513 km

高速道路料金収入

7,643 億円



高速道路利用台数

286 万台/日



SA・PAの数

310 カ所



SA・PA売上高

1,493 億円



環境

太陽光発電による
発電量

286 万kWh



建設副産物

アスファルト塊
コンクリート塊

83 万トン



※発生した建設副産物は100%リサイクルされています。

地域

職場見学、
体験学習、
交通安全啓発活動
の実施

のべ 165 回



ウェルカム
ゲート
設置数



70 カ所

中期経営計画2020

高速道路は我が国の大動脈として生活・経済活動に欠かせない重要インフラであり、NEXCO西日本グループは24時間365日、この高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担っています。当社グループはこの使命を全うするため、当社グループ理念(1ページ参照)のもと、2016年度からの5カ年の中期経営計画2020を推進していきます。

策定の背景と基本的な考え方

経営環境の変化



- 老朽化の深刻化
- 大型車、重量超過車両の増加



- 異常気象、災害の頻発化
(東日本大震災、熊本地震、南海トラフ・内陸直下型地震への懸念)



- 次世代エネルギー普及の促進
- 自動運転の実現



- 地域創生の推進
- 訪日観光客の増加
- 生産性の向上への期待

3つのキーワード

「安全・安心」の追求が基本

- 社員一人ひとりがリスク感度を高め、高速道路における「安全・安心」という基本のサービスを最優先に、高い品質でお客さまにお届けします。
- 重要な社会基盤である高速道路ネットワークを強化し、健全な状態で次世代へと継承します。
- 24時間365日高速道路の機能を保持するとともに、異常気象や災害・事故に対しても迅速に対応し、間断ない交通の確保に向けた防災対応力を高めます。

「信頼」されるサービスと組織運営を目指す

- NEXCO西日本グループは、社員一人ひとりがコンプライアンスを重視し、社会から信頼され必要とされる組織となるように努めます。
- 地域の魅力や特性と高速道路ネットワーク機能との相乗効果により高速道路の価値最大化を目指すと共に、地域から期待される事業を展開します。

地域と共生し、持続的な「成長」を目指す

- 高速道路ネットワークの価値を最大化する取り組みを継続し、地域と共に100年先の未来まで持続的に成長していきます。
- 高速道路を取り巻く環境の変化に適切に対応し、グループ一体となって進化し続けます。

主な重点施策

① 100年後も安心して利用できる高速道路



高速道路リニューアルプロジェクトに着手

② 高速道路ネットワークの機能強化



新名神の建設を推進

③ 工事の安全対策の徹底



工事中の重大事故の撲滅に向け、リスクマネジメントを推進

コーポレート・ガバナンス（企業統治）

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

コーポレート・ガバナンス

ガバナンス体制

- ▶ 内部統制システムを整備し、経営の健全性・透明性の確保に努めています

グループ行動憲章

- ▶ 行動憲章のもと、公正かつ透明性の高い企業活動に努めています **WEB**

コンプライアンス

コンプライアンスの強化

- ▶ 社員の労働時間の正確な把握に努めています

コンプライアンス委員会

- ▶ コンプライアンス委員会を設置し公正で透明性の高い企業活動を実践しています

コンプライアンス推進体制

- ▶ コンプライアンス推進計画の実施・検証・評価に取り組んでいます

グループ会社・支社でのコンプライアンス推進

- ▶ 経営交流会議を中心にグループ全体でコンプライアンス向上に取り組んでいます

コンプライアンス通報・相談窓口の設置

- ▶ 社内外にコンプライアンス通報・相談窓口を設けています **WEB**

リスクマネジメント

リスクマネジメント

- ▶ グループ全体でリスクマネジメントに取り組んでいます
- ▶ 工事の安全管理の強化に取り組んでいます

情報セキュリティ

情報セキュリティの強化

- ▶ 情報漏えい・システム障害対策とともに情報セキュリティ意識の向上に取り組んでいます
- ▶ 本社、支社・事務所における情報セキュリティ推進体制を構築しています **WEB**

人権の尊重



基本方針と推進体制

- ▶ 人権問題啓発推進会議を設置し、毎年活動を見直しています [WEB](#)
- ▶ 人権問題啓発推進の基本方針（NEXCO西日本グループ） [WEB](#)

啓発活動

- ▶ 人権を尊重した明るい職場づくりに努めています [WEB](#)

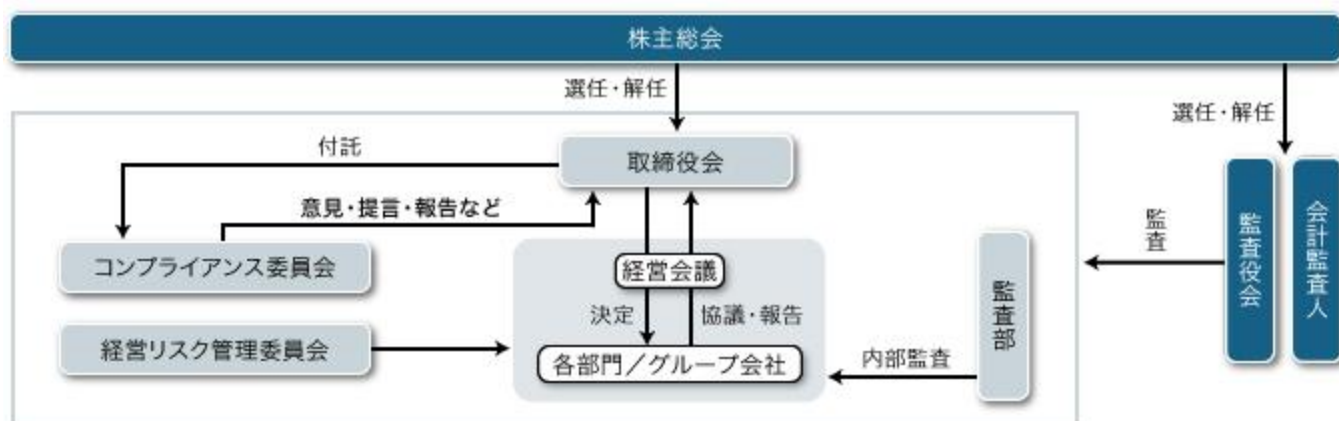
コーポレート・ガバナンス

NEXCO西日本では、グループの事業執行における迅速な意思決定、効率的な経営を目指し、[ステークホルダー](#)の方々から支持と信頼をいただくために、[コーポレート・ガバナンス](#)の充実を図ることが最重要課題のひとつであると認識しています。

そのため、経営の意思決定、業務執行及び監督、さらにはグループガバナンス、情報開示などについて適切な体制を整備し、経営の健全性、効率性及び透明性の確保に努めています。

ガバナンス体制

▼コーポレート・ガバナンス体制図



業務の適正を確保するために必要な内部統制システムを整備し、経営の健全性・透明性の確保に努めています

当社では、重要な業務執行に関する事項を決議するための取締役会に加えて、経営に関する重要な事項について協議し情報共有等を行うための経営会議を開催しています。

また、さらなる経営の監督・監査の強化を目的として、社外取締役・社外監査役を選任し、社外における豊富な知識・経験を当社の経営・監査業務に活かすことで、経営の健全性・透明性の確保に努めています。

さらに、法令及び社会のルールを遵守し、自由で活発な創造的企業活動を公正を旨として行う観点から、[コーポレート・ガバナンス](#)を充実させ、業務を適正かつ効率的に遂行するために、[コンプライアンス](#)委員会や経営リスク管理委員会などの内部統制システムを整備し、運用状況を定期的に確認することにより、経営の健全性・透明性の確保に努めています。

- 取締役会**：取締役と監査役が出席し、原則月1回開催しています。法令及び定款で定められた事項、その他重要な業務執行に関する事項を決議しています。
- 経営会議**：取締役と監査役、執行役員が出席し、原則月2回開催しています。経営に関する重要な事項等について協議または報告され、社内の情報共有が行われています。
- 監査役・監査役会**：監査役は取締役会や経営会議などの重要な会議に出席し、取締役の職務執行を監査しています。さらに、監査役会を原則月1回、その他必要に応じて随時開催し、監査実施のために必要な決議などを行っています。
- 監査部**：業務が適法かつ効率的に実施されているか、独立の社内組織として内部監査を実施しています。
- 会計監査人**：期末のみならず期中においても監査を実施し、会計の適正さを確保しています。

関連ページ

- ▶ [コンプライアンス](#)
- ▶ [リスクマネジメント](#)
- ▶ [有価証券報告書（「コーポレート・ガバナンスの状況」ページを参照）](#)

「NEXCO西日本グループ行動憲章」のもと、公正かつ透明性の高い企業活動に努めています

グループで目的と将来展望を共有し、社会から信頼され成長することを目指し、私たち一人ひとりが高い理念と規範に基づき行動することが基本であるとの認識のもと、グループの役員及び従業員がさまざまな局面で実践すべき指針として、「NEXCO西日本グループ行動憲章」を制定し、その実現に向けてグループが一体となって取り組んでいます。

関連ページ

▶ [NEXCO西日本グループ行動憲章](#)

コンプライアンス

コンプライアンスの強化

社員の労働時間の正確な把握に努めています

働き方改革については国を挙げて取り組まれているところですが、当社では、これまで行ってきた出退勤時刻とパソコンのログの比較に加えて、2018年1月からは全事業所で出退勤時刻と入退室時間の比較によるチェックを開始するなど、労働時間の正確な把握を徹底しています。こうした取り組みにより、組織として[コンプライアンス](#)の徹底に取り組んでいます。

コンプライアンス委員会

外部委員を含むコンプライアンス委員会を設置し公正で透明性の高い企業活動を実践しています

グループ行動憲章のもと、外部委員（3名）を含む[コンプライアンス](#)委員会を設置し、外部の知見を活用して公正かつ透明性の高い企業活動の実践に努めています。同委員会は原則年2回開催しており、当社グループ全体のコンプライアンスの向上に向けた意見やアドバイス等をいただいています。なお、2017年度は6月、12月の計2回開催しました。

関連ページ

▶ [コンプライアンス委員会議事要旨](#)

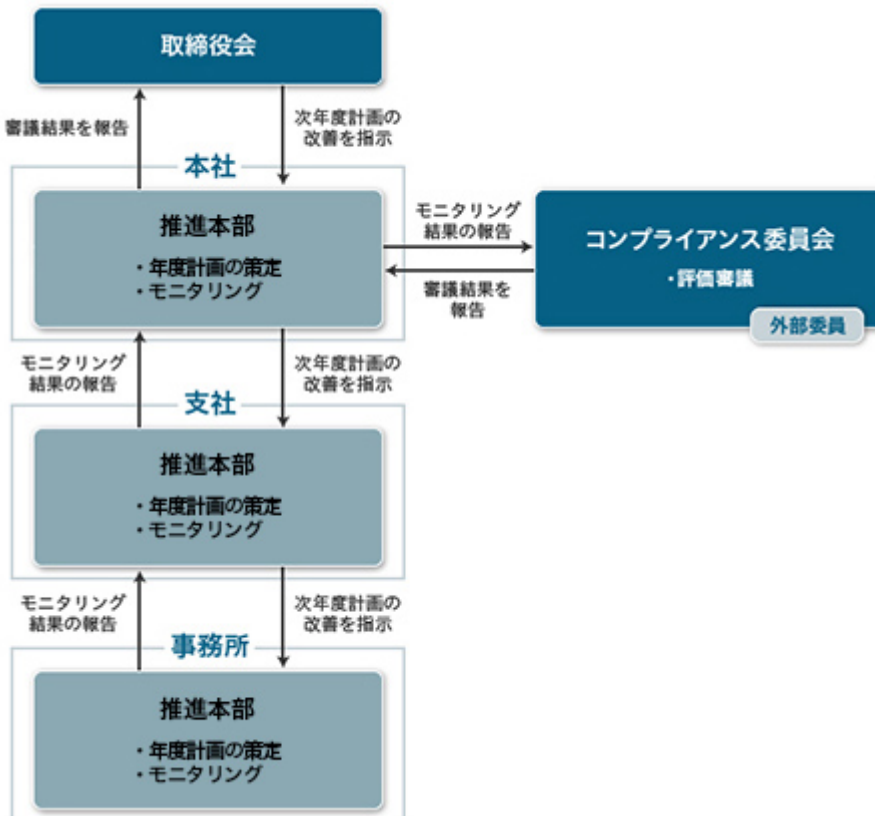
コンプライアンス推進体制

コンプライアンス推進計画の実施・検証・評価に取り組んでいます

当社は、[コンプライアンス](#) をすべての事業遂行の基盤として位置づけ、2015年に発生した元社員による収賄事件を受けて、コンプライアンスに関する意識向上や取り組みの活性化を図るため、本社、支社、事務所の各組織にコンプライアンス推進本部（本部長：各組織の長）を設置し、各本部にコンプライアンス推進責任者（総務部長等）を置いています。

同本部では、コンプライアンス推進計画を毎年度策定して、実施・検証・評価等のPDCAサイクルを回すとともに、コンプライアンス委員会等による評価審議を受けることで、コンプライアンスの向上・定着に向けた取り組みの徹底と継続性を担保しています。

▼コンプライアンス推進体制



グループ会社・支社でのコンプライアンス推進

経営交流会議を中心にグループ全体でコンプライアンス向上に取り組んでいます

当社グループでは、経営交流会議をはじめとしたグループ全体で実施する各種会議において、[コンプライアンス](#)の向上を目指すための議論や情報交換を実施しています。

また、毎年10月をNEXCO西日本グループ企業倫理月間と定め、グループ社員全体のコンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。2017年度は、コンプライアンスの重要性について当社社長や各グループ会社役員等から社員に向けてメッセージを発信したほか、コンプライアンスアンケートや外部講師による各種講演会・講習会など、コンプライアンスを着実にグループ社員一人ひとりに浸透させるための取り組みを実施しました。



コンプライアンス講習会の様子

コンプライアンス通報・相談窓口の設置

社内外にコンプライアンス通報・相談窓口を設けています

公益通報制度として、法令、社内規程、さらには企業倫理等に照らして、グループ各社の業務運営や役員・社員の行動に疑問を感じた時などに、通報や相談を受け付ける「[コンプライアンス](#) 通報・相談窓口」を設けています。窓口は、社内窓口のほかに、外部窓口（弁護士）を4地区に設置し、広くグループ全体の案件に対応しています。通報や相談は、当社グループで働く従業者（契約社員、派遣労働者等を含む）その他の関係者のほか、当社と取引関係のある方からも受け付けています。

窓口の運用にあたっては、通報者及び調査協力者を保護するため、関係者の守秘義務の遵守を徹底するとともに、通報及び調査協力を理由とした不利益取扱いを禁止しています。

また、匿名通報の場合を除き、調査の結果を通報者に回答しています。

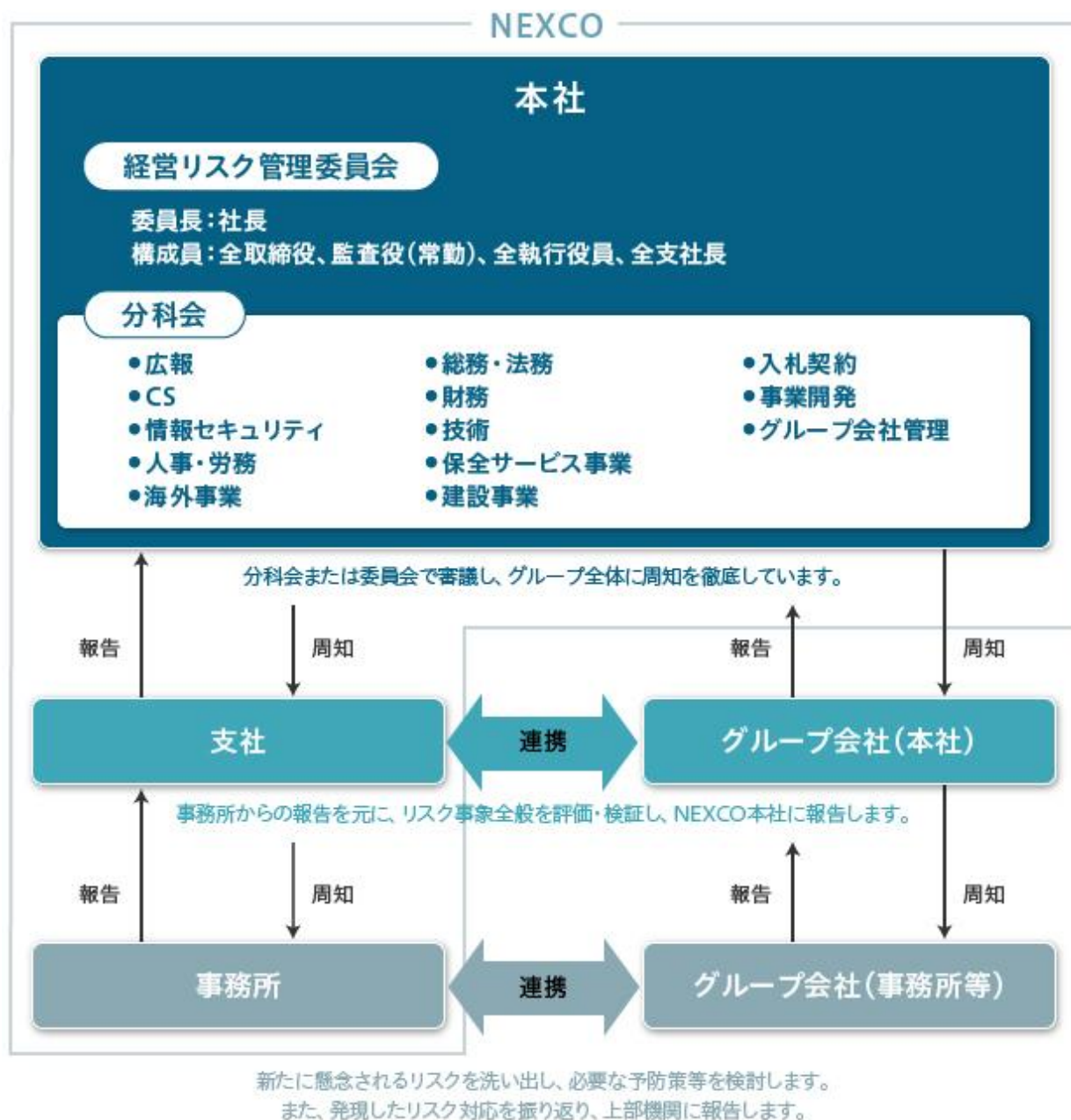
リスクマネジメント

リスクマネジメント

グループ全体でリスクマネジメントに取り組んでいます

各事務所においては、現場業務に関連するリスクの洗い出しなど自立的に[リスクマネジメント](#)に取り組む、経営リスク管理委員会においては、グループ全体のリスクの評価・見直しや、予防措置ならびにリスク発現時の対応状況の検証を行うなど、継続的なリスクマネジメント活動を推進しています。

▼リスク管理体制



工事の安全管理の強化に取り組んでいます

《重大事故リスクマネジメントシステムへの取り組み》

以下の3項目をマネジメントシステムの柱としてPDCA  を回し、工事の安全性を向上させる取り組みを実施しています。

○ 工事安全に関する社員教育の充実

リスク予見力などを向上させるため、実践的な研修を継続的に実施しています。

○ 重大事故リスクアセスメント

工事施工会社が策定する施工計画書に重大事故リスクに関する安全対策の記述を求め、受発注者合同で確認・共有を行い、工事の安全性を高めています。

○ 安全協議会活動の強化

現場の安全パトロールにおいて、重大事故リスクや施工計画の変更箇所等に関して重点的に確認しています。

また、安全協議会活動強化の一環として、各支社の安全協議会に「安全対策部会」、本社に「工事安全推進会議」を設置し、工事中事故の報告、事故対策の共有等の工事安全に関する取り組みを行い、全社的な工事安全レベルの向上を図る体制を構築しています。



受発注者での協議状況



受発注者で実施する安全パトロールの様子

情報セキュリティの強化

情報漏えい・システム障害対策とともに情報セキュリティ 意識の向上に取り組んでいます

情報漏えいを「しない」「させない」企業風土と安全なIT環境を確立するため、ソフト面の対策として「個人情報流出させない5か条」を各職場やパソコン画面に掲示し社員の意識向上に努めるとともに、定期的に情報セキュリティe-ラーニング及び標的型メール攻撃に対する訓練を実施して社員の意識向上に取り組んでいます。

また、ハード面の対策として、個人認証、アクセス制限などの不正アクセス対策及びウイルス対策、外部メール誤送信対策に加え、社内ネットワーク回線・機器のバックアップ体制を整えるなど、システム障害への対策も徹底しています。

本社、支社・事務所における情報セキュリティ推進体制を構築しています

「経営リスク管理委員会」内に設けられた「情報セキュリティ分科会」を中心に、社内における情報セキュリティのマスタープランの作成、実行、検証を行っています。

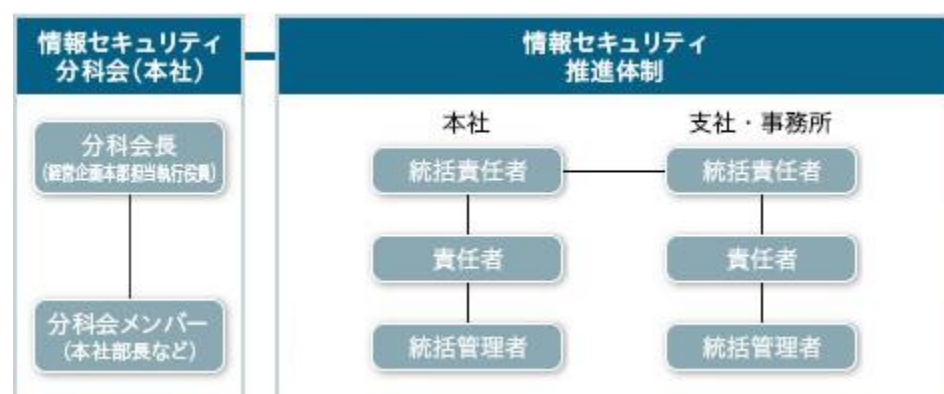
また、「統括責任者」を筆頭に、情報セキュリティ推進体制を構築し、各拠点における情報資産の安全かつ円滑な運用に努めています。

2016年度からNEXCO西日本およびNEXCO西日本グループ各社のメンバーによりサイバー攻撃対応チーム（CSIRT）を構築しました。

本チームは、NEXCO西日本グループにおけるセキュリティインシデント 対応にかかる初動対応マニュアルの整備やセキュリティ強化へ向けた対策の策定を行い、インシデントへ迅速かつ組織横断的に対応する体制の構築を目指しています。

定期的にCSIRTメンバーによる意見交換会や擬似訓練等を行うことにより、各社のインシデント事例を共有し、グループ各社でインシデント対応時の課題と改善点を共有することでグループ全体のセキュリティ対応力の強化に努めています。

▼情報セキュリティ推進体制



基本方針と推進体制

人権問題啓発推進会議を設置し、毎年活動を見直しています

当社グループでは、社会・社員の信頼に応えるべく、「人権問題啓発推進の基本方針」を制定して、当社グループが一丸となって人権尊重・人権啓発に取り組むことを宣言しています。また、本社及び支社に「人権問題啓発推進会議」を設置して、当年度の人権啓発活動を統括するとともに、次年度の活動計画を審議しています。

2017年度は各種社員研修の中で人権に関する講義を行ったほか、社内報（年3回）、メールマガジン（人権週間に集中的に5回）の発行を通じて、人権啓発活動に取り組みました。また、グループ会社に対しても、出張研修などを実施しました。

2018年度も引き続き、活動を継続していきます。

人権問題啓発推進の基本方針（NEXCO西日本グループ）

「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」（世界人権宣言）との認識のもと、私たちは、一人ひとりの人権を尊重し、あらゆる差別をなくすために人権問題の啓発に取り組み、企業としての社会的責任を果たしていきます。

- ・人権尊重の意識を常に持ち、誠実・公正に行動します。
- ・人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権意識の高揚を図るため、啓発活動を推進します。
- ・人権を尊重し、差別をしない、させない、許さない、見て見ぬふりをしない明るい職場づくりに努めます。

啓発活動

人権を尊重した明るい職場づくりに努めています

当社グループでは、人権を尊重し、差別をしない、させない、許さない、見て見ぬふりをしない明るい職場づくりに努めています。

部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消法）が施行されたことを踏まえ、2017年度は、あらためて同和問題（部落差別）の本質を解説した上で、なぜ法律が制定されたのか、その背景等から現在の人権課題等をふりかえる研修会を実施し、企業が人権に取り組む必要性などについて理解を深めました。

1

特集

高速道路 ネットワークの 機能強化

建設事業中延長

81km

2017年度開通延長

46km



新名神高速道路建設の状況
宇治田原第一高架橋

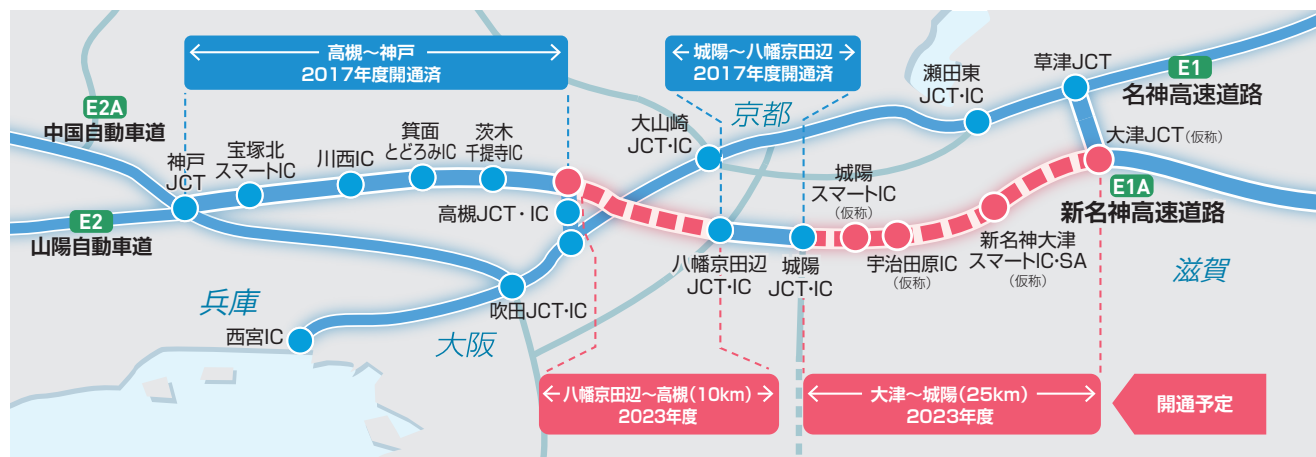
ネットワークの機能強化について

1963年の栗東IC～尼崎ICの開通以来、日本の産業と社会を支えてきた名神高速道路を多重化し、日本の大動脈である高速道路の信頼性を格段に高めるべく、「未来につなぐ信頼の道」新名神高速道路の整備を進めています。

この区間が整備されることで、高速走行による所要時間の短縮、時間信頼性の向上、事故・災害時における代替路の確保といった効果が期待されます。

新名神高速道路開通時期

新名神高速道路では、2017年度に城陽JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC間、高槻JCT・IC～神戸JCT間が開通するなど、着実に整備が進んでいます。引き続き全線開通に向け、安全に最大限留意しつつ、事業を進めていきます。



事業進捗状況

新名神高速道路の大阪JCT（仮称）～城陽JCT・IC間、八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC間については、現在道路用地の調査を実施し、用地取得及び工事に着手するなど地元の皆さまのご理解をいただきながら、着実に事業を進めています。

八幡京田辺 ～ 高槻

大阪府枚方市域において、淀川に架かる橋梁工事や土工工事に着手しています。



淀川橋完成イメージ図
※細部については変更になる可能性があります

TOPIC

ヨシの生育環境保全の取り組み

専門家との検討会を踏まえ保全活動を推進しています

大阪府高槻市の淀川河川敷「鶴殿ヨシ原」には、雅楽の楽器である箏篋に用いられる貴重なヨシが自生しています。当社は、ヨシの生育環境の保全を図るため、植物学や地下水の専門家などによる検討会を設置し、各種調査や、ヨシの枯死の原因となる植物の除去などを実施しています。今後も、環境保全と事業の両立を図りながら、建設工事を進めていきます。



新名神沿線の淀川では、ヨシの生育環境の保全に取り組んでいます



箏篋（ひちりき）

大津 ～ 城陽

滋賀県大津市域においては工事用道路の工事に着手しています。京都府宇治田原町域及び城陽市域においては、高速道路本線の工事に着手しています。



大津市域における工事の様子

TOPIC

田上山の緑の保全への取り組み

専門家と田上山の緑に配慮した道路構造を検討しています

新名神高速道路（滋賀県域）が横過する田上山は、寺社仏閣の建築材料や燃料材のための乱伐等で森林が荒廃し、過去幾多の土砂災害をもたらしてきました。そのため、砂防事業として明治以降100年以上の歳月をかけ植林を行い、田上山の緑を取り戻しました。

当社は、この砂防事業に配慮した道路構造とするため、専門家との検討会を開催しております。また、砂防事業を後世に伝える田上山砂防協会主催の「卒業記念植樹」に2015年から参加し、苗木等も提供しています。



地元小学生による卒業記念植樹の状況



新名神大津事務所 所長
池 聖

行政や地域の皆さまと一体となって事業を推進しています

当事務所は、新名神高速道路の大阪JCT～滋賀・京都府県境までの12.2kmの建設事業を担当しております。現在、用地は約9割取得し、工事用道路工事は3件着手しそのうち1件が竣工しました。本線工事は1件着手済で、3件が現場着手に向けて準備中です。

特に、当該区間に整備される新名神大津スマートIC・SAについては、大津市南部地域の産業や観光の活性化が見込まれるため、地域の皆さまの関心も高く、地域行政が主体となり地域活性化委員会も設置され、事業に対する期待を感じております。

また、地域の皆さまとの交流を図るため地域イベントに積極的に参加し、高速道路事業のPR活動を行っております。これからも皆さまへのご期待に応えられよう、2023年度開通を目指し、安全を最優先に行政・地域と一体となって事業を進めてまいります。

1

特集

高速道路 ネットワークの 機能強化

並行する名神高速道路・
中国自動車道の渋滞回数

約 **9** 割減少



災害時の代替路確保

名神高速道路や中国自動車道とのダブルネットワークで
災害時のリスク分散が可能に

神戸JCT

E2 山陽自動車道

E1A 新名神高速道路

川西IC

宝塚北スマートIC

宝塚西・東トンネル

E2A 中国自動車道

主要渋滞区間

西宮IC



渋滞の減少

並行する名神高速道路と
中国自動車道の渋滞回数が **約9割減少**

新名神高速道路開通に伴う整備効果

2018年3月18日、川西IC～神戸JCT間が開通し、
これにより新名神高速道路高槻JCT・IC～神戸JCT間が全て開通しました

高速道路の開通によってもたらされる効果としては、周辺道路へのアクセス性が向上するだけでなく、所要時間の短縮、物流の効率化による地域活性化など、様々な整備効果をもたらします。

新名神高速道路開通により、現在供用中の名神高速道路・中国自動車道とのダブルネットワークが形成されたことで、全国でも有数の渋滞ポイントであった中国自動車道の宝塚西・東トンネル周辺の渋滞が大幅に減少しました。これにより、定時性が向上し、人やモノの流れが一層効率化します。また、沿線では、物流企業の新規立地が加速化しており、物流サービスの向上に加え、地域雇用の増大等、目に見える効果も出てきています。



開通パレードの様子



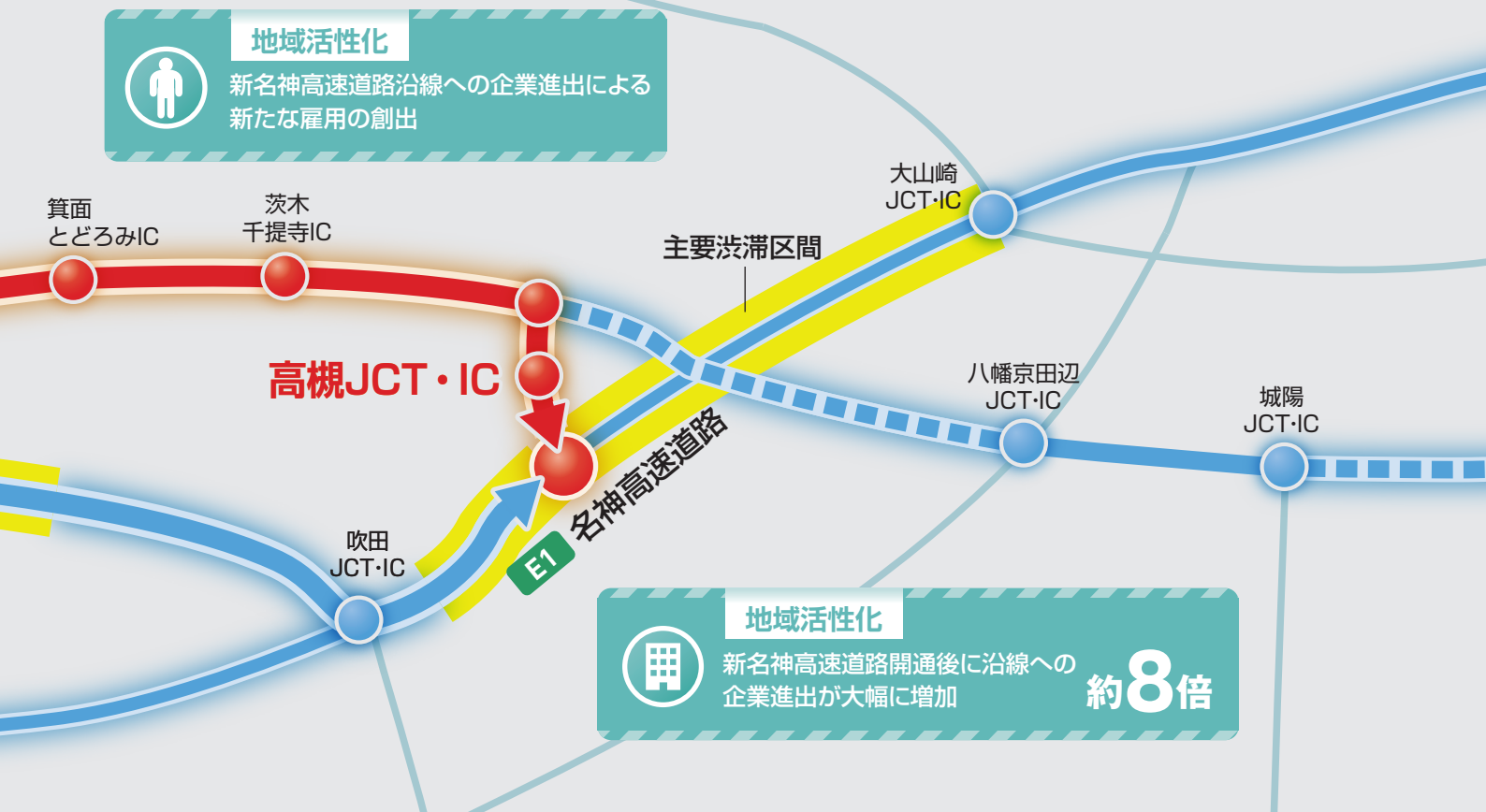
猪名川町企画総務部 部長
古東 明子 様

新名神開通の効果をまちづくりに最大限活用していきます

猪名川町は、兵庫県南東部に位置する人口3万2千人の町です。大阪府や京都府との府県境に位置する立地から、通勤、通学、観光などの交流がありましたが、新名神が開通し、さらに広域アクセスの利便性が高まることで、一層の交流が進んでいると実感しています。

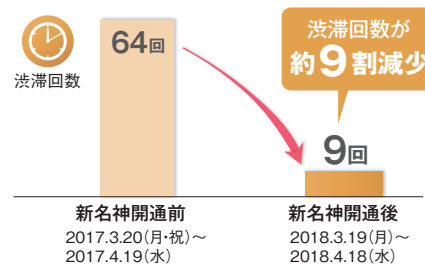
最寄りの川西ICまでは、約3kmと利便性の高まった猪名川町では、新名神開通の効果を移動手段の充実だけでなく、まちづくりに活かすべく「猪名川町産業拠点地区」を整備し、物流施設の集積拠点となる「プロロジス猪名川プロジェクト」が始動しています。その他、年間70万人が訪れる「道の駅いながわ」の機能拡充の検討も行っており、市街地に近く川西ICへのアクセスも良い場所への移設も計画しています。

新名神開通で、より便利になった猪名川町へお越しいただき、猪名川町の魅力を楽しんでもらいたい、そして将来の移住、定住に繋げていけるよう新名神とともにまちづくりを進めていきます。



並行する名神高速道路・中国自動車道の渋滞の減少

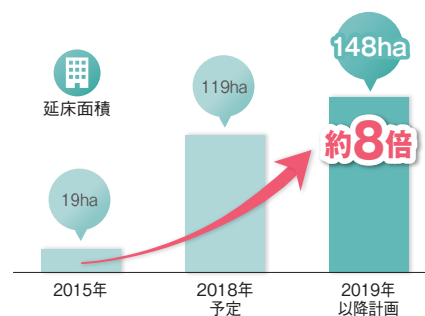
新名神高速道路高槻JCT・IC～神戸JCT間の開通によって、並行する名神高速道路・中国自動車道（高槻JCT・IC～神戸JCT間）の渋滞回数※は約9割減少しました。また、最大渋滞長は約4割減少しました。
※渋滞回数：速度40km以下の状態が、1km以上かつ15分以上継続した状況で最大渋滞長が5km以上を集計



■ 並行する名神・中国道の渋滞回数

沿線への企業進出及び雇用の増加に伴う地域活性化

新名神高速道路開通に伴い、沿線では物流施設等の立地が進んでおり、この5年間で物流施設の延床面積が約8倍になることが予定されています。それにより、今後更なる物流の円滑化、雇用の創出が期待され、地域活性化に寄与していくことが期待されます。



■ 新名神沿線における物流施設の進出状況

災害時の代替路確保

新名神高速道路開通に伴い、国土軸のダブルネットワークが形成され、災害時のリスク分散が可能となります。仮に名神高速道路や中国自動車道が被災を受けた場合においても、新名神高速道路から一般道を利用して沿線地域への緊急輸送や復旧活動に寄与します。



阪神淡路大震災時における
高速道路損傷状況

2

特集

高速道路の 長期保全

リニューアルプロジェクト事業費

1.1 兆円

リニューアルプロジェクト着手

2015年度より



床版取替工事の状況 中国自動車道 大峰橋



高速道路リニューアルプロジェクト

現在、NEXCO 西日本が管理する高速道路は約 3,500km に達しており、その約 4 割が開通から 30 年を超え、老朽化が進んでいます。そのため当社では、道路ネットワークの機能を長期にわたって健全に保つため、橋梁やトンネルなどの構造物をリニューアルする、「高速道路リニューアルプロジェクト」を進めています。

高速道路リニューアルプロジェクトの主な工事内容



床版取替工事

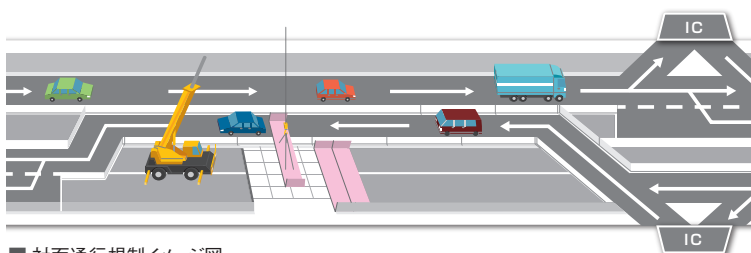
大型車の繰り返しの荷重や凍結防止剤の影響により、鉄筋が腐食したり、床版の劣化が進行しています。

床版取替工事では、劣化した床版を撤去し、工場で製作したより耐久性の高い床版をクレーンで架設し、取り替えていきます。

工事では、4 車線（片側 2 車線）のうち、2 車線を通行止めとし、残りの 2 車線を対面通行として実施するなど、交通を確保したうえで施工しています。



床版取替工事（左：施工前、右：施工後）



■ 対面通行規制イメージ図

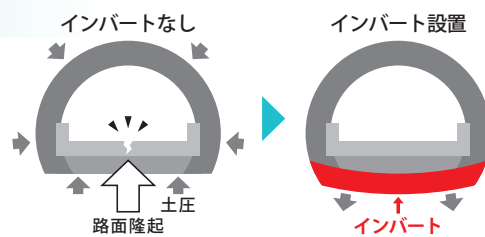


トンネル修繕工事

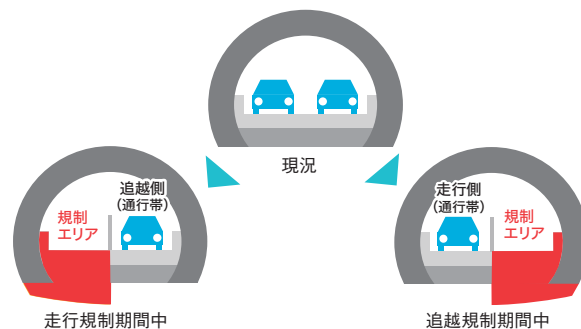
山の土質によっては、長い年月で地盤が緩み、トンネルの路面が押し上げられる場合があります。そこで、「インバート」と呼ばれるコンクリートを設置することで、トンネルをリング状の強い構造とする「インバート設置工事」を進めていきます。

2018年4月から、高知自動車道南国IC～大豊IC間の明神トンネルにおいて、インバート設置工事を実施しています。

この工事では、お客さまへの影響を最小限とするため通行止めは行わず、車線を切替えながらインバート設置を半分ずつ進めていきます。



■ インバート設置のイメージ図



■ 通行規制イメージ図



グラウンドアンカー設置工事

切土のり面では、地表付近の構造物と地盤を連結することによって、のり面の安定性を高めるグラウンドアンカーを設置している場合があります。グラウンドアンカー設置工事では、追加のアンカーを設置することで、のり面の安定性を向上させています。



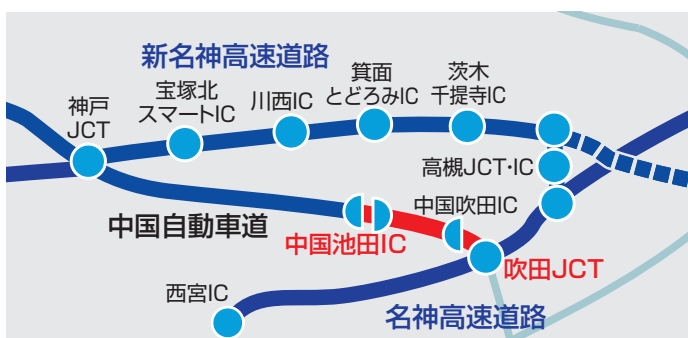
グラウンドアンカー設置工事（左：施工前、右：施工後）

高速道路リニューアルプロジェクトの今後

高速道路リニューアルプロジェクトは、今後西日本全体で進めていきます。関西の都市圏においても、中国自動車道 吹田JCT～中国池田IC間において先行的に着手していきます。

中国自動車道 吹田JCT～中国池田IC間は、複数の鉄道や主要道路と交差または並行するとともに、高速道路高架下に公園など様々な物件も多く存在するなど、これまで以上に各関係機関との綿密な協議調整、連携によって社会的影響をいかに最小限にしていくかが重要なポイントとなってきます。

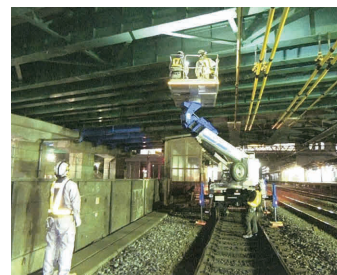
新名神高速道路（高槻JCT・IC～神戸JCT）が全て開通したことで、当該箇所の交通量の一部転換が図られていることや、当該区間は阪神高速道路と高速道路ネットワークを構成していることから、阪神高速道路株式会社と協力してリニューアルプロジェクトを進めることにより、お客様への影響を最小限に施工する方法を検討していきます。



リニューアルプロジェクト先行着手箇所



鉄道及び重交通路線と近接する区間



鉄道交差箇所における橋梁点検(イメージ)

高速道路の 長期保全

2017年度
耐震補強工事発注橋梁数

118橋



耐震補強の推進

高速道路は、地震等の自然災害の発生時に、人命救助や災害応急対策に必要な物資や資機材などを広域的に緊急輸送するための、極めて重要なインフラと位置付けられています。当社では災害に強い道路を目指して、橋梁の耐震補強を実施しています。

熊本地震の被災状況を踏まえたロッキング橋脚の耐震補強

熊本地震発生前までの橋梁の耐震補強については、兵庫県南部地震と同程度の地震に対して、落橋・倒壊等の致命的被害を起こさないレベルの対策を実施してきました。

熊本地震では、前震と本震の2度の大きな地震が起こったことが原因となり、特殊な構造であるロッキング橋脚を有する、高速道路を跨ぐ府領第一橋が落橋し、長時間高速道路を寸断することとなりました。そのため、当社ではロッキング橋脚を有する橋梁について、優先的に耐震補強を実施しています。



府領第一橋（落橋した直後の様子）



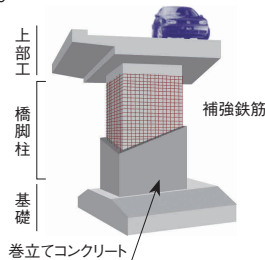
名神高速道路 島田橋（左：補強前の橋脚、右：補強後の橋脚）

更なる耐震補強の加速化

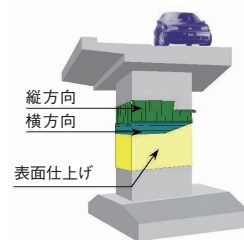
ロッキング橋脚を有する橋梁の補強に加えて、その他の橋梁についても、大規模地震の発生確率などを踏まえ、落橋・倒壊の防止対策に加え、路面に大きな段差が生じないように、橋脚の補強や支承の交換等を行う耐震補強対策を進めていきます。

① 橋脚の補強

橋脚について、鉄筋コンクリートや炭素繊維シート等で巻立て補強することにより、橋脚の強度を高めます。



鉄筋コンクリート巻立て工法



連続繊維シート巻立て工法

② 支承の交換または補強

支承（橋桁等の上部構造と橋脚等の下部構造の間に設置する部材）について、地震による揺れが橋桁に伝わりにくくするために、柔らかく、エネルギー吸収性能が高いものに取り替えることで、地震による衝撃を緩和します。



支承交換（左：施工前、右：施工後）



③ 落橋を防ぐ構造に改良

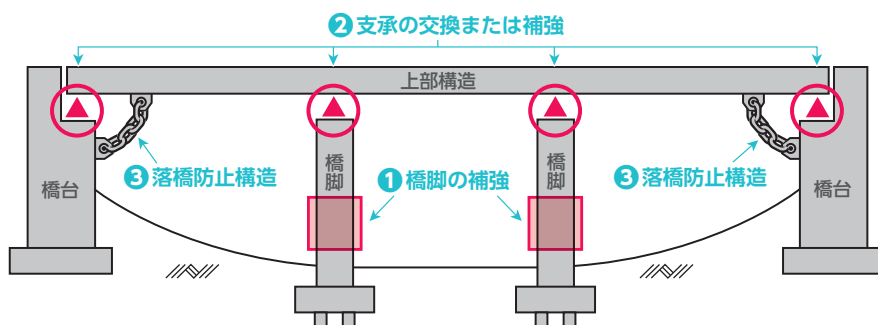
橋桁と橋台を連結することや、橋桁同士を連結することで、地震によって橋桁が落下することを防止します。



落橋防止装置設置（左：桁同士、右：橋台と桁）



耐震補強
イメージ図



和歌山高速道路事務所 所長
村井 茂

南海トラフ巨大地震など大規模災害時の『命の道』としての役割を担っています

和歌山県は、南海トラフ巨大地震で予測される最大震度は震度6弱～7（内閣府公表）とされています。また、最新の全国地震動予測地図（地震調査研究推進本部公表）では、今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が26%以上の範囲に入っている地域があります。

和歌山県の主要幹線道路は、国道42号と阪和自動車道・湯浅御坊道路の2路線です。国道42号は沿岸部を通過し、南海トラフ巨大地震時には津波により被害は甚大になることが予想されています。一方阪和自動車道・湯浅御坊道路は、国道42号と並行する形で山間部を通っており、津波等の被害を受けにくく、緊急時の輸送路、『命の道』としての役割を担っています。

しかし、阪和自動車道・湯浅御坊道路は、巨大地震に備えた対策工事が必要な橋梁があり、橋脚の補強、支承の交換、落橋防止構造の設置等による耐震補強を進めています。引き続き耐震補強を推進し、『命の道』を担う災害に強い道路を目指していきます。

3

特集

高速道路の 新技術

NETIS※1 登録技術

31件※2

所有特許件数

82件※2

NEXCO3社の
共有知財を除く

※1 公共事業等における新技術情報提供システム
※2 2017年12月末時点



赤外線調査トータルサポートシステム(Jシステム)

新たな技術や研究開発の推進

高速道路の点検から補修に至る業務の高度化、効率化、長期耐久化により、当社グループは高速道路におけるリスクの低減、構造物診断の精度向上、限られた人材の中での最大限の生産性向上などに資する技術開発を進めています。

点検の高度化・効率化を展開するNEXCO西日本の技術開発

■コンクリート壁面高解像度画像撮影システム (Auto CIMA System)

高解像度のデジタルカメラで橋梁床版の下面等を撮影し、撮影画像からひび割れを自動で判別、図化する技術です。近接目視が困難な高橋脚や長大橋であっても、遠方からの撮影で状態を確認することができます。

特徴

- ・電動雲台付きのデジタルカメラで自動撮影
- ・超高精細な展開画像を自動作成



前回画像



今回画像



ひび割れの進展(赤線部)



Auto CIMA Systemを使った点検の様子



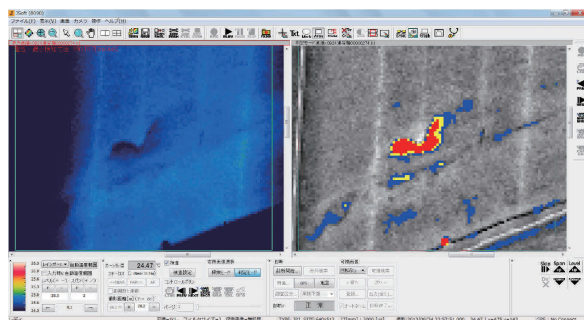
- ・0.2mm以上のひび割れを自動検出
- ・変状の経年変化を定量的に把握

箱桁橋の内部等の狭くなっている箇所は小型ビデオカメラ(Walk CIMA)により対応

■赤外線調査トータルサポートシステム(Jシステム)

コンクリートの浮き・剥離などの変状部分は、健全部分とコンクリートの表面温度が異なります。この温度差を赤外線カメラを用いて感知し、変状箇所を特定するシステムです。

本システムはコンクリート構造物の非破壊検査技術として国からも評価され※、今後の点検技術の高度化技術として注目されています。



変状箇所特定のイメージ

※「次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会橋梁維持管理部会」より、「試行的導入に向けた検証を推奨する」と最高位の評価を得ています。またNETISより、「活用促進技術」に指定されました。

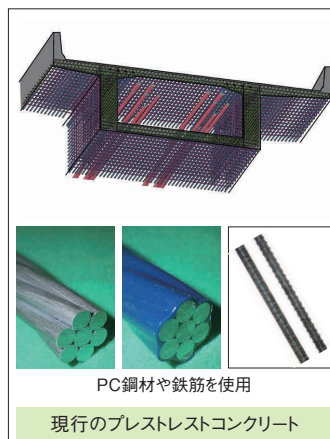
腐食しない新材料を用いた超高耐久橋梁にチャレンジ

■劣化を防ぐ橋梁や床版の開発

高速道路橋は、経過年数に伴う老朽化だけでなく様々な要因で劣化していきます。

主な劣化の原因として、橋梁に使われている鉄筋やPC鋼材などの鋼部材の腐食です。そこで、当社は三井住友建設株式会社と共同で鋼部材を一切用いず、腐食しないアラミドFRPロッドや高強度鋼繊維を使用した超高耐久橋梁 (Dura-Bridge) や、超高耐久床版 (Dura-Slab) を開発しました。

点検が不要なメンテナンスフリーの技術開発にも取り組んでいます。



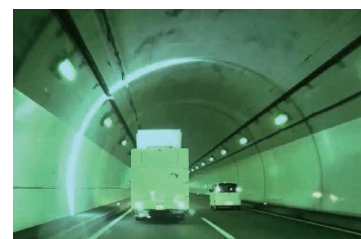
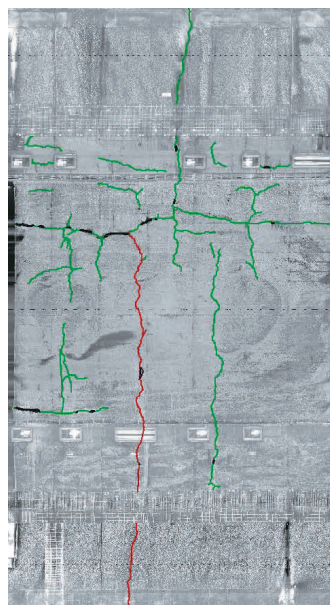
高速道路技術の他事業への展開

■「eQ ドクター T」によるトンネル覆工点検

「eQ ドクター T」は、超高解像度のトンネル覆工面撮影技術、覆工面展開図の自動貼り合わせ技術、自動ひび割れ抽出技術により、覆工コンクリートの状況をより高精度に確認するためのトンネル覆工点検システムです。

最高速度100km/hで走行する車両からトンネル覆工を撮影し、撮影した画像から自動でひび割れを抽出してデジタル図面化することが可能です。

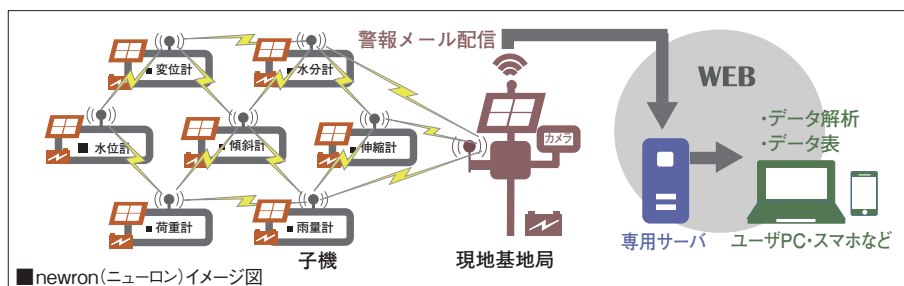
この度、西日本旅客鉄道株式会社と「eQ ドクター T」の技術を活用して、新たな「新幹線用トンネル覆工表面検査システム」を共同開発することになりました。今後も、このような高速道路以外の事業者との連携した取り組みを行い、広く社会に貢献していきます。



大学との連携によるオープンイノベーションの取り組み

■斜面防災技術の高度化に関する研究開発

無線センサを活用し、あらゆる構造物を常時監視するシステム「newron (NEXCO West Real-time Observation Network)」を、大阪大学と連携して共同開発を行い、実用化を進めています。高速道路上で発生した土砂災害の中で突出して多いのが、降雨による斜面の崩壊です。本システムは設置・撤去・メンテナンスが容易な無線センサで斜面の土中水分や地下水位などをモニタリングするものであり、IoT技術を活用して高速道路構造物の常時監視を可能とするものです。現在、本システムを新名神高速道路(高槻JCT・IC～神戸JCT)に設置し試行しています。



4

特集

お客さま サービス向上

SA・PAの数

188カ所

※第三セクターの運営を除く有人の営業施設

インフォメーション

68カ所

※第三セクターの運営を除く



高速道路のお客さまと 地域の皆さまに愛されるSA・PAを目指して

NEXCO 西日本では、快適な休息をご提供できるよう地域の特性を活かした店舗づくりや品揃え、清潔感と快適性を備えたトイレづくり、駐車場の確保などを心がけ、高速道路のお客さまと地域の皆さまにくつろぎ、楽しさ、にぎわいを実感していただける空間を提供していきます。

西日本最大級のSAが新たに誕生！～宝塚北SA～

宝塚北サービスエリア
TAKARAZUKA-KITA



2018年3月18日に新名神高速道路（川西IC～神戸JCT間）が開通し、新たに西日本最大級の店舗と駐車台数を有する上下線集約型の『宝塚北SA』が誕生しました。宝塚らしさ満載の同SAについて紹介します。

地域の特性を活かした店舗

宝塚市中心部の南欧風の景観をイメージした外観、宝塚歌劇グッズや宝塚が生誕地である手塚治虫のキャラクターグッズの販売、イベント開催など、地域の魅力を発信し、ご来店いただいたお客さまに宝塚らしさを満喫していただける施設となっております。



宝塚歌劇グッズの展示でお出迎え



手塚治虫のキャラクターグッズ販売



宝塚歌劇団OGによるショー

地元食材を使用したお食事メニューの他、西日本の高速道路で初出店となる店舗や、関西の名産品の販売など多種多様な品揃えでお客さまをお待ちしています。



「西谷食堂花ぐるま」丹波黒どりの親子丼



西日本の高速道路では初出店となるスイーツブランド「yogorino(ヨゴリーノ)」



自家製天然酵母を使用したナチュラルベーカリー「森のパン」

快適な休息をご提供する取り組み

■多様なニーズにお応えするトイレ

空きブースが一目でわかる「パノラマ配置」を採用しており、混雑時にも円滑・快適にご利用いただくことができます。また、様々な用途に応じたトイレ（ファミリートイレなど）、パウダーコーナー、トイレの待合スペースの設置など、お客さまの様々なニーズにお応えするとともに、清潔感とくつろぎを感じられるようデザインにもこだわりました。



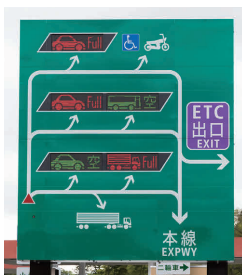
空きブースが一目でわかるトイレ



(上)パウダーコーナー
(下)ファミリートイレ

■駐車場混雑状況のご案内

駐車場には西日本のSA・PAでは初となる場内誘導表示板を入口に設置し、駐車場内の混雑状況をお知らせし、お客さまのご不便を解消する取り組みを行っています。



誘導表示板の例

TOPIC

身障者用大型駐車マスの設置



大型バスで来られる身障者の方が安全に利用していただくため、店舗等の近くに屋根付きの駐車マスを設置しています。

地域に開かれたSA

ウェルカムゲート

一般道からも出入りできるゲートを設け、高速道路をご利用のお客さまのみならず、地域の皆さまにもSAをご利用いただける取り組みを行っています。

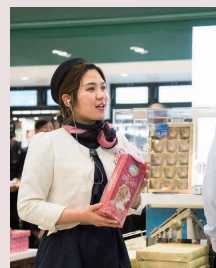


光明興業株式会社
宝塚北SA
コンシェルジュ
板橋 佳慧

お客さまが「お宝」を見つけていただけるような、きめ細かな接客サービスを心掛けています

私たち宝コンシェルジュは、周辺観光情報やおすすめのお土産のご紹介のほか、お昼の混雑時にはフードコートの空席のご案内、SA内おすすめ写真スポットのご紹介など、お客さまのあらゆる要望を承り、一人ひとりに応じたきめ細かいサービスをお届けすることを目標に日々取り組んでおります。

宝塚北SAは「ハイウェイの宝島」として、エリア内の様々な場所で「お宝」をご用意しております。中でもお土産コーナーでは、地元宝塚をはじめ関西各地のお土産を幅広く取りそろえるとともに、宝塚ゆかりの手塚治虫先生のグッズを豊富に取りそろえ、みなさまをお待ちしております。私たち宝コンシェルジュをはじめとするスタッフ全員が、お客さま一人ひとりの「お宝」を見つけられるよう、お手伝いさせていただきます。



WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

交通安全の取り組み

交通安全の確保



交通安全対策アクションプラン

- ▶ ハード・ソフト両面の交通安全対策を継続しています **WEB**

逆走対策

- ▶ 関係機関と連携して、2020年までに高速道路での逆走事故ゼロを目指しています

対面通行区間での正面衝突事故対策

- ▶ ラバーポールに代えてワイヤロープを設置することによる安全対策を行っています

さまざまな交通安全対策

- ▶ 水しぶきが減り、すべりにくい高機能舗装 **WEB**
- ▶ 夜間や雨天時の視認性を向上させる高輝度レーンマーク **WEB**
- ▶ 走行速度を抑制する導流レーンマーク、薄層舗装 **WEB**
- ▶ カーブ区間での安全対策の強化 **WEB**

DRIVE&LOVE

- ▶ 企業・団体や個人と連携し、交通事故ゼロを目指す活動を推進しています **WEB**

高速道路交通の管理



高速道路のパトロール

- ▶ 24時間365日の巡回を通じて、道路の安全と円滑な交通を確保しています

快適な高速道路空間の提供

交通渋滞の緩和



交通容量の確保

- ▶ ソフト・ハード両面の渋滞緩和対策を推進しています [WEB](#)

一部拡幅工事・ネットワーク強化

- ▶ 阪和自動車道や京滋バイパスの一部拡幅工事などに取り組みました [WEB](#)

渋滞予測情報の提供

- ▶ さまざまな媒体を通じて渋滞予測情報の提供に努めています

道路交通情報



道路管制センター

- ▶ 情報の集約・発信基地としてお客さまの安全確保に努めています

ウェブサービス「アイハイウェイ」

- ▶ 高速道路の交通情報が事前にチェックできるサービス「アイハイウェイ」を提供しています [WEB](#)

お客さまサービスの向上



料金所での接客サービスの向上

- ▶ おもてなしの心をもって接客対応します

ETCの利便性向上

- ▶ 入口ETCレーンの複数設置を進めるとともに第二世代ETC導入を進めています [WEB](#)

CS推進本部会議

- ▶ 経営層が参加する会議で、お客さまのご意見から課題を抽出し、解決策を検討しています [WEB](#)

お客さまセンターでの対応品質の向上

- ▶ 総合的な相談窓口として、正確、親切、さわやかな対応を基本に、24時間365日体制で対応しています

お客さまの声の状況

- ▶ 約42万件のお客さまの声をいただきました [WEB](#)

お客さまの声による改善状況の紹介と信頼関係の強化

- ▶ お客さまのご意見・ご要望を事業の改善に活かしています [WEB](#)

CS推進オピニオンリーダー意見交換会

- ▶ 意見交換会を開催し、各界の有識者から意見をお聞きしています [WEB](#)

CS（お客さま満足）の向上

- ▶ CS向上のため、研修やCS推進大会などを実施しています [WEB](#)

SA・PAのお客さま満足施設への変革

SA・PA店舗のリニューアル



九州自動車道山川PA（上下線）

- ▶ 熊本地震を乗り越え、地域産品を活かし、生まれ変わりました

希少な地域食材を使用した商品展開



『銀不老かりんとう』

- ▶ 希少な食材を活かした商品を西日本各地で販売しています

地域の賑わい拠点



ウェルカムゲート

- ▶ 地域の皆さまにもご利用いただき、愛されるSA・PAを目指しています

イルミネーションの実施

- ▶ SAを『ウインターイルミネーション』で彩りました **WEB**

ドライブの拠点機能



インフォメーション

- ▶ 快適で楽しく、安全なドライブをサポートしています

インバウンド関係

- ▶ 訪日外国人ゲストが安心して利用できる環境を順次整えています

Wi-Fi サービス

- ▶ 快適にインターネットや動画などのコンテンツをお楽しみいただけます

シャワーステーション

- ▶ シャワーステーションを設置しています **WEB**

交通安全の確保

交通安全対策アクションプラン

ハード・ソフト両面の交通安全対策を継続しています

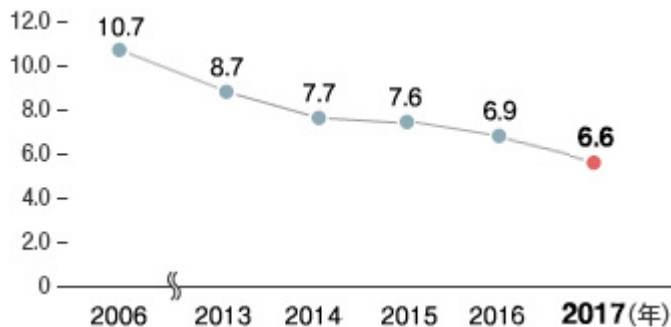
2011年度に策定した「交通安全対策アクションプラン」を軸に、ハード・ソフト両面から交通安全対策を強化しています。

ハード面では、視認性向上・速度抑制などの対策を、2016年度末までに管内391カ所で完了し、さらに2017年度に管内68カ所で追加対策を実施しました。

ソフト面では、ETC 2.0などのプローブ情報から車両の挙動や速度を算出し、ヒヤリハット箇所の抽出や旅行時間の精度向上などにつなげ、より高精度な情報提供に向けて取り組みを継続しています。

これらの結果、死傷事故率は、NEXCO西日本設立直後の2006年の10.7件／億台kmから2017年は6.6件／億台kmと全体的に減少傾向にあります。今後、「アクションプラン」の効果を検証し、さらなる安全の実現に努めていきます。

▼高速道路の死傷事故率



逆走対策

関係機関と連携して、2020年までに高速道路での逆走事故ゼロを目指しています

インターチェンジや休憩施設等から本線への合流部でのUターンを抑制するため、注意喚起の矢印板や標識などの設置、路面に進行方向を示す矢印を標示するなどの対策を実施しており、2017年度に管内の全ての箇所で対策を完了しました。

更に一般企業等より下表の各テーマに沿った新たな逆走対策技術を2016年度に公募し、そのうち27技術について2017年度に検証を行い、今後の実用化方針を定めました。

また、ポスターやチラシ、交通安全キャンペーンを活用した啓発活動も実施しています。

- ▶ テーマⅠ・・・道路側での逆走車両への注意喚起をする技術
- ▶ テーマⅡ・・・道路側で逆走を発見し、その情報を収集する技術
- ▶ テーマⅢ・・・車載機器による逆走車両への注意喚起をする技術

対策例

■一般的なIC、JCT、休憩施設の分合流部



休憩施設入り口部での逆走対策例

対面通行区間での正面衝突事故対策

ラバーポールに代えてワイヤロープを設置することによる安全対策を行っています

重大事故につながりやすい対面通行区間での高速道路の正面衝突事故の緊急対策として、2017年度に一部区間でワイヤロープの試験設置を行い、安全対策の検証を行いました。

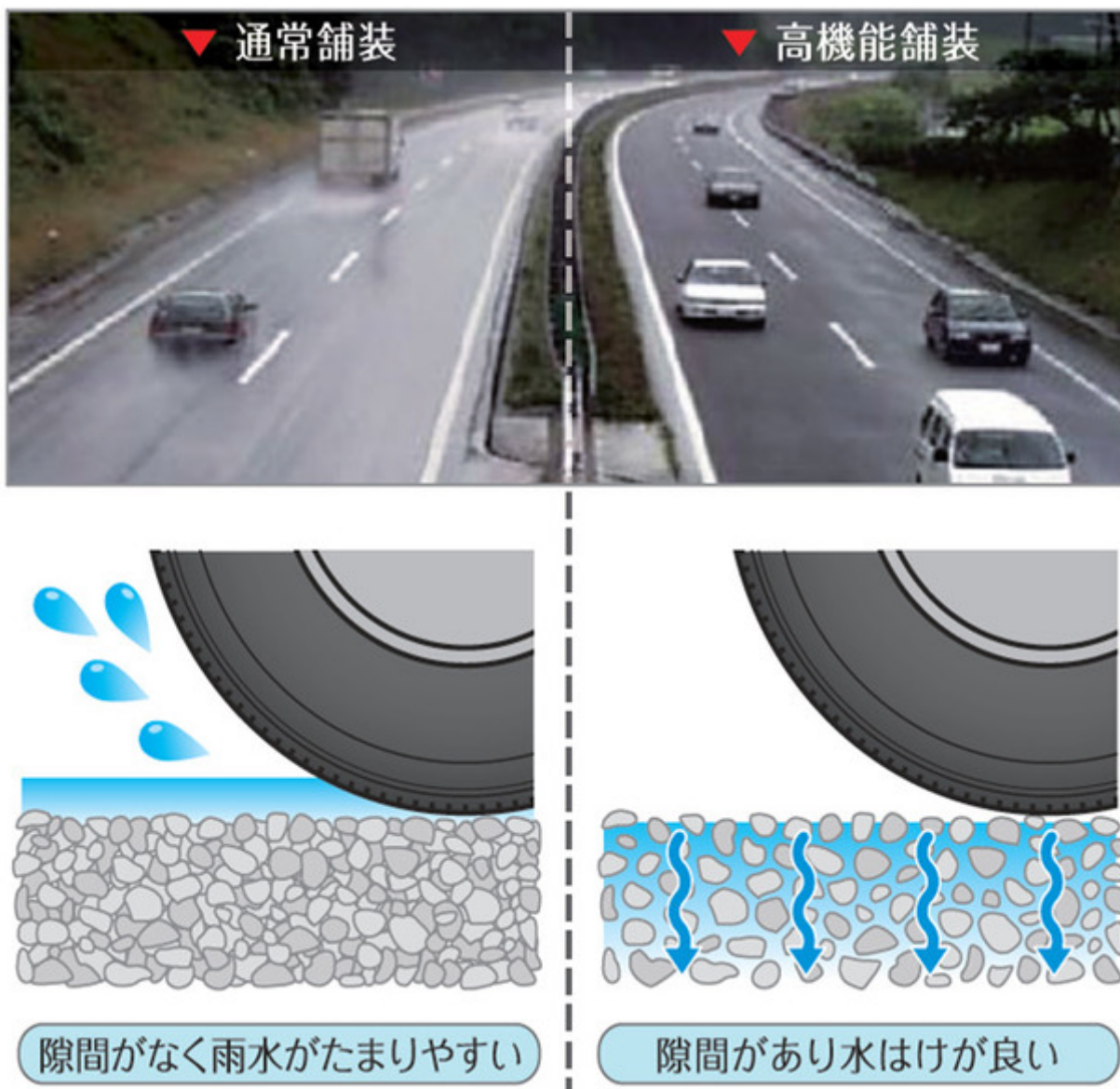
その結果、正面衝突事故防止に大きな効果が認められたことから、残りの対面通行区間について2018年度より設置を進めていきます。



ワイヤロープの設置状況

水しぶきが減り、すべりにくい高機能舗装

高機能舗装は一般的な舗装に比べ、車が巻き上げる水しぶきが減り視認性が向上します。また、**すべり摩擦係数** μ が高くなるため、雨天時の走行安全性の向上や交通事故の防止にも有効です。



夜間や雨天時の視認性を向上させる高輝度レーンマーク

一般的なレーンマーク（路面標示）よりも反射輝度が高い「高輝度レーンマーク」によって、夜間や雨天時の視認性を向上させることで、車両逸脱を抑制する注意喚起を行っています。



高輝度（凹凸）レーンマーク

走行速度を抑制する導流レーンマーク、薄層舗装

車線の幅を狭く見せる効果のある導流レーンマークによって、速度抑制を促しています。また、舗装表面に塗装によるわずかな段差を設け、走行車両に振動を与える薄層舗装 [📌](#) によって、漫然運転を抑制する注意喚起を行っています。



路面の横断している赤色部分が薄層舗装

カーブ区間での安全対策の強化

カーブ区間などの道路線形を路面標示等によって事前にお知らせし、速度抑制および視認性向上を図ることで、カーブ区間における事故防止対策を強化しています。



矢羽板や路面標示の施工例

幅広い企業・団体や個人と連携し、交通事故ゼロを目指す活動を推進しています

社会全体で交通事故ゼロを目指すプロジェクト「[DRIVE&LOVE](http://drive-love.jp)」を2010年に立ち上げ、279の賛同企業・団体、約26,800名の個人サポーター（2018年6月末時点）の皆さまとともに、安全運転の実践を呼びかけています。



2016年度は、「ねむけざましたいそう」動画のYou Tube公開、またドライバーが手軽にできる「ねむけざましストレッチ」シートを制作し、NEXCO東日本・中日本の協力を得て全国のSA・PAに配置しました。さらに2017年度は活動のキャッチフレーズを「笑顔の運転」という“より日常語に近いもの”に変更しました。

このほか、各種交通安全啓発イベントへの参加、公式ウェブサイトでの情報発信、賛同企業・団体との交流会の場で「得意分野を生かしたPR協力」を依頼するなど、プロジェクトの認知の拡大・理念の浸透を推進し、安全運転を実践していただく個人サポーターのさらなる獲得に向けて活動しました。



ねむけざましたいそうキャラバン



プロジェクトメンバー交流会

関連ページ

- ▶ [「DRIVE&LOVE」公式ウェブサイト](http://drive-love.jp)
- ▶ [安全・快適ドライブ（ドライバーの皆様へ）](#)

高速道路交通の管理

高速道路のパトロール

24時間365日の高速道路巡回を通じて、道路の安全と円滑な交通を確保しています

道路の安全と円滑な交通の確保を図るため、交通管理隊が高速道路を24時間365日体制で巡回しています。

交通管理隊が収集・把握した渋滞の発生状況や気象情報などは道路管制センターで集約し、情報板などを通してドライバーに迅速に発信しています。

また、路上障害物が発生した際は、緊急出動して排除にあたるほか、警察・消防と連携した事故対応、故障車に対する援助などを通じて、お客さまの安全で快適なドライブをサポートしています。



落下物排除の状況

社員コメント



プロ目線とお客さま目線の両方の視点で、業務を行っています

お客さまの走行の「安全性」「高速性」「定時性」を確保するため、24時間365日体制で定期的に高速道路を巡回し、異常事態の未然防止と早期回復を行っています。

プロの目線で道路の不具合や異常事態を見つけ出し、お客さまが安全・安心・快適に高速道路をご利用できるように、お客さまの目線で改善策を見出し、NEXCOに提案を行うことを心がけています。そのため、日々現場で起こりうる様々な状況を想定した訓練を行い、技量の研鑽と判断力の向上に努めています。

100%の安全・安心を提供できるように、引き続き異常事態の未然防止と早期回復に努めていきます。



西日本高速道路
パトロール関西(株)
神戸基地 隊長補佐
宇治田 篤

交通渋滞の緩和

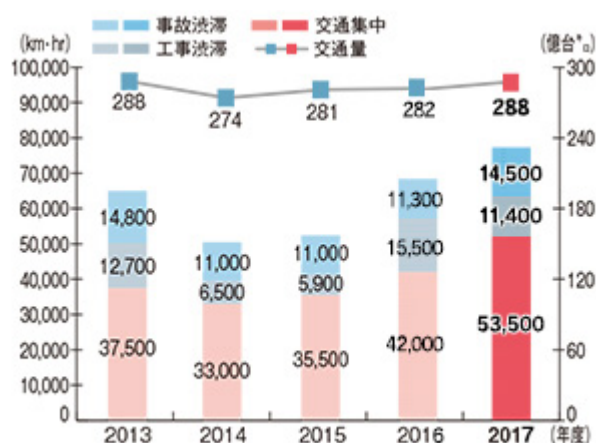
交通容量の確保

ソフト・ハード両面の渋滞緩和対策を推進しています

高速道路の渋滞を緩和するため、ほかの道路とのネットワーク形成による交通の分散や車線の増設、文字情報等の提供による速度低下抑制など、ソフト・ハード両面の対策に取り組んでいます。

また、当社には渋滞予測を専門とした社員（渋滞予測士）が在籍し、GW・お盆・年末年始の交通混雑期に渋滞予測情報を提供するなど、お客さまへ渋滞回避の呼び掛けを行っています。

▼高速自動車国道における渋滞状況



一部拡幅工事・ネットワーク強化

阪和自動車道や京滋バイパスの一部拡幅工事などに取り組みました

2010年度から、阪和自動車道・京滋バイパスの一部拡幅工事や京都縦貫自動車道と名神高速道路のネットワーク強化ならびに徳島自動車道と高松自動車道のダブルネットワークの形成に取り組みました。

現在も湯浅御坊道路の4車線化事業の推進や播磨自動車道のネットワーク強化など、継続的な渋滞緩和に取り組んでいます。

▼阪和自動車道（海南IC～有田IC間）車線拡幅工事



車線拡幅前



車線拡幅後

渋滞予測情報の提供

さまざまな媒体を通じて渋滞予測情報の提供に努めています

お客さまに渋滞を避けたご利用を喚起するため、上り坂などで速度回復を促し適正な交通容量を確保するための簡易情報板の設置をしています。また、GW・お盆・年末年始の交通混雑期には渋滞予測ガイドを制作し渋滞予測情報を公表する他、「渋滞予測士」（渋滞予測を専門で行う社員）によるマスメディアを通じた分散利用や渋滞回避の呼び掛けを行っています。

ウェブサイトや渋滞予測ガイド（冊子）などを通じた渋滞予測情報の提供を行っています。また、ウェブサイトのリニューアルを行い、ルート・料金検索のページにて、「渋滞予測」、「渋滞予測を加味した所要時間」や「出発時間をずらした場合の所要時間」が確認できるようになりました。

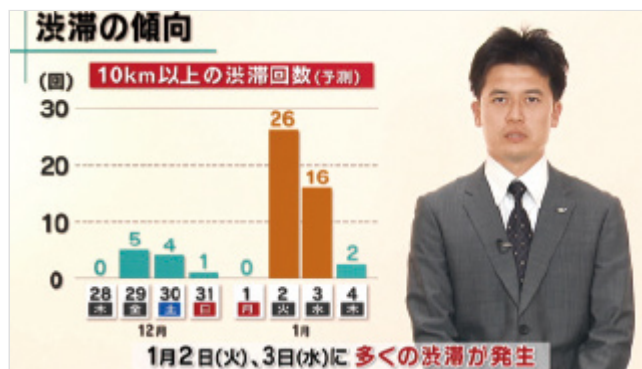
▼簡易情報板設置状況



▼渋滞予測ガイドの配布（交通混雑期限定）



▼TVでも渋滞回避の呼び掛けを行っています



▼渋滞予測を加味した所要時間が確認できます

The screenshot shows the NEXCO Japan website interface. The top navigation bar includes links for '料金・交通' (Fees/Traffic), 'サービスエリア情報' (Service Area Information), and '企業情報' (Company Information). The main content area is divided into three sections: 'ルート・料金検索' (Route/Fee Search), 'リアルタイム交通情報' (Real-time Traffic Information), and '工事規制・通行止めの予定' (Construction Regulations/Travel Stoppage Schedule). The 'ルート・料金検索' section is highlighted with a blue box, and the 'リアルタイム交通情報' section is highlighted with a green box. A blue arrow points from the 'ルート・料金検索' section to a detailed travel time graph. The graph shows the travel time for a specific route (Route 3) from 12:00 to 18:00. The graph includes a line representing the travel time and a shaded area representing the predicted travel time range. A blue box highlights the '渋滞予測を加味した所要時間を確認' (Check travel time including congestion prediction) section, and another blue box highlights the '渋滞予測を確認' (Check congestion prediction) section. A red box highlights the '渋滞予測あり' (Congestion prediction) section. A red box also highlights the '渋滞予測あり' (Congestion prediction) section. A red box highlights the '渋滞予測あり' (Congestion prediction) section. A red box highlights the '渋滞予測あり' (Congestion prediction) section.

関連ページ

- ▶ 渋滞予測カレンダー
- ▶ ルート検索・料金情報

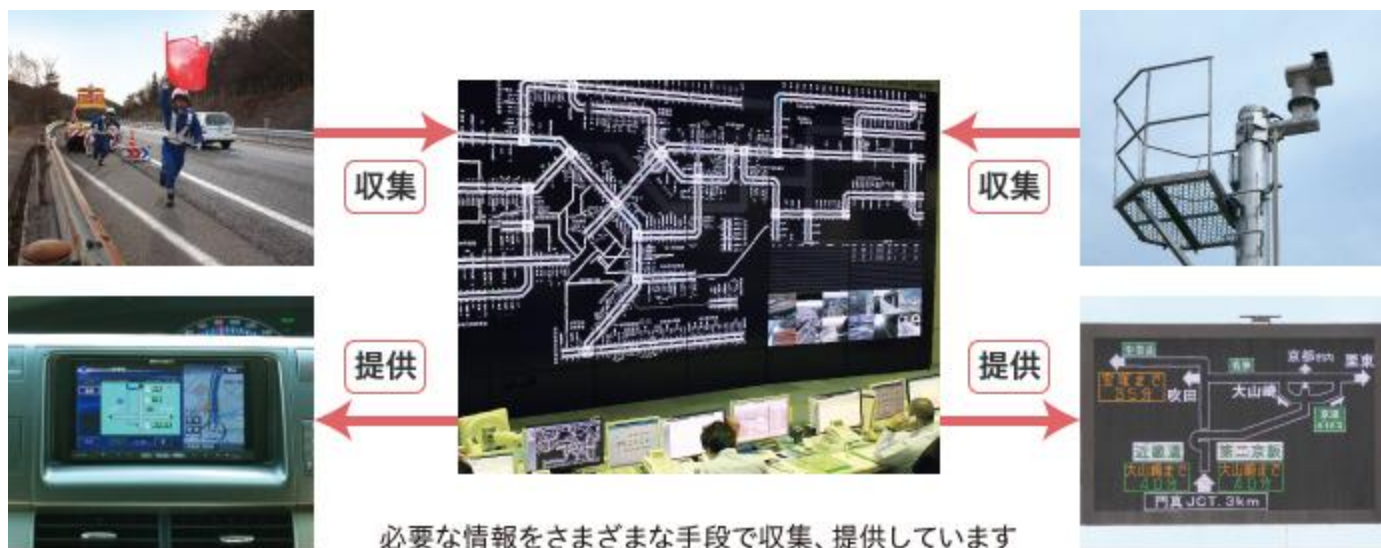
道路管制センター

情報の集約・発信基地としてお客さまの安全確保に努めています

道路管制センターでは、併設されている管区警察局高速道路管理室とともに、24時間365日体制で、安全運転に必要な情報の収集・発信や道路設備の監視・制御を行い、お客さまの安全確保に努めています。

同センターの交通管制部門では、交通事故や渋滞、異常気象などの情報を集約して、情報板やカーナビなどを通じてリアルタイムにドライバーに発信し、交通管理隊への緊急出動命令や警察・消防への通報を行っています。

▼道路管制センター



ウェブサービス「アイハイウェイ」

高速道路の交通情報が事前にチェックできるサービス「アイハイウェイ」（運営：西日本高速道路サービス・ホールディングス）を提供しています

「アイハイウェイ」では、交通状況の表示や道路映像、SA・PA駐車場映像のリアルタイム配信、通行止め時の料金調整を行う乗継情報の提供など、便利な情報を提供しています。

また、スマートフォン用のアプリケーションも配信しており、累計270万回を超えるダウンロードをいただいております。2017年度は、道路映像箇所の追加を行っており、今後もお客さまの利便性向上に向けた取り組みや、コンテンツの充実に努めていきます。

▼スマートフォンでの画像イメージ



関連ページ



▶ アイハイウェイ

お客さまサービスの向上

料金所での接客サービスの向上

機械化、ネットワーク化等に伴うご心配を解消すべく、おもてなしの心をもって接客対応します

料金所は、お客さまを笑顔でお迎えし、快適に高速道路をご利用いただけるような接客サービスに努めています。

近年、ETC  の普及、料金精算機の導入、スマートIC  の整備等に伴い、料金所ではインターホンを通してお客さまと接する機会が増えています。

そこで、シミュレーションを取り入れた勉強会やアナウンス研修等を実施し、接客サービスを向上させることにより、声によるご説明・ご案内においても「笑顔」を届けられるよう、努めています。

また、増えつつある外国のお客さま向けに一部の料金所では外国語による案内資料を準備し対応しています。

これからも、「NEXCO西日本の顔」として、おもてなしの心を持ってあらゆるお問い合わせに対応し、お客さまに安心して快適にご利用いただけるよう、24時間365日体制で業務に取り組んでまいります。



料金収受の様子

ETCの利便性向上

入口ETCレーンの複数設置を進めるとともに第二世代ETC導入を進めています

入口ETCレーンが1つしかない料金所では、これまでカード未挿入などによるトラブルやメンテナンスなどでETCレーンが閉鎖されている時には一般レーンのご利用をお願いしており、ご不便をおかけしていました。

このため当社では、ETCサービス休止時間の削減を目指し、入口レーンへのETC複数設置工事や、円滑なレーン通行を可能にする第二世代ETCの導入工事を進めています。2017年度末までに、複数設置は料金所全体の97%となり、第二世代ETCの導入は93%まで完了しています。

▼第二世代ETC設備概要



遠隔復帰型発進制御機

発信制御バーに車両が接触した際、料金所からの遠隔操作で復旧が可能。復旧までの時間が短縮される。



双方向テレビインターホン

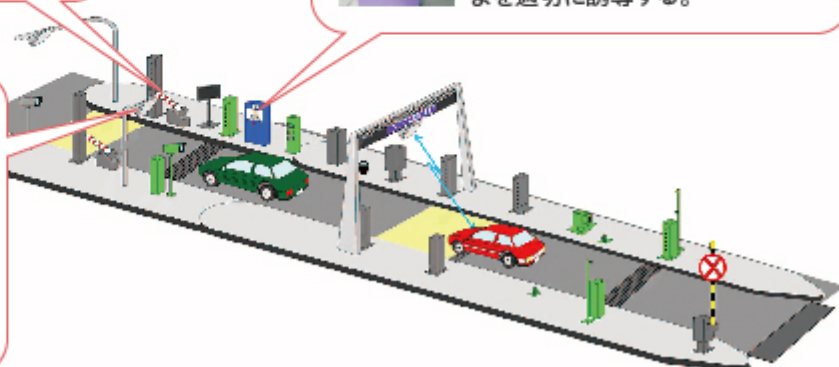
お客さまと収受員がテレビモニターを通して会話できる。双方向のコミュニケーションによって、お客さまを適切に誘導する。



再通信アンテナ

ETC無線通信ができなかった場合にも、カードを再挿入することでETC走行が可能になる再通信アンテナを導入。

(注)再通信アンテナは、一部の料金所において運用が開始されています。



CS推進本部会議

経営層が参加する会議で、お客さまのご意見から課題を抽出し、解決策を検討しています

お客さまのニーズに迅速に対応するため、経営層・各担当部による「CS推進本部会議」を隔週開催し、お客さまから寄せられたご意見・ご要望について、議論しています。特にお客さまの安全・安心等の重大リスクに関わるご意見については注目してフォローしています。

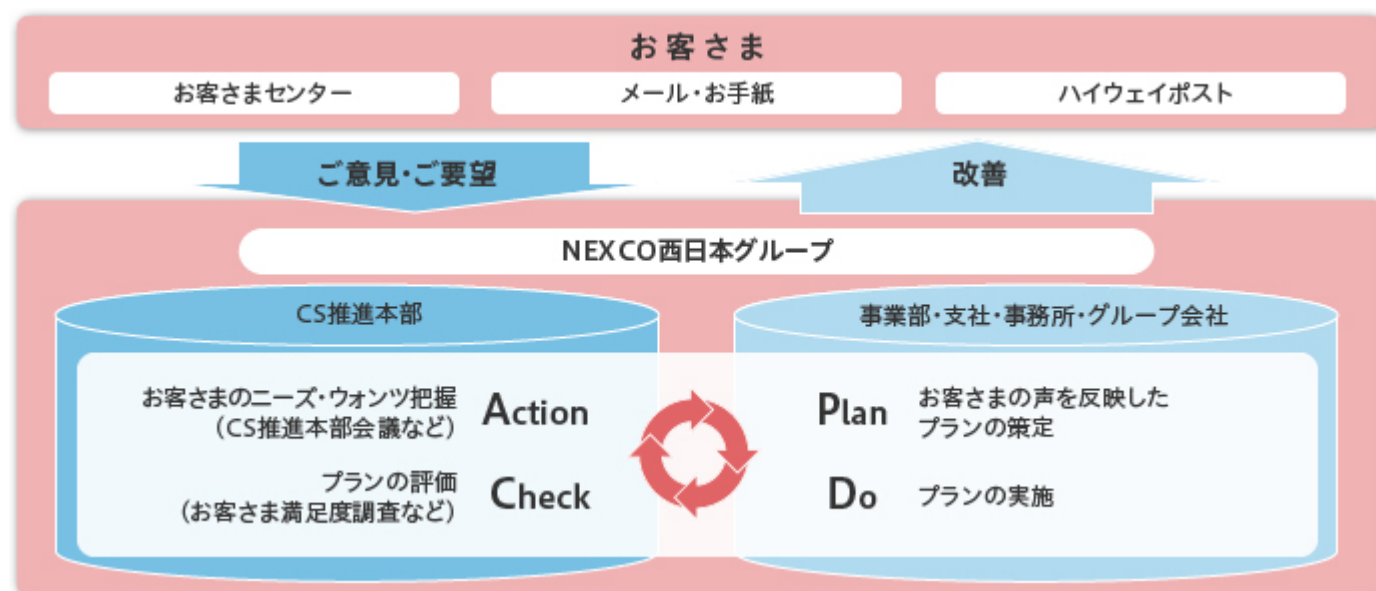
ご意見のうち社内で水平展開すべきものについては重点課題として選定し、抜本的な課題解決に向けた議論も行っています。

また、全社的かつ継続的なCSの改善に向けて、CS推進本部会議と支社・事務所の役割と責任の再構築・明確化を進めています。

なお、個別の改善事例については、会社ウェブサイトやSA・PAの掲示板に掲載しています。

こうした取り組みを通じて、今後もお客さまとのいっそうの信頼関係強化を目指していきます。

▼CS向上のマネジメントシステム



お客様センターでの対応品質の向上

高速道路に関する総合的な相談窓口として、正確、親切、さわやかな対応を基本に、24時間365日体制で対応しています

対応する**テレコミュニケーター** は、お客さまとの対応を円滑に進めていく能力の向上などを目的とした研修に積極的に取り組むとともに、必要に応じて対応用の資料を作成し勉強会を実施するなど、継続的に対応品質の向上に努めています。

今後も、こうした取り組みを継続し、いっそうお客さまにとって利用しやすい相談窓口を目指していきます。



お客様センター

▼「お客様センター」の受付体制

受付時間	年中無休（24時間）
お問い合わせ数	年間約41万件（受電件数）
外国語対応	5カ国語（英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語）

【お問い合わせ急増時の対応】

通行止めの発生時や荒天時など、お問い合わせの急増時への対応として、以下の情報提供を実施しています。

- ・お電話の接続待ち中に、自動音声での**アイハイウェイ**のご案内
- ・フリーダイヤルからハイウェイテレホン（交通情報の自動音声案内）への転送

お客さまの声の状況

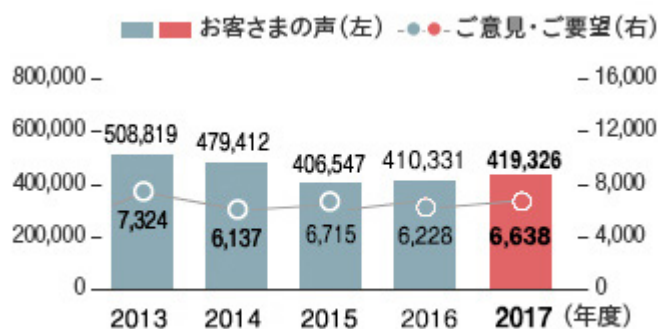
約42万件のお客さまの声をいただきました

2017年度、NEXCO西日本にいただいたお客さまの声は、全体で約42万件でした。そのうちお客さまセンターへのお電話が約41万件となっており、ほとんどが料金や交通情報に関するお問い合わせです。また、ハイウェイポストやメールなどでいただいた声は約1万件でした。

また、お客さまの声のうち、ご意見・ご要望は約6,600件（うち、ご不満の声が約1,600件）、お褒めの声は約1,600件でした。

今後も情報提供の充実に努めることでお問い合わせ件数を減少させるとともに、ご意見・ご要望をしっかりと伺い、貴重な経営資源として活かしていきます。

▼いただいたお客さまの声とご意見・ご要望（単位：件）



ハイウェイポスト

お客さまの声による改善状況の紹介と信頼関係の強化

お客さまのご意見・ご要望を事業の改善に活かしています

ご意見・ご要望に対する対応・改善状況はウェブサイト（下記リンク『CSの取り組み』）で紹介しています。また、SA・PAにも掲示し、より多くのお客さまにお知らせしています。

お客さまからのご意見・ご要望から改善した一例として、ドライブパスを利用した場合と利用しない場合の料金比較ができるよう、お申込みサイト（みち旅）の中に「ドライブパス おトク度チェック」のコーナーを設けました。これにより、お客さまご自身で料金比較ができるようになりました。

ドライブバス おトク度チェック

ドライブバス : ぶらり中国ドライブバス2018 発着型プラン
プラン : 京滋・大阪エリア発着全日3日間プラン
ご利用開始日 : 2018年05月11日
車種区分 : 普通車

>ドライブバス・プラン・ご利用開始日・車種区分を選び直す

>ICを選びなおす

料金比較結果

対象内区間 ETC 料金合計 : 17,070円
ドライブバスご利用料金 : 10,500円
おトク額 : 6,570円
おトク率 : 38.5%

ご走行ごとの料金

往路
京都南 → 廿日市
2018年05月11日 8時0分
対象内区間 ETC 5,750円
詳細

周遊
廿日市 → 岩国
2018年05月11日 15時0分
対象内区間 ETC 790円
詳細

料金比較結果

対象内区間 ETC 料金合計 : 17,070円
ドライブバスご利用料金 : 10,500円
おトク額 : 6,570円
おトク率 : 38.5%

関連ページ

▶ CSの取り組み

CS推進オピニオンリーダー意見交換会

意見交換会を開催し、各界の有識者から意見をお聞きしています

お客さまに提供すべきサービスなどについて、さまざまな立場の有識者からご意見をいただく「NEXCO西日本CS推進オピニオンリーダー意見交換会」を開催しています。

2017年度は、9名の有識者にご参加いただき3回実施しました。各業界からの高速道路へのニーズを伺うとともに、活発な意見交換を行いました。

今後も意見交換会を継続し、CS向上に活かしていきます。



CS推進オピニオンリーダー意見交換会

CS（お客さま満足）の向上

CS向上のため、研修やCS推進大会などを実施しています

当社グループでは、CS意識向上研修やCS推進大会などを実施し、社員のCS意識向上に取り組んでいます。2017年度は、新入社員を対象としたCS向上研修を実施するとともに、CS推進大会では、各支社から選出されたCS優秀事例の発表・表彰や講演会を実施しました。

また、グループ社員などが部署や立場を超えて対話することで、それぞれの気づきを深めることを目的としたCS交流会を6箇所で開催しました。CSに関するテーマについて、関係するグループ社員などが部署や立場を超えて対話することで、それぞれの気づきを深めることができました。

更には、お客さまからいただいたお褒め事例を深掘りすべく、実際にお褒めをいただいたスタッフへの取材を行い、グループ会社も含めて共有する取り組みも実施しており、モチベーションの向上にも繋げております。2017年度は一部を再取材し、映像化も行いました。この映像は、CS推進大会で上映するとともに、CS交流会でも活用しております。

今後も、グループ全体のCS活動をさらに推進するとともに、各現場がCS課題を共有しその解決に向けて行動できるよう、支社・本社関連部署が連携して現場支援を強化していきます。



CS推進大会 発表者



お褒めをいただいたスタッフへの取材を映像化

関連ページ

▶ 特集4 お客さまサービスの向上

SA・PA店舗のリニューアル

九州自動車道山川PA（上下線）

熊本地震を乗り越え、地域産品を活かし、生まれ変わりました

2016年4月に発生した熊本地震以降の営業休止を乗り越えて、山川パーキングエリア上下線が2017年5月にリニューアルオープンしました。お食事コーナーでは、従来からご好評だった“山川ラーメン”を、コクのあるとんこつスープや地元柳川市の醤油を使用したタレにたっぷり漬け込んだ自家製チャーシューを用いて更に美味しく仕上げ、中心的メニューとしました。また、広くなったショッピングコーナーでは、秘伝のタレに漬け込んだ煮たまごを包んだ地元福岡県みやま市の名物おむすび「玉めし」が大変ご好評をいただいております。

当社グループのSA・PAでは、地元の食材を使用したメニューを取り揃え、お客さまにその土地ならではの味を提供しています。



山川ラーメン



九州自動車道山川PA下り線外観



玉めし

関連ページ

▶ [SAPAリニューアル情報](#)

希少な地域食材を使用した商品展開

『銀不老かりんとう』

希少な食材を活かした商品を西日本各地で販売しています

“銀不老（ぎんぶろう）豆”は、高知県大豊町のみで生産されている大豆です。生産者の高齢化により生産量が激減していましたが、地域住民により徐々に生産量が回復しつつあります。当社グループとして、そのような希少な地域食材を守り、普及を後押ししたいとの思いから、銀不老豆の粉末を生地に練りこんだ商品『銀不老かりんとう』を西日本高速道路リテール(株)が運営している全48店舗で販売し、2017年度は10万个以上を売り上げ、地域の隠れた逸品の普及に大きく貢献しました。

今後も、当社グループのネットワークを生かすことで、各地域の特徴ある商品を掘り起こし、お客さまのみならず地域の皆さまにも喜んでいただけるように取り組んでまいります。



銀不老かりんとう



豆まきお手伝いの様子



収穫風景



店舗での販売

関連ページ

▶ [「モテナス」エリア](#)

地域の賑わい拠点

ウェルカムゲート

地域の皆さまにもご利用いただき、愛されるSA・PAを目指しています

SA・PAのうち、70箇所一般道から自由にお立ち寄りいただける出入口『ウェルカムゲート』を整備しており、高速道路をご利用のお客さまに留まらず、多くの近隣のお客さまにもお買い物やお食事をお楽しみいただいています。

さらに、徳島県の上板SA下り線における親子向けの工作体験や生け花教室などの実施や、広島県の小谷SA上り線におけるパンづくり教室の開催など、SA・PAを高速道路の休憩施設としてだけでなく、地域のふれあいの場としてもご利用いただいています。今後もSA・PAが地域の賑わいの拠点となるよう、ウェルカムゲートの整備を進めてまいります。



親子向け工作体験の様子



山陰自動車道小谷SA（上り線）ウェルカムゲート



パンづくり教室の様子

SAを『ウインターイルミネーション』で彩りました

三木SA（下り線）、小谷SA（上り線）、古賀SA（上り線）の3カ所で、各地域を象徴する素晴らしい風景・文化と独自のコンセプトを融合させたイルミネーションの装飾を展開しました。

カウントダウン点灯式は、地域の方々による演奏会やご当地キャラクターが登場し、ご来場いただいたお客さまにお楽しみいただきました。また点灯期間中は、イルミネーションにちなんだ特別限定メニュー・商品の販売、イルミネーションの写真をSNSに投稿していただいたお客さまへの割引など、さまざまなサービスも実施しました。

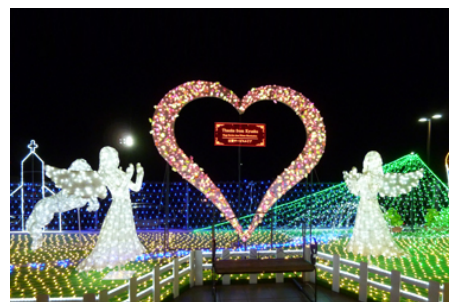
今後も、季節やその地域にちなんだサービスを積極的に展開していきます。



山陽自動車道 三木SA（下り線）
イルミネーション



山陽自動車道 小谷SA（上り線）
イルミネーション




九州自動車道 古賀SA（上り線）
イルミネーション

ドライブの拠点機能

インフォメーション

快適で楽しく、安全なドライブをサポートしています

SA・PAに設置されたインフォメーション  では、お客さまの快適で楽しく、安全なドライブのために、高速道路の交通情報、SA・PAのご案内、地域の観光に関する情報など様々な情報をお客さまに発信しています。例えば岡山県の大佐SA上下線では、スタッフが地域ゆかりの偉人やゆかりの地を手作りのポップで紹介するなど、工夫を凝らした観光情報発信も行っています。

近年は外国のお客さまが訪れることが増えています。そこで、外国語版高速道路ガイドマップの配布や翻訳サービス・アプリの活用など、外国のお客さまにも安心して高速道路をご利用いただける環境整備に努め、日本政府観光局（JNTO）から外国人観光案内所（カテゴリー1）の認定を受けました。

今後もお客さまに笑顔でお過ごしいただけるよう取り組んでまいります。



名神高速道路 大津SA（下り線）
「パヴァリエびわ湖大津」



タブレット端末を使った対応の様子

インバウンド関係

訪日外国人ゲストが安心して利用できる環境を整えています。

訪日外国人ゲストの利便性向上を図り、ストレスなく安全・安心に利用できる高い品質の「当たり前のサービス」を提供し続けるための取り組みとして、免税レジを2015年8月から導入し、西日本で19店舗にて導入（2018年6月時点）しています。

また、12種類の通貨対応の外貨両替機を2018年6月から岸和田SA（上下線）に導入しました。

当社管内のSA・PAを紹介するホームページの外国語版を2016年3月にリリースしました（英語、中国語、韓国語に対応）。

Wi-Fi サービス

快適にインターネットや動画などのコンテンツをお楽しみいただけます

当社管内のSA・PAでは、川南PAを除く全ての有人SA・PA計196箇所にてWi-Fiサービス「W-NEXCO Free Wi-Fi」を整備しています。無料で、利用時間や回数に制限がなく、NEXCO東日本・中日本と共通のID・パスワードです。また、ログイン画面が5カ国語に対応しているため、国内の方のみならず、外国のお客さまにも安心してご利用いただけます。



「W-NEXCO Free Wi-Fi」の
サービスマーク

シャワーステーション

シャワーステーションを設置しています

長距離をドライブされるお客さまへの「疲労回復サービス」の充実として、コイン式のシャワーやランドリー、無料のマッサージチェアを備えたシャワーステーションを、NEXCO西日本管内計8カ所のSA・PAに設置しています。



山陽道 淡河PA（上り線）シャワーステーション



シャワーステーション内のマッサージチェア

関連ページ

- ▶ [インバウンド対応の強化について（三者間電話通訳サービス）](#)
- ▶ [W-NEXCO Free Wi-Fi](#)
- ▶ [シャワーステーション](#)

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

社会基盤である高速道路の整備と長期保全

高速道路ネットワークの整備と機能向上

新たな高速道路ネットワークの整備

- ▶ 各地域を結び、自動車交通の混雑緩和や地域間の連携強化に寄与しています

スマートICの整備

- ▶ 2017年度は6カ所のスマートICを新たに整備しました

ネットワークの機能向上

- ▶ 近畿圏の有料道路を一元的に管理します

高速道路インフラの健全性の確保

道路構造物の点検・管理

- ▶ 保全事業システムの構築を推進しています

道路附属物の更新・修繕

- ▶ 照明や情報板など道路附属物の更新・修繕を計画的に実施しています **WEB**

道路構造物損傷の抑制

- ▶ 重量超過等の違反車両へ取り締まりを徹底しています

新技術の導入・研究開発による業務の効率化

新技術による点検・補修

- ▶ 防食・防錆に有効な金属溶射を用いた補修を進めています **WEB**

災害対応力の強化

災害に強い組織・連携ネットワークの構築

防災体制

- ▶ 道路機能の迅速な回復に努めています

南海トラフ巨大地震への対策強化

- ▶ 被害想定に基づき、被害想定箇所への資機材等の備蓄を強化しました [WEB](#)

地域・他機関との連携

- ▶ 災害協力協定等に基づく連携強化を図っています

防災訓練

- ▶ 関係機関と連携し、実践的な訓練を実施しています

九州北部豪雨への対応

- ▶ 地域と連携し、早期復旧に努めました

災害に強い高速道路づくり

斜面災害検知技術の研究開発

- ▶ 無線センサを活用した斜面災害検知技術の実用化を進めています [WEB](#)
- ▶ 高速道路リニューアルプロジェクトで活用できる盛土補強工法を開発しました [WEB](#)

保有している技術・ノウハウを社会へ展開

技術・ノウハウを活用したさまざまな施策

音による交通規制中注意喚起技術の展開

- ▶ グループの技術を活用し、高速道路の安全・安心を提供しています

高速道路管理のノウハウを活かした業務受託

- ▶ 地方自治体等が管理する道路で、交通管理や構造物・設備の管理・保守・点検を受託しています [WEB](#)

一般自動車道の運営事業への参画

- ▶ 維持管理ノウハウを活かした事業を実施しています [WEB](#)

環境技術で社会に貢献

- ▶ ウルトラファインバブルを活用した環境技術をさまざまな事業分野に展開しています [WEB](#)

グループの資産・人材を活用した地域貢献

- ▶ 高知県大豊町の観光施設で指定管理者事業、農業事業を行っています [WEB](#)

海外への事業展開と国内への応用

NEXCO西日本グループの保有する技術の海外展開

- ▶ 当社の強みを活かし、海外事業の展開を図っています

米国での橋梁非破壊検査事業

- ▶ 米国に子会社を設立し、事業を展開しています [WEB](#)
- ▶ 橋梁点検業務について、州道路管理者からの受注実績を積み重ねています [WEB](#)
- ▶ 米国での点検業務で培った技術を、日本国内でも役立てていきます [WEB](#)
- ▶ 道路以外の構造物へも事業領域の拡大を図っています [WEB](#)

インドネシアでの事業展開

- ▶ 道路PPP事業に参画しています [WEB](#)

事業拡大に向けた各種調査

- ▶ 海外事業拡大に向けた各種調査を実施しています [WEB](#)

国際貢献活動を基礎としたコンサルティング事業

- ▶ 毎年100名以上の海外研修生を受け入れています [WEB](#)

高速道路を通じた地域活性化

自治体や関連団体と連携した取り組み

ドライブパスの実施

- ▶ 自治体と連携して、地域の魅力発信に取り組んでいます

オフィシャルパートナーとしての活動

- ▶ 国や自治体と協働し、地域の活性化に取り組んでいます

お国じまんカードラリーの展開

- ▶ 自治体と連携して広域的な観光振興に取り組んでいます

高速道路ネットワークの整備と機能向上

高速道路は、国民生活を豊かにし、経済活動を支える重要な社会資本です。真に必要な道路ネットワークを計画的かつ着実に整備していくことで、輸送コストの削減や、交通事故の減少、バランスのとれた地域社会の発展に貢献していきます。

新たな高速道路ネットワークの整備

各地域を結び、自動車交通の混雑緩和や地域間の連携強化に寄与しています

高速道路ネットワークの整備は、自動車交通の混雑緩和や、地域間の交流・連携の強化に繋がります。

NEXCO西日本は、[高速道路機構](#)と締結した協定に基づき、高速道路ネットワークの整備促進に努めています。

新規建設区間においては、2017年12月10日に新名神高速道路高槻JCT・IC～川西IC26.2km、2018年3月18日に新名神高速道路川西IC～神戸JCT16.9kmが開通しました。

また、2車線区間の4車線化により、交通集中による渋滞が解消し、観光地などへのアクセスのしやすさが向上するとともに、制限速度引上げや上下線分離構造となることから、快適性や安全性が向上し、対面通行に比べて円滑な走行が可能になります。

2018年度以降も新規区間の整備や4車線化を進めていくことで、広域的なネットワークの形成によるアクセスの向上や所要時間の短縮を実現し、観光誘客や地域産業の活性化、物流事業等の効率化、救急医療活動など社会サービスの効率化に貢献していきます。

▼2013～2017年度 開通区間 年度開通区間延長

年度	開通区間	延長
2013年度	京都縦貫道 沓掛IC～大山崎JCT	9.8km
	東九州道 苅田北九州空港IC～行橋IC	8.6km
	東九州道 日向IC～都農IC	20.0km
2014年度	徳島道 鳴門JCT～徳島IC	10.9km
	東九州道 行橋IC～みやこ豊津IC	7.4km
	東九州道 豊前IC～宇佐IC	21.1km
2016年度	東九州道 椎田南IC～豊前IC	7.2km
2017年度	新名神 城陽JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC	4km
	新名神 高槻JCT・IC～神戸JCT	42.5km

▼主な事業中区間

開通区間	延長
(1) 新名神高速道路 大津JCT～城陽JCT	25km
(2) 新名神高速道路 八幡JCT～高槻JCT	10km
(3) 阪和自動車道 御坊IC～印南IC（4車線化）	10km
(4) 舞鶴若狭自動車道 福知山IC～綾部IC（4車線化）	10km
(5) 舞鶴若狭自動車道 綾部PA～舞鶴西IC（4車線化）	5km
(6) 播磨自動車道 播磨新宮IC～山崎JCT	12km
(7) 徳島自動車道 徳島東IC～徳島JCT	4km
(8) 高松自動車道 鳴門IC～高松市境（4車線化）	52km
(9) 長崎自動車道 長崎IC～長崎多良見IC（4車線化）	11km
(10) 湯浅御坊道路 有田IC～御坊IC（4車線化）	19km
(11) 淀川左岸線延伸部 門真JCT～門真西	1km
(12) 第二神明道路 永井谷JCT～石ヶ谷JCT	7km
(13) 大和北道路 木津IC～郡山下ツ道JCT	12km
(14) 隼人道路 加治木JCT～隼人東IC（4車線化）	7km
(15) 佐世保道路 佐世保大塔IC～佐々IC（4車線化）※	17km
(16) 延岡南道路 延岡南IC	1km

（注）事業中区間のIC・JCT名称は仮称

※ 佐世保中央IC～佐々IC（9km）については、佐世保道路4車線化完了時に国の管理から当社管理になります

2017年度は6カ所のスマートICを新たに整備しました

高速道路の利便性を向上させるため、[スマートIC](#) の整備を進めています。スマートICとは、[ETC](#) 専用の簡易なインターチェンジのことで、ETC搭載車以外は出入りできないものの、一般道路からのアクセス経路が増え、高速道路がさらに利用しやすくなります。

2017年度は宝塚北（新名神）、福山SA（山陽道）、沼田PA（山陽道）、城南（九州道）、木場（長崎道）、小城（長崎道）で新たにスマートICが開通し、計29カ所となりました。現在、さらに11カ所の整備に着手しています。

▼2013～2017年度 スマートIC設置内訳

年度	スマートIC	設置数
2013年度	蒲生（名神）、大和まほろば【大阪方面】（西名阪道）、宇城氷川（九州道）	3カ所
2014年度	松茂（徳島道）、今川（東九州道）、上毛（東九州道）	3カ所
2015年度	夢前（中国道）	1カ所
2016年度	山之口SA（宮崎道）、由布岳PA（大分道）、門川南（東九州道）	3カ所
2017年度	宝塚北（新名神）、福山SA（山陽道）、沼田PA（山陽道）、城南（九州道）、木場（長崎道）、小城（長崎道）	6カ所

▼スマートICの設置予定

スマートIC	設置数
新名神大津（新名神）	11カ所
城陽（新名神）	
和歌山南（阪和道）	
湯田PA（中国道）	
加茂BS（松江道）	
中山（松山道）	
北熊本（九州道）	
人吉球磨（九州道）	
桜島SA（九州道）	
別府湾【上り線】（東九州道）	
国富（東九州道）	

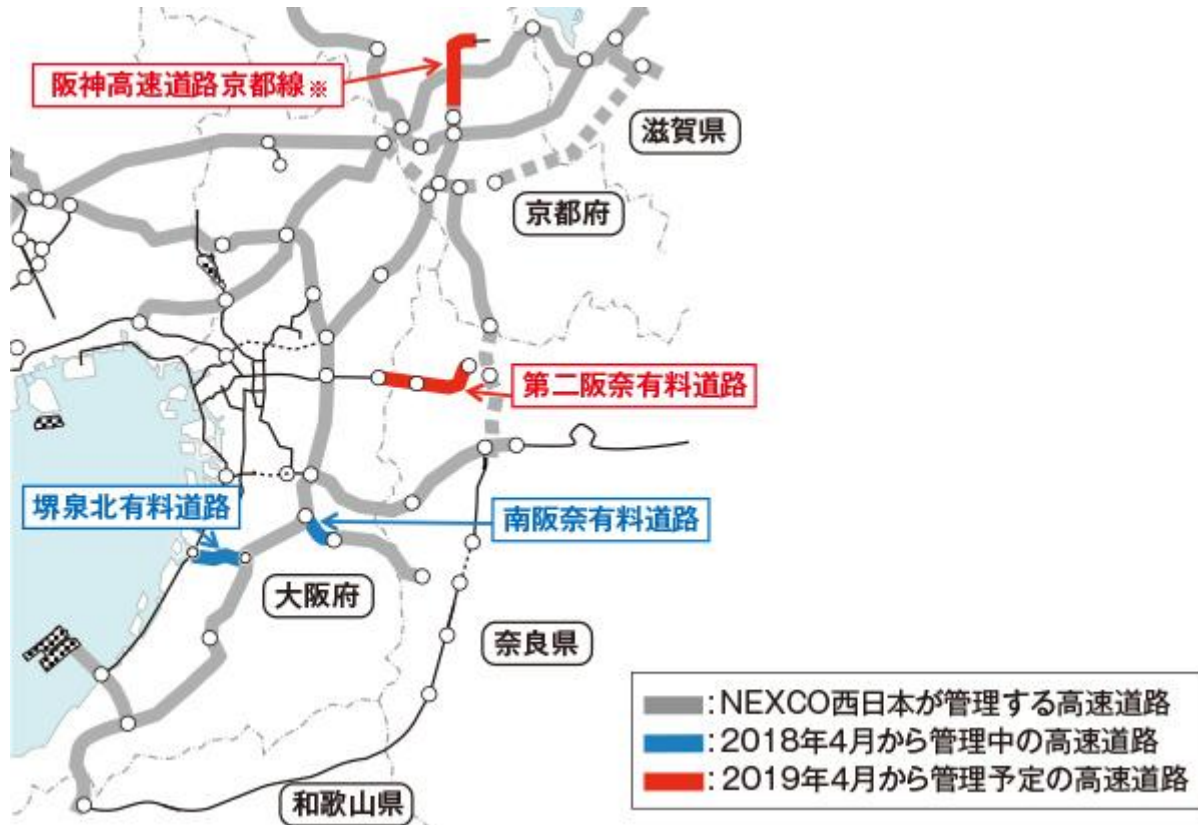
注）スマートIC名称および未開通区間の道路名は仮称

近畿圏の有料道路を一元的に管理します

近畿圏の地方道路公社等が管理していた南阪奈有料道路、堺泉北有料道路、第二阪奈有料道路、阪神高速道路京都線（油小路線・斜久世橋）について、合理的・効率的な管理を行う観点から、NEXCO西日本で一元的に管理を行います。

これにより、NEXCO西日本の高速道路の料金水準に整理・統一され、お客さまにわかりやすくご利用いただけるようになります。

※阪神高速道路京都線（新十条通）は、京都市管理となり、無料で通行できるようになります。



高速道路インフラの健全性の確保

道路構造物の点検・管理

保全事業システムの構築を推進しています

高速道路を将来にわたって健全な状態に保持していくために最も大切なことは、点検の結果に基づき、いつ、どのような対策を実施するか、または監視を行っていくかを総合的な観点から判断し、そして確実に実行することへ繋げていくことです。これを実現するためには、業務システムの整備と技術者の育成が重要な鍵を握ります。


NEXCO西日本の進める保全事業システムでは、現場力の高い技術者の育成、非破壊検査技術による点検の高度化や効率化、AIを活用した変状判定や健全性診断の支援、更には維持管理しやすい構造への更新など保全事業システムの確立と高度化に取り組んでいます。





保全事業システムの流れ

道路付属物の更新・修繕

照明や情報板など道路付属物の更新・修繕を計画的に実施しています

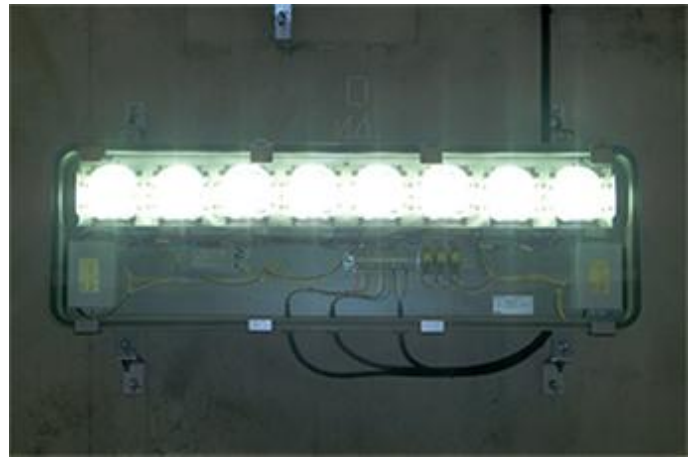
高速道路の多種多様な設備が故障し、高速道路の運用に支障が生じる事態を未然に防止するため、点検～判定・評価～補修～経過観察までのPDCA  サイクルを構築し、計画的な更新を行っています。また、ワイヤー等による更なる落下防止対策の実施、被害が想定されない場所への移設を計画的に実施しています。

特にジェットファン  については、従前から設置している吊金物で十分な強度を有していますが、さらに吊金物を増やし、落下防止に努めています。また、更新にあわせて、吊金物への負荷が小さい軽量型ジェットファンへ取り替えを実施しています。2017年度は、113カ所のジェットファンについて吊金物を増やし更なる落下防止対策を、17カ所のジェットファンについて軽量化取り替えを実施しました。

このほか、老朽化更新にあわせて、LED照明やマルチカラー情報板  など最新の設備を導入し、省エネや視認性の向上にも取り組んでいます。2017年度には、38kmのトンネル照明のLED化、78面の情報板のマルチカラー化を実施しました。



軽量型ジェットファン



LED照明灯具



マルチカラー情報板

関連ページ

- ▶ [高速道路リニューアルプロジェクト](#)
- ▶ [高速道路の長期保全](#)

重量超過等の違反車両へ取り締まりを徹底しています

大型車交通や車両総重量の増加に加え、重量超過等の違反車両は、道路の劣化を進行させる要因となっています。

そこで、従来から実施している専門部隊による取り締まりや措置命令に加え、積載物の軽減や通行の中止など厳格な措置命令を実施するとともに、特に常習的・悪質な違反者に対しては警察への告発など厳罰化を図っています。



取り締まりの様子

新技術の導入・研究開発による業務の効率化

新技術による点検・補修

防食・防錆に有効な金属溶射を用いた補修を進めています

路面からの漏水が原因で腐食が起こりやすい鋼橋の橋桁の末端部の劣化を防止するため、「金属溶射技術」を開発し、補修に用いています。この技術は、熔融したアルミニウム・マグネシウム合金などを圧縮空気で吹き付けて金属被膜を形成するもので、防食・防錆に有効なだけでなく、橋桁の末端部のような狭い箇所でも施工が可能です。

また、このような狭小な橋桁部でも施工可能なブラストノズルの改良や、施工環境を改善するためのブラスト工法の開発も進めています。



金属溶射前




金属溶射後

関連ページ

[特集3 高速道路の新技術](#)

災害に強い組織・連携ネットワークの構築

高速道路への国民の信頼に応えるため、「想定を超えた広範囲の**激甚災害**  にも対応できる仕組み」を構築します。発災時には速やかに高速道路機能を回復し、被災地域の救急・復旧・復興に貢献します。防災対策をより実効性の高いものへ逐次見直し、不断の努力を続けていきます。

防災体制

道路機能の迅速な回復に努めています

高速道路の早期復旧にあたっては、情報の収集・発信拠点となる「災害対策本部」を災害規模に応じて設置し、本部を中心にグループ会社も含め指揮統制の取れた体制を構築することが重要です。そこで、訓練等によって得られた課題についての対策を講じるなど、災害対応計画を継続的に見直しています。

2017年度は九州北部豪雨での被災状況を踏まえ、急変する気象に対応可能なように、高速道路が通過する自治体を対象に特別警報が発表された場合には防災体制を強化する見直しを行いました。



熊本地震時の社内災害対策本部

被害想定に基づき、被害想定箇所への資機材等の備蓄を強化しました

東日本大震災の教訓を踏まえ、津波被害が想定される地区では、事務所や料金所、休憩施設（SA・PA）への非常用自家発電設備の燃料備蓄を7日間分に増やす計画を策定し、2014年度までに112カ所すべてへの備蓄を完了しました。また、一時退避されたお客さまに対する食糧、水、衛生用品などの防災備蓄について、震度5強が想定される休憩施設242カ所に対して、2017年度までに235カ所への配備を完了しました。

2018年度は、7カ所への防災備蓄品の配備完了をめざすとともに、大規模地震発生時における状況把握点検の支障となる道路段差を解消するための資機材を全事務所へ整備していきます。

▼休憩施設（SA・PA）に備蓄する資機材の一覧

種別	備蓄する資機材	備蓄する施設数（箇所数）	箇所あたりの備蓄量
最低限の衛生用品・食糧・水	携帯トイレ	235	240～3200枚※
	トイレ利用キット	235	2～3セット
	毛布	235	40～500人分※
	おむつ	235	70～540枚※
	生理用品	235	48～384枚※
	ゴミ袋	235	40～540枚※
	非常食	151	120～1080食※
	飲料水	151	240～2136食※
ライフライン  の寸断を想定	備蓄倉庫	235	1台
	発電器	235	1台
	投光機	235	1台
	コードリール	235	1台
	石油ストーブ	235	1台
	燃料缶詰	235	ガソリン：4缶
			軽油：4缶
建物被害	大型テント	11	1張
	救出工具キット	95	1セット

※施設の規模（駐車ます数）により備蓄量を決定しているため、エリアにより備蓄量は異なります

▼備蓄する資機材の例

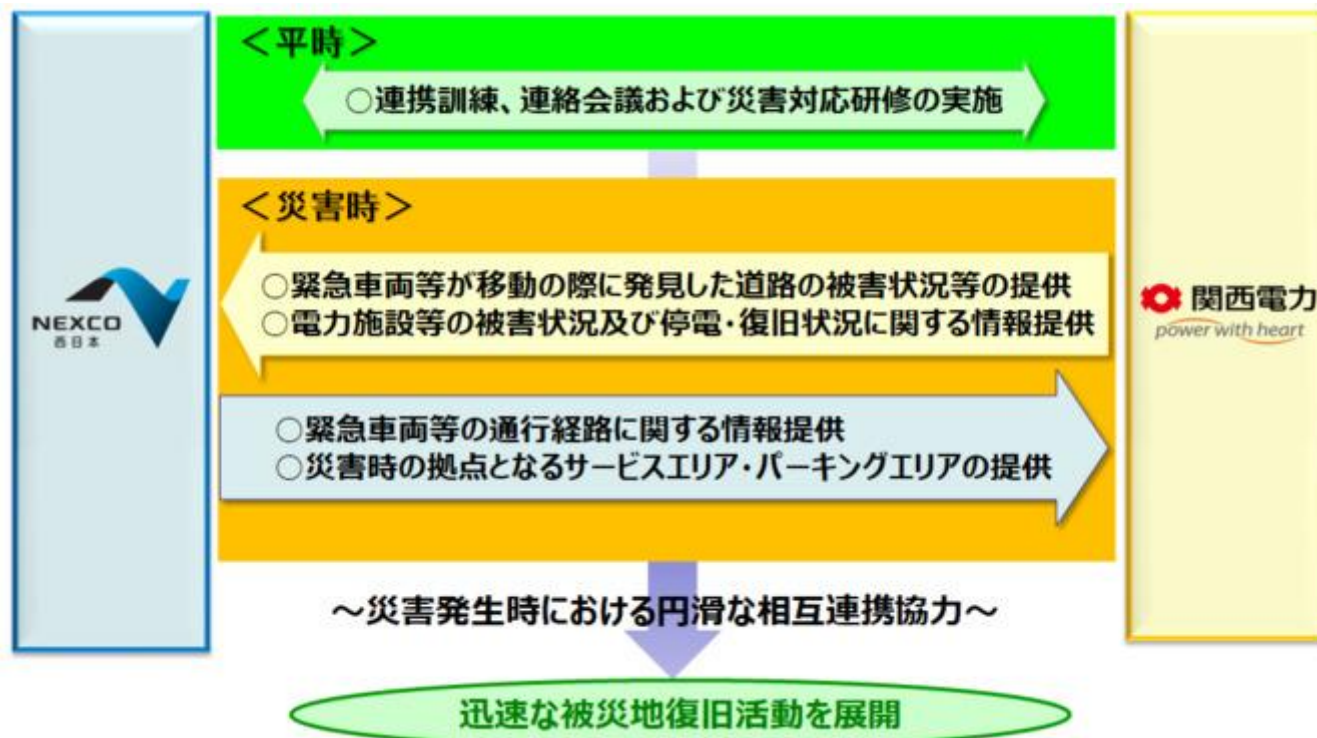


地域・他機関との連携

災害協力協定等に基づく連携強化を図っています

地域住民の安全・安心の向上を図るため、これまで西日本の全24府県、陸上自衛隊、独立行政法人国立病院機構災害医療センター及び同法人大阪医療センターと大規模災害時の相互協力を定めた[災害協力協定](#) [☞](#)を締結しています。

加えて、新たに2018年1月に関西電力と災害協定を締結し、連携強化を進めています。



関係機関と連携し、実践的な訓練を実施しています

地震など自然災害の発生時や通常起こり得る交通事故などを想定し、迅速かつ的確な対応ができるよう、グループ全体や関係機関と計画的に防災訓練や災害図上訓練（DIG）[🗺](#)等を実施しています。

2017年度は、2016年度に引き続き関係機関と連携した実働訓練を実施しました。9月に実施した本社防災訓練では、上町断層に起因する直下型地震が発生した想定として、関西支社と連携し災害情報の収集・情報発信等の訓練を実施しました。

また、津波被害が想定される地域では、自治体や住民の皆さまと連携して、津波一時避難訓練を行っています。2017年度は沖縄自動車道や阪和自動車道の沿線地域で実施しました。

2018年度も引き続き、関係機関と連携した訓練を実施しながら、課題抽出および改善等に取り組み、実効性のある体制の構築に取り組んでいきます。

▼2017年度総合防災訓練の参加関係機関

訓練	実施場所及び参加関係機関
災害対策本部訓練	近畿管区警察局、NEXCO西日本メンテナンス関西、NEXCO西日本エンジニアリング関西、防災エキスパート、日本建設業連合会、日本道路建設業協会、プレストレスト・コンクリート建設業協会、日本支承協会
津波対応訓練	サービス関西
災害対策本部訓練	香川大学、陸上自衛隊、四国管区警察局、日本道路建設業協会、プレストレスト・コンクリート建設業協会、日本橋梁建設協会、日本建設業連合会、NEXCO西日本エンジニアリング四国、NEXCO西日本ファシリティーズ、NEXCO西日本サービス四国、NEXCO西日本ビジネスサポート、NEXCO西日本サービス・ホールディングス、NEXCO西日本コンサルタンツ、富士技建、ハイウェイ・トール・システム
緊急即応訓練	陸上自衛隊、警察、消防、NEXCO西日本メンテナンス中国、NEXCO西日本パトロール中国、NEXCO西日本エンジニアリング中国、NEXCO西日本ファシリティーズ
バックアップ管制センター災害訓練	警察、NEXCO西日本パトロール中国、NEXCO西日本エンジニアリング中国
段差修正訓練	NEXCO西日本エンジニアリング四国、NEXCO西日本ファシリティーズ
通信連携訓練・緊急車両走行訓練	陸上自衛隊
休憩施設防災備蓄品組立及び救護訓練	香川県、高知県、消防、NEXCO西日本エンジニアリング四国、NEXCO西日本サービス・ホールディングス
通信連携訓練	陸上自衛隊
トンネル内防火消防訓練	消防

▼2017年度津波一時避難訓練の実績

実施日	実施場所及び参加関係機関
平成29年11月5日	阪和自動車道 みなべ町
平成29年5月20日	徳島自動車道 鳴門市
平成29年11月17日	徳島自動車道 徳島市
平成29年11月2日	沖縄自動車道 金武町

■総合防災訓練 段差修正訓練



■総合防災訓練 お客さま避難誘導訓練（南国S A）



高知自動車道 南国S Aでのお客さま避難誘導訓練の様子

■津波一時避難訓練 （和歌山県みなべ町）



阪和自動車道 みなべ料金所での避難訓練の様子

■津波一時避難訓練 （徳島県徳島市）



徳島自動車道 盛土のり面の避難施設


■近畿地方DMATブロック訓練




名神高速道路 吹田料金所敷地内での訓練の様子

地域と連携し、早期復旧に努めました

2017年7月の九州北部豪雨により、大分自動車道、九州自動車道をはじめ九州北部地域で降雨による通行止めが発生しました。

7月5日から6日にかけて発生した大雨は、[線状降水帯](#)  が同じ場所に停滞したことで引き起こされたもので、大分自動車道の一部区間において最大545mmの雨量を記録し、高速道路では小規模なり面崩壊が10箇所発生しました。

また、高速道路周辺地域からの影響として、高速道路区域外からの土砂流入により、大分自動車道杷木料金所が冠水したほか、大分自動車道高山トンネル付近の[カルバートボックス](#)  に倒木・竹が流入し、一般道が完全に通行不能となりました。加えて、周辺のため池が決壊する恐れがあったこと等から、料金所を含む朝倉市杷木寒水区地域に避難指示が発令される想定外の事象が発生しました。

NEXCO西日本では、高速道路及び周辺地域の被災状況を把握するため、防災ヘリやドローンを活用し、上空からの情報収集に努めたほか、TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)と合同で現地調査を行う等、関係機関と連携のうえ対応にあたりました。

被害の多かった朝倉市への支援としては、豪雨災害により流出した土砂や流木の仮置き場周辺の土ほこり対策として周辺地域へ散水活動を行い、早期復旧に努めました。



り面崩壊状況（発災時）



り面崩壊状況（応急復旧後）



倒木・竹の流入状況



国土交通省TEC-FORCEとの合同調査



防災ヘリでの撮影状況

社員コメント



北部豪雨時の対応について

7月5日は、朝から雷が鳴り始め、昼からは雨も降り出し、今までに無いような大雨が降り続けました。同日16時ごろに高速道路本線通行止めの情報が入り、それから1時間ほどして料金所周辺は洪水状態となり、土砂が流れ込む事態となりました。

その中で、一般道が冠水し、行き場を失い高台である料金所へ避難して来た方々がいたため、料金所事務所内へ受け入れ、備蓄品から食料、水、毛布などの提供を行いました。小さいお子さまからお年寄りの方まで30名程おられました。翌日、無事戻られる際には感謝の言葉をいただきました。今回の災害対応は想定以上のものでしたが、日頃からお客さまに気持ちよく利用していただけるように、お客さまの立場に立った対応を心掛けていたことから、避難者の受け入れについて一人の負傷者もなく最善を尽くすことが出来たのではないかと思います。

杷木料金所内では今回の経験を踏まえて、地域防災マップによる危険箇所や避難場所の把握、車両の誘導や関係各所への連絡をより円滑に行えるように役割分担を定めるなど、有事の際に迅速に対応できるように、日々緊張感を持って業務を行っています。



西日本高速道路
サービス九州（株）
杷木料金所
サービス係長
松尾 なぎさ



土砂流入時の様子

災害に強い高速道路づくり

斜面災害検知技術の研究開発

無線センサを活用した斜面災害検知技術(newron)の実用化を進めています

高速道路上で発生している地盤災害の中でも突出して多いのが、降雨による斜面の崩壊です。

そこで当社では、設置・撤去・メンテナンスが容易な無線センサで斜面の含水量や地下水位などをモニタリングするシステム(newron)の開発と、斜面の崩壊メカニズムの解明に取り組んでいます。両者の実現により、対策を実施すべき箇所の抽出、崩壊の予測や降雨による通行止め解除判断の精度向上が期待されます。

2017年度は、継続して管内11カ所で土壌水分や地表面変位を観測し、降雨や土質条件の違いが地盤の安定・不安定化に与える影響について分析を行いました。

2018年度も引き続き斜面防災の高度化を推進していきます。



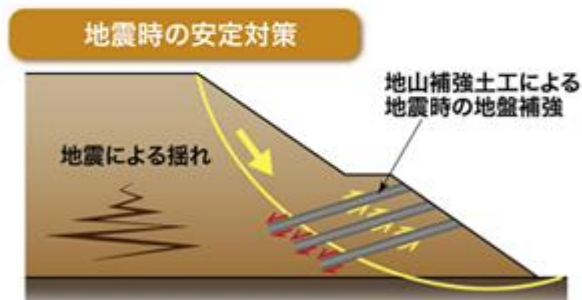
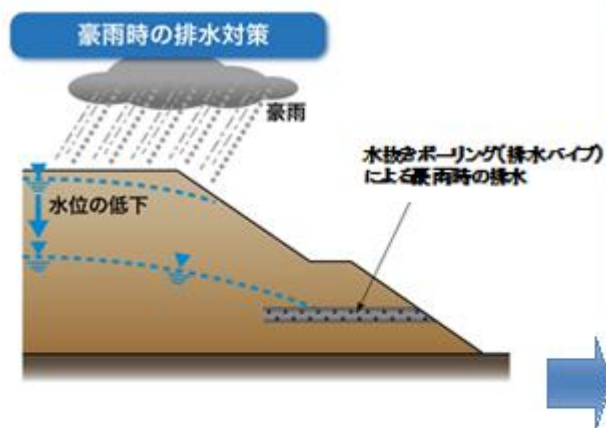
高速道路リニューアルプロジェクトで活用できる盛土補強工法を開発しました

豪雨および地震に対する盛土の安定対策工として、高速道路リニューアルプロジェクトでの活用を目指し、NEXCO西日本コンサルタンツ（株）と西日本高速道路メンテナンス九州（株）と共同で、排水効果に加え盛土補強効果を同時に得る工法として「排水機能を有するスパイラル羽根付き鋼管による盛土補強工法（SDPR工法）」を開発しました。

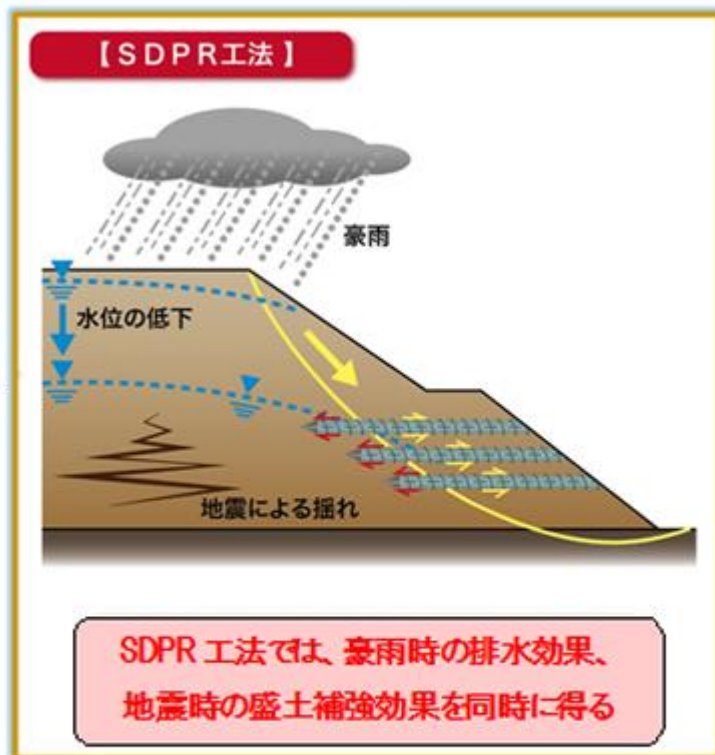
本工法は、排水パイプに鋼管を用い、スパイラル形状の羽根を取り付けることで、従来は別々に行っていた排水対策（水位の低下）と安定対策（すべり抵抗の増加）を同時に施工できるため、施工の省力化、工期短縮および工事費削減が期待できます。

これまで様々な地盤調査（材料試験）や実地試験により設計条件や施工条件の検討を行っており、また九州大学との共同研究において、豪雨時における地下水位について浸透流解析を実施して有効性も確認しています。今後は、盛土の大規模修繕にSDPR工法を活用して、高速道路リニューアルプロジェクトを進めていきます。

▼概要図



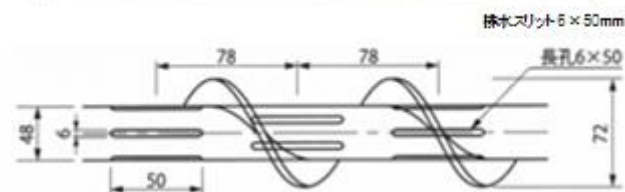
従前の工法
(水抜きボーリング+地山補強土工)



新たな工法



SDPR工法の施工状況



スパイラル羽根付き鋼管

関連ページ

- ▶ 100%の安全・安心の追求
- ▶ 排水機能を有するスパイラル羽根付き鋼管による豪雨と地震に耐える盛土補強工法
- ▶ 特集2 高速道路の長期保全

技術・ノウハウを活用したさまざまな施策

音による交通規制中注意喚起技術の展開

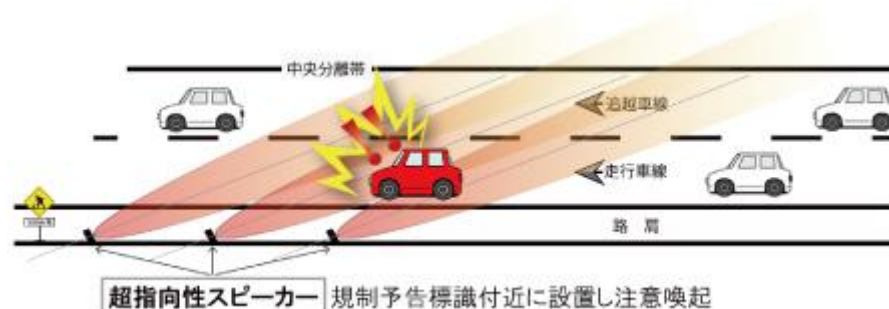
グループの技術を活用し、高速道路の安全・安心を提供しています

西日本高速道路総合サービス沖縄（株）では、2013年7月に沖縄自動車道で発生した交通規制中の事故を受け、規制箇所近づいてくる車両に対して、従来の標識などによる注意喚起に加え、音で注意喚起する超音波による指向性注意喚起システム「USIMPACT」を開発しました。

超音波は人間の耳には聞こえない高い周波数の音で、特定の方向に向かって遠くまで伝わる特性があります。USIMPACTは、交通規制をしている箇所の手前に設置し、音声を超音波に変えて車線の一定範囲に向けて照射します。照射範囲の車線にさしかかった車両に超音波がぶつくと、波形が変わって運転手の耳に聞こえる音に戻る仕組みになっています。

開発後も試行錯誤を繰り返し、2017年度に行われた沖縄自動車道の橋梁床版取り替え工事の2か月間連続した交通規制において、このUSIMPACTを使用し運転手へ注意喚起を行ったところ、車両侵入事故は発生せず、一定の効果が得られました。

引き続き開発したシステムの分析・検証を行いながら改良を重ねていき、沖縄から全国的高速道路規制作業の安全・安心を提供していきます。



USIMPACT イメージ図




USIMPACT 運用の様子

関連ページ

▶ [西日本高速道路総合サービス沖縄](#)

地方自治体等が管理する道路で、交通管理や構造物・設備の管理・保守・点検を受託しています

2017年度は、2016年度に引き続き公社が管理する橋梁の点検および検討業務について受注しました。また、高速道路を橋でまたぐ**跨道橋（OV）**  についても、管理する地方自治体から点検等を受注しています。

2018年度も、これらの業務の継続受注とともに新規路線の受注を目指し、高速道路管理で培ったノウハウや技術を活かした業務を提案・実施していきます。



ETC  保守業務

▼道路管理に関する主な業務受託

有料道路	業務内容	
南阪奈有料道路 ※大阪府道路公社管理区間	土木維持管理（土木清掃・雪氷対策・維持修繕）、施設保守業務、ETC保守業務、料金収受業務	
堺泉北有料道路	ETC保守業務	
京都縦貫自動車道 ※京都府道路公社管理区間	ETC保守業務	
ながさき出島道路	トンネル側壁清掃、トンネル排水施設清掃	
広島高速道路	トンネル点検	

一般道路	区間	業務内容
小郡萩道路 （一般国道490号）	美祢東JCT～絵堂IC	道路の包括維持管理
山口宇部道路 （県道6号山口宇部線）	朝田IC～宇部東IC	道路の包括維持管理
広島中央フライトロード （県道73号広島空港線、 県道49号本郷大和線）	河内IC～大和南IC	交通管理に関する業務
松江だんだん道路 （一般国道485号松江第五大橋道路）	松江JCT～川津IC	交通管理に関する業務
県道大見吉津仁尾線	三豊鳥坂IC	ICの維持管理

維持管理ノウハウを活かした事業を実施しています

NEXCO西日本グループの芦有ドライブウェイ（株）では、道路の維持管理に豊富なノウハウを持つNEXCO西日本と維持管理協定を締結し、路面清掃やトンネル側壁清掃にNEXCO西日本の保有車両を使うなど、業務の効率化を図っています。

トンネル側壁の清掃では、延長約1kmを1日足らずで効率的に実施し、同様に道路の路面清掃では、約10km全線を年間5回実施しています。

また、有馬温泉及び六甲山観光施設との連携を図り、芦有ドライブウェイの認知度向上と利用促進に努めています。



芦有ドライブウェイ四季折々の風景

関連ページ

▶ [芦有ドライブウェイ（株）](#) 

ウルトラファインバブルを活用した環境技術をさまざまな事業分野に展開しています

ウルトラファインバブルは $1\mu\text{m}$ 【 $1/1000\text{mm}$ 】以下の超微細気泡のことで、水の洗浄効果を向上させる環境技術です。NEXCO西日本グループではこのウルトラファインバブルを生成した水によるトイレ清掃、構造物の塩分洗浄、浄化槽汚泥減容化を実施しています。

ウルトラファインバブル水をトイレ床面に噴霧してモップ拭きするだけの作業で、従来の放水とデッキブラシ清掃に比べると、格段に人と環境にやさしい清掃となっています。現在、NEXCO西日本管内の休憩施設の約90%にウルトラファインバブル清掃を導入しています。また、高速道路だけでなく、スーパーやホテルなど環境を重視した施設清掃に活用が広がっています。



トイレ床面清掃状況

ウルトラファインバブル水を高圧で吹き付けることにより、従来の通常水に比べ付着した塩分を効率的に除去することができ、作業効率・安全性も向上しています。構造物・機械類の老朽化対策として、高速道路だけでなく塩害に悩む様々な施設設備での活用が期待されています。



桁端部塩分洗浄状況



雪氷車両洗浄システム

ウルトラファインバブルとオゾンを活用した技術により、SA・PAに設置されている浄化槽で発生する余剰汚泥の減容化が可能となり、ランニングコストの削減につながります。



浄化槽汚泥減容化ユニット

ウルトラファインバブルは、鮮度保持や生物の成長促進といった効果が期待できるため、農水産業分野でも活用が進んでいます。（株）Ligoricはウルトラファインバブル生成装置の提供を通じて地域産業振興にも一役買っています。

関連ページ

▶ (株) Ligoric [Ligoric](#)

高知県大豊町の観光施設で指定管理者事業、農業事業を行っています

NEXCO西日本グループの資産や人材を活用した取り組みの一環として、西日本高速道路エンジニアリング四国（株）では、2011年度より高知県大豊町の拠点観光施設「ゆとりすとパークおおとよ」および「道の駅大杉」の指定管理者として、施設管理と農業事業を展開しています。

また、高知大学と連携し、「ウルトラファインバブル水」(超微細な気泡を含んだ水)を用いたブルーベリーの育成促進実験や、地域と連携したイベントの企画運営や農作業を通じた地域協働実習場としての活用にも取り組んでいます。



高知大学生が企画運営したブルーベリー収穫祭の様子



高松市南新町出張販売の様子

出張販売の拡充による大豊町の知名度向上を目的に、高松市や松山市など県外にも積極的に出店しました。



道の駅「大杉」（店舗改修前）



道の駅「大杉」（店舗改修後）

道の駅店舗改装にあわせ、販売商品に大豊町で栽培生産されている農作物を使った商品を加えました。




高知大学学生の実習（椎茸の仮伏せ）の様子

高知大学地域協働学部と連携し、接客や農作業を通して、地域協働実習の場を提供しました。



ゆとりすとベリー農園のビニールハウス

関連ページ

▶ [ゆとりすとパークおおとよ](#) 

海外への事業展開と国内への応用

NEXCO西日本グループの保有する技術の海外展開

当社の強みを活かし、海外事業の展開を図っています

NEXCO西日本グループは、長年にわたる高速道路の建設・運営管理の経験によって、海外でも展開できる技術やノウハウを保有しています。細部まで整備されたマニュアルに基づく点検から補修までの一括した保全分野のマネジメント力や、SA・PAの運営ノウハウについては、海外での高速道路運営において実践されています。

具体的には、インドネシアにおいて、当社パートナー企業が建設する高速道路の施工管理をサポートする技術アドバイザーを派遣するなど技術連携を進めています。また、米国においては、NEXCO-West USA, Inc.が当社グループの保有する赤外線カメラや高解像度カメラなどの非破壊検査技術を用いてコンクリート構造物点検事業に参入し受注実績を伸ばしています。

また、国内の高速道路維持管理の高度化にあたり、米国での地中探査レーダー（GPR）を活用した道路橋床版の点検技術の動向調査や、当社グループが保有する道路構造物点検技術の健全度評価の有効性とその適用性の拡大の可能性に関する米国セントラルフロリダ大学との共同研究を通じ、技術開発の方向性を検討しています。

以上のように当社の強みを活かして海外での維持管理や建設事業を展開するとともに、海外での経験を国内の道路事業にフィードバックすることを目指して、海外業務に取り組んでいます。

米国での橋梁非破壊検査事業

米国に子会社を設立し、事業を展開しています

2011年1月、当社は米国での橋梁点検事業への参入および先端技術の調査を目的に、NEXCO-West USA, Inc.（以下「USA社」）を設立しました。

USA社では設立以来、非破壊検査技術を核とする橋梁点検、情報収集提供・研修支援および技術コンサルティングを三本の柱として事業活動を行っています。

橋梁点検業務について、州道路管理者からの受注実績を積み重ねています

橋梁点検事業では、会社発足よりインディアナ、フロリダ、オハイオ、メリーランド、ペンシルバニア、ヴァージニア他の各州にて橋梁非破壊点検を受注するなど、州道路管理者からの受注実績を着実に積んできました。

特に、赤外線カメラシステム※1とラインセンサカメラシステム※2を使用する橋梁コンクリート床版の非破壊点検は、目視や打音などに頼る従来の手法よりも、客観的かつ効率的な点検方法として、連邦道路庁や各州の道路管理者から注目されています。

※1 赤外線カメラで撮影した熱画像を独自に開発したコンピューターソフトを用いて自動で解析処理し、コンクリート内部の浮き・剥離や損傷を表示できるシステム。

※2 ラインセンサカメラで撮影した可視画像を解析し、表面のひび割れを調べるシステム。



インディアナ州での橋梁点検



赤外線カメラによる
コンクリート床版の撮影



ラインセンサカメラによる
コンクリート橋床版の撮影

米国での点検業務で培った技術を、日本国内でも役立てていきます

米国では2012年7月にMAP-21 と呼ばれる陸上交通法が制定され、2014年10月より施行されています。これにより、各州の橋梁に対して従来の上部構造、下部構造といった基本構造全体での評価に加えて床版、桁、支承、伸縮装置、橋脚、橋台といった部材レベルでの点検および評価を行ったうえでの維持管理計画の立案が義務化されました。

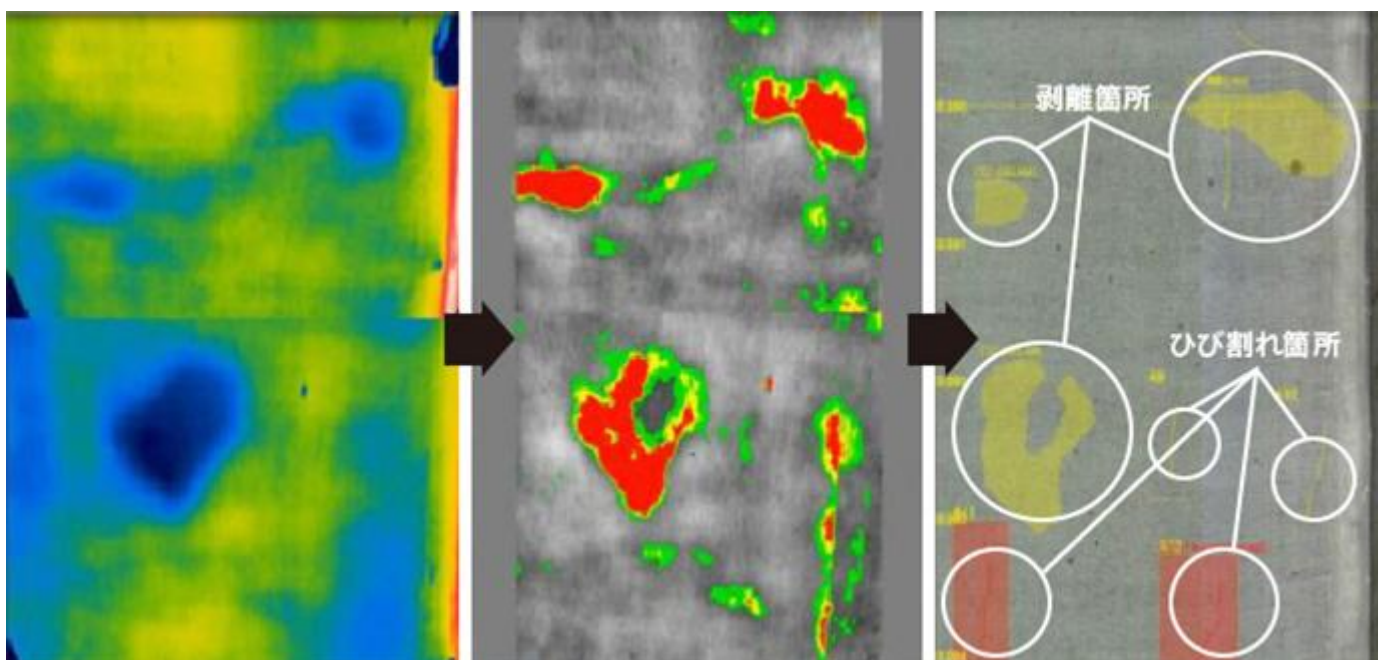
その結果、各州の道路管理者は点検コストの増大と人手不足の課題に直面することとなり、点検業務の効率化のための技術が切望されています。このような背景もあり、交通規制をせずに車両に搭載したカメラを用いて高速でデータを取得する技術のニーズが飛躍的に高まっています。

USA社では、州の道路管理者と連携し、[非破壊検査](#) 技術の利活用を促進することによって、道路橋点検の効率化および高度化に取り組んでいます。

一方、日本国内でも、2013年11月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」において、2030年頃までに国内全ての重要インフラと老朽インフラの点検・補修に、センサ、ロボット、非破壊検査技術などを活用し、精度を向上させること、また同じく2030年頃までに点検・補修などのセンサおよびロボットの世界市場の3割を獲得することが目標とされています。

USA社の米国での事業活動はこのような日本国内の動きに先行するものであり、米国で培った技術を近い将来国内の非破壊検査に役立てたいと考えています。

▼橋梁床版点検 画像解析・診断結果



(1)赤外線カメラ熱画像

(2)コンピュータ処理画像
損傷の程度を緑黄赤で3段階表示

(3)健全度診断結果の段階表示
黄：健全度2（予防保全段階）
赤：健全度3（早期措置段階）

道路以外の構造物へも事業領域の拡大を図っています

2015年度より、道路橋点検で培った非破壊検査技術を他の構造物に応用することで、事業範囲を積極的に拡大しています。

例えば、ブラジルのイタイプダム※においては、ダム管理者からの要請により、デジタルカメラによる超高精度画像コンクリート構造物診断システムを使用して、ダム堤体のひび割れや剥離の損傷検出業務を実施しました。

※ブラジルとパラグアイの国境にある水力発電用中空重力式ダムで、中国三峡ダムに次ぐ世界第二位の発電量を誇る。



イタイプダム遠景

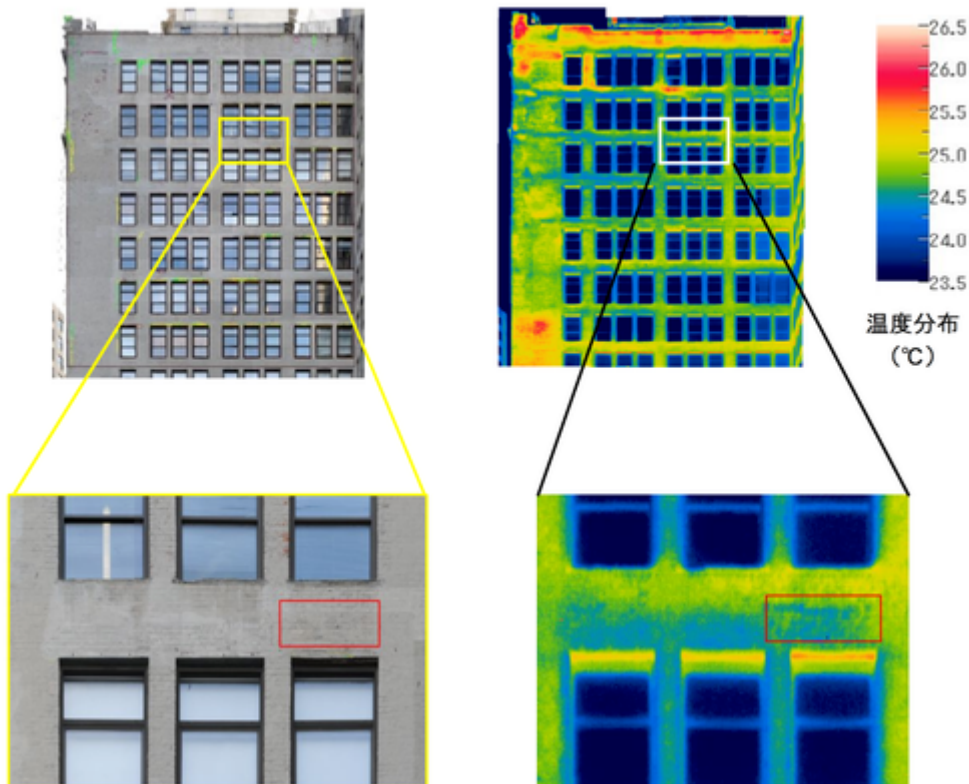


イタイプダム調査状況

さらに、ニューヨーク市での高層ビルの外壁をデジタルカメラと赤外線カメラ撮影によりひび割れや浮き等の損傷を検出する業務や、ワシントンDCの地下鉄の管理者より依頼を受け、ワシントン・メトロの橋梁部の点検も受注しました。このように道路橋にとどまらず、さまざまなコンクリート構造物の点検へも事業領域を拡大しています。

デジタルカメラ画像

赤外線カメラ画像



また、情報収集提供・研修支援および技術コンサルティング事業においても、高速道路維持管理会社に対して地中レーダーや移動式防護柵の技術導入支援を実施したほか、最近では高速道路関連会社のみならず、民間企業や大学、地方公共団体からの研修生の受け入れ要請、国内素材メーカーからの市場調査の業務依頼などが増加し、米国進出を目指す民間企業の窓口として役割を果たしています。

道路PPP事業に参画しています

当社の海外高速道路PPP事業 [IP](#) は、まずインドネシアを主なターゲットとして進めてきました。2011年2月に駐在員事務所を設置し、2014年11月に日本の高速道路会社として初めて海外の高速道路PPP事業に参画しました。

現地の高速道路運営会社であるヌサンタラ・インフラストラクチャー社（ヌサンタラ社）の資本提携によるパートナーシップを通じ、当社グループの技術・ノウハウを活用して、現地ニーズに即した技術コンサルティング業務を行うなど、本格的な事業展開に向けて第一歩を踏み出したところです。

対象路線の1つ目は、ジャカルタ近郊のビンタロー・スルポン・ダマイ（BSD）道路で、延長約7kmの高速道路で、ジャカルタ中心部と日系企業が開発をすすめる郊外を結んでいます。2016年には、NEXCO西日本グループで採用している画像転送システムを応用した「スマート・インスペクション」を導入しました。現地点検の際に、携帯型タブレットにて道路の状況写真を撮影し、情報をインプットした後に、社員と共有し、道路の損傷状況により、補修計画を作成するものです。このシステムは、BSD道路の維持管理や今後の業務改善で汎用性を高めていくと共に、ヌサンタラ社が行う高速道路の建設・施工管理へも展開する予定です。



ポンドックアレン料金所



BSD道路全景

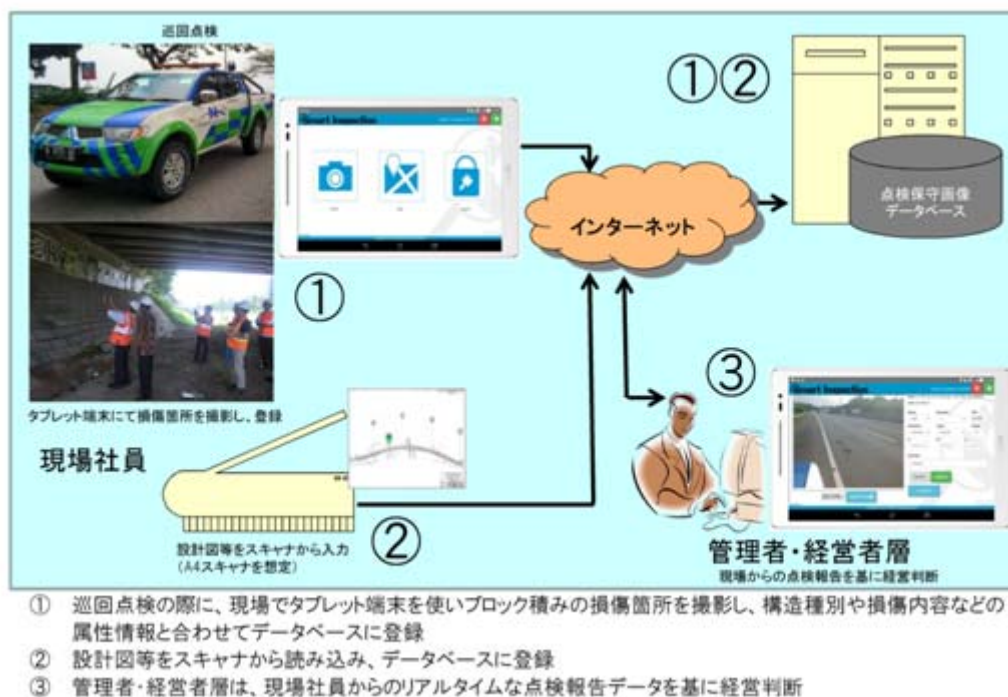


BSD道路位置図



スマート・インスペクション活用シーン

スマート・インスペクションシステム全体概要



また、ヌサンタラ社が行うマカッサル有料道路事業の建設における施工管理、品質管理及び事業費管理のサポートのため、NEXCO西日本社員をアドバイザーとして派遣しています。



ジャカルタ及びマカッサルにおける高速道路の維持管理において、道路の業務改善ワーキンググループを立上げ、先だってBSD道路を管理する現地スタッフとNEXCO西日本の社員が協力し、安全で快適な道路環境維持のための管理手法を検討しています。



インドネシアでの連携会議の様子



橋梁日常点検

事業拡大に向けた各種調査

海外事業拡大に向けた各種調査を実施しています

国土交通省が募集したインドネシアにおけるPPPインフラ事業への参画に向けた事業の妥当性・効率性に関する事前調査である「マカッサル環状道路事業化調査」を実施し、またコンサルティング業務として、JICA（国際協力機構）が募集したザンビアにおける「橋梁維持管理能力向上プロジェクト」も実施しました。

これらの調査を実施することによって、コンサルタント業務の受注や他のビジネスフィールドに事業を拡大する契機となるよう取り組んでいます。



ザンビア国橋梁維持管理能力向上プロジェクト

毎年100名以上の海外研修生を受け入れています

当社は、JICA長期専門家として、過去5名の社員をパラグアイ、スリランカ、インドネシア、モザンビーク、ミャンマーに派遣しています。これらは国際貢献活動であると同時に、当社の海外要員の育成においても貴重な経験となりました。

また、国土交通省やJICAなどと連携して、アジアやアフリカを中心とした開発途上国を中心に毎年100名程度の研修生を受け入れており、研修生個人の能力向上のみならず、海外諸国との友好関係の構築にも役立っています。

これらを通じて培った開発途上国でのネットワークを基礎にして、途上国の技術者の育成や道路管理技術の向上に貢献したいと考えています。



JICA集合研修 新名神建設現場見学

自治体や関連団体と連携した取り組み

ドライブパスの実施

自治体と連携して、地域の魅力発信に取り組んでいます

自治体や関係団体と連携した観光振興の取り組みの一つとして、ETC限定で周遊エリアの高速道路が定額で乗り放題となる「ドライブパス」を実施しています。

2017年度は、関西・中国・四国・九州各地域のドライブパスや、訪日外国人向けの企画等の実施により、約20万件のご利用がありました。

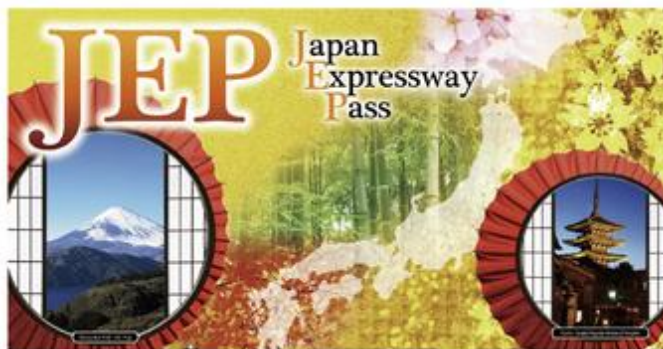
2018年度は、対象エリアの見直しやSA・PAでの特典の充実など、より魅力のある商品となるよう改善し、各種ドライブパスを継続して実施するとともに、二輪車限定のツーリングプランも新たに実施しています。

今後もお客さまに喜んでいただける商品を企画し、高速道路ネットワークを活用した地域の魅力発信に取り組んでいきます。

▼2017年度の主なドライブパス

ぶらり中国 ドライブパス2017	31,744件
San'in-Setouchi-Shikoku Expressway Pass	1,554件
Kyushu Expressway Pass	33,556件
四国まるごと ドライブパス！2017	15,549件
京都・若狭路・びわ湖 ぐるっとドライブパス 2017	9,836件
九州よかよか ドライブパス2017	111,831件
Japan Expressway Pass	282件
Kansai Expressway Pass	107件

※2017年度内のご利用件数を集計したものです。



2017年度より新たに商品化した訪日外国人向け周遊割引企画

関連ページ

- ▶ [ドライブパス（周遊エリア内の高速道路が定額で乗り放題](#)

オフィシャルパートナーとしての活動

国や自治体と協働し、地域の活性化に取り組んでいます

当社は2017年3月に環境省と「国立公園オフィシャルパートナーシップ」を締結し、ドライブパスの沿線に位置する国立公園の魅力を発信することにより、地域間交流の促進や地域の活性化に取り組んでいます。

また、2025年国際博覧会（万博）を大阪・関西へ誘致するため、誘致活動を支援する「オフィシャルパートナー」として、SA・PAにのぼり旗を設置してPRを行うなど、認知度の向上や気運の醸成に向けた誘致プロモーション活動に積極的に協力しています。



お国じまんカードラリーの展開

自治体と連携して広域的な観光振興に取り組んでいます

2014年度から自治体と連携して、「お国じまんカードラリー」を実施しています。自治体を選んだ観光地やSAに設置したカードを集めて、抽選で地域の名産が当たるキャンペーンで、2017年度は1万人を超えるお客さまにご参加いただきました。そのうち約半数のお客さまがこのカードラリーを目的としてご旅行されており、新たな観光需要を生み出しています。2018年度も23府県と連携して当キャンペーンを実施しており、今後も西日本各地に広がる当社ネットワークを活かし、広域的な観光振興に取り組んでまいります。



「お国じまんカードラリー」
キャンペーンパンフレット



GO ! JIMANカード



PRの様子

投資家・国民の皆さま

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

透明性の高い経営の推進と着実な債務の返済

外部評価による透明性確保

- ▶ 事業評価監視委員会による外部評価を受け、事業の効率性・透明性を向上させています

低利率かつ安定的な資金調達

- ▶ 道路建設資金の安定的な調達に努めています

WEB

- ▶ 「SMBCなでしこ融資」による資金調達 **WEB**

ステークホルダーとの対話

社長による定例記者会見

- ▶ 毎月の開催を通じて、事業への理解の浸透に努めています

投資家・金融機関の皆さまとの対話

- ▶ 事業説明会を毎年開催し、わかりやすく丁寧な情報提供を心がけています **WEB**
- ▶ 個別訪問を実施し、タイムリーな情報提供を心がけています **WEB**

地域住民の皆さまとの対話

- ▶ 地元・関係者の皆さまとの協議・事前説明を徹底しています **WEB**

現場見学会「なるほど！高速道路発見」

- ▶ 高速道路の現場を多くの皆さまに見学していただいています **WEB**

メディアを通じた情報発信

マスコミ向けプレスツアーの開催

- ▶ 新名神高速道路（高槻JCT～神戸JCT）の開通に先駆け、マスコミ向けプレスツアーを開催しました

積極的な情報発信

- ▶ 高速道路を快適にご利用いただけるよう、積極的な情報発信に努めています **WEB**

透明性の高い経営の推進と着実な債務の返済

外部評価による透明性確保

事業評価監視委員会による外部評価を受け、事業の効率性・透明性を向上させています

NEXCO西日本では事業の効率性・透明性の向上を図るため、社外の有識者からなる事業評価監視委員会を設置しています。毎年1回開催し、当社の高速道路事業について第三者の立場から評価をいただき、今後の事業計画に役立てています。委員会の開催状況はウェブサイトでも公開しています。

2017年度 事業評価監視委員会 委員

○ 常任委員

出野 精二〔(公社)関西経済連合会 常務理事・事務局長〕

帯野 久美子〔(株)インターアクト・ジャパン 代表取締役〕

正司 健一〔神戸大学大学院教授〕

戸田 常一〔広島大学大学院教授〕＝委員長

中瀬 勲〔兵庫県立人と自然の博物館 館長〕

○ 特別委員

長谷川 修一〔香川大学教授〕

2017年度 事業評価監視委員会 事業評価対象事業

○ 再評価※1

近畿自動車道名古屋神戸線（大津JCT～城陽）25.1 k m

近畿自動車道名古屋神戸線（城陽～高槻第一JCT）14.2 k m

一般国道42号 湯浅御坊道路（有田～御坊）4車線化19.4 k m

四国横断自動車道阿南四万十線（鳴門～高松市境）4車線化51.8 k m

計4事業110.5km

※1 再評価：採択後3年を経過して未着工の事業および5年を経過して継続中の事業、再評価実施後3年経過した時点で継続中もしくは未着工の事業について実施し、事業の継続もしくは中止の方針を決定します。

関連ページ

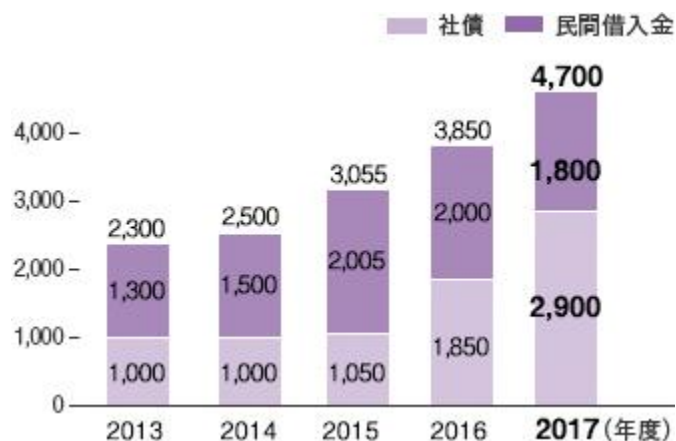
▶ 平成29年度 西日本高速道路株式会社 事業評価監視委員会

低利率かつ安定的な資金調達

道路建設資金の安定的な調達に努めています

高速道路事業の遂行に必要な資金については、社債の発行や民間金融機関からの借入等によって調達しています。建設から管理まで長期にわたる事業となるため、低利かつ安定的に調達できるよう努めています。

▼資金調達の推移（単位：億円）



関連ページ

▶ 高速道路事業とNEXCO西日本の役割（高速道路機構の債務残高）

「SMBCなでしこ融資」による資金調達

2017年度は、高速道路会社としては初となる「SMBCなでしこ融資」※を実施しました。当社における女性活躍推進の取り組み状況・実績を踏まえ、今後、女性の活躍が期待できる「女性活躍のグロース企業」との評価となりました。

なお、今回の融資によって調達した資金は、高速道路の新設、改築または修繕、災害復旧に要する費用に充当されます。

※企業の女性活躍推進の取り組み状況を独自の基準で評価し、現状の取り組み状況や今後の課題、その課題への取り組み事例などを提供する（株）三井住友銀行の融資商品



融資実行証授与式の様子

関連ページ

▶ 「SMBCなでしこ融資」を利用した資金調達の実施

ステークホルダーとの対話

社長による定例記者会見

毎月の開催を通じて、事業への理解の浸透に努めています

当社グループの経営状況、建設・管理、関連事業等への取り組みに対する理解を深めていただくため、社長による記者会見を毎月開催し、情報発信に努めています。

また、投資家や金融機関の皆さまを対象に事業説明会を毎年開催し、経営層と直接対話いただく機会を設けています。



記者会見

投資家・金融機関の皆さまとの対話

事業説明会を毎年開催し、わかりやすく丁寧な情報提供を心がけています

毎年7月に投資家や金融機関の皆さまをはじめとした市場関係者を対象に事業説明会を開催し、当社の事業に対する理解を深めていただけるよう努めています。

企業情報や決算情報に加え、2017年度は、近畿圏の新たな高速道路料金、新名神高速道路の建設状況、高速道路リニューアルプロジェクト（特定更新等工事）の主な工事計画のほか、2017年度の資金調達についてご説明しました。質疑応答などを通じて、経営層と直接対話していただく機会とすることで、双方向のコミュニケーションの場としても活用いただいています。

今後も皆さまの関心が高い事項をご説明するなど、より充実した説明会となるように努めていきます。

投資家・金融機関の皆さまへの個別訪問を実施し、タイムリーな情報提供を心がけています

投資家や金融機関の皆さまを個別に訪問し、事業のスキームや債務の特徴をはじめ、事業計画、財務情報等、関心が高い事項についてご説明しています。

今後も、当社の事業に対するいっそうの理解促進を図るべく、積極的かつタイムリーな情報提供に努めていきます。



2017年7月21日 事業説明会

地域住民の皆さまとの対話

高速道路の新設・改築の際は、地元・関係者の皆さまとの協議・事前説明を徹底しています

高速道路を新設・改築する際には、地元自治体や警察、公共施設の管理者などの各関係機関や、計画道路の沿道地域の皆さまと入念な協議を重ねたうえで事業を進めています。

また、説明会や設計協議 [☞](#) の場でいただくご意見については、設計や計画に可能な限り反映させるよう努めています。

事業の全体概要はもちろん、環境対策や事業用地の取得など特に関心の高い事項については、必要に応じて現地での立ち会いや説明会を実施し、関係者の十分な納得が得られるまで説明を行っています。



事業説明会（新名神大津事務所）



境界立会（新名神京都事務所）

現場見学会「なるほど！高速道路発見」

高速道路の現場を多くの皆さまに見学していただいています

普段は、目にすることのできない高速道路の現場を多くの皆さまに見学していただき、当社の安全・安心の取り組みなどを“なるほど！”と発見していただく、現場見学会「なるほど！高速道路発見」を2014年度から開催しています。これまでに1,889組4,967人のご応募をいただき、348組1,059人のお客さまにご参加いただきました。

道路建設事業では新名神高速道路をはじめとした各地の建設工事現場、道路保全事業では道路維持や道路パトロールで使用する車両の乗車体験などの見学会を開催しました。

また、社員の技術力向上を目的として開設した茨木技術研修センターでは、親子を対象に、劣化した橋梁のたたき点検、料金所など、高速道路に関係するさまざまな業務を体験していただきました。

参加いただいたお客さまからは「普段走っている高速道路のうらがわが見学できてよかった」「スケールの大きさに感動した」「いろいろな工夫をしながら高速道路を造っていることがよくわかった」などのご感想をいただいています。

今後も親子で参加していただける夏休み企画などのニーズの高い見学会を開催し、多くのお客さまに当社の安全・安心の取り組みなどを知っていただけるよう、積極的な広報に努めていきます。



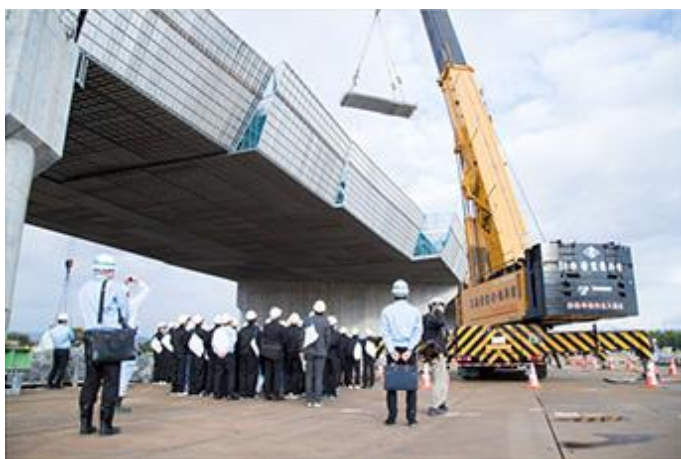
パトロール車両乗車体験の様子



新名神高速道路
現場見学会の様子



現場見学会の専用受付サイト
「なるほど！高速道路発見」



学生向け現場見学会の様子

メディアを通じた情報発信

マスコミ向けプレスツアーの開催

新名神高速道路（高槻JCT～神戸JCT）の開通に先駆け、マスコミ向けプレスツアーを開催しました

プレスツアーでは、トンネル内に設置する高機能LED照明灯具により定速走行を支援する『ペースメーカーライト』や、火災通報・非常電話に連動した『自走式ロボットカメラ』などの日本で初めて導入する新技術を公開しました。

また、冬季に実施する冬用タイヤ規制時のタイヤチェックを迅速化・効率化する目的で試行導入する『冬用タイヤ自動判別システム』のデモンストレーションをマスコミ向けに公開し、テレビ・新聞等を通じ、高速道路の安全・安心に向けた取り組みを積極的に情報発信しました。



新名神開通前プレスツアー（トンネル）



新名神開通前プレスツアー（本線部）



冬用タイヤ自動判別システムデモンストレーション

高速道路を快適にご利用いただけるよう、積極的な情報発信に努めています

当社では、50周年を迎えた名神高速道路をはじめとして、建設から30年以上が経過した道路を多く管理しており、老朽化した高速道路の抜本的な補修を行っております。

特に、2015年3月25日に国土交通省より事業認可を受け、本格的に着手した高速道路リニューアルプロジェクト（大規模更新・修繕事業）では、長期間にわたる交通規制が必要となります。

高速道路リニューアルプロジェクトや集中工事は、ご利用されるお客さまをはじめ、高速道路沿線の皆さまにも大きな影響を及ぼすことから、多くの方にご理解いただけるよう、高速道路の損傷や老朽化の状況をお知らせし、健全な道路を次世代につなげるための工事であることを広く認識いただくため、テレビ・ラジオCMをはじめ、高速道路本線の電光掲示板やSA・PAのハイウェイ情報ターミナル、リーフレット、ポスター、フリーペーパー、ウェブサイト、お客さまセンターなど、あらゆるコミュニケーション手段を活用してお客さまにお伝えしています。さらにプレスツアーを開催し、マスコミを通じて老朽化した道路構造物や施工状況を積極的に情報発信しております。

また、WEBサイトでは、渋滞を回避して快適にご利用いただくため、工事規制予測や渋滞予測の情報を掲載するなど、日々、新鮮でお役立ちいただける情報発信に努めています。



リフレッシュ工事特設サイト



ウェブサイト



ポスター



リーフレット

お取引先

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

公正な取引関係



基本的な考え方

- ▶ 契約の基本方針

発注事務に係る綱紀保持

- ▶ 社内規程を制定し、社会からの信頼を確保できるよう努めています

契約に関する情報公表と適正な契約相手方の選定手続き

- ▶ 契約手続きの透明性確保のため、入札・契約情報を公表しています **WEB**
- ▶ 入札手続き等について、外部有識者による審議を受け、概要を公表しています **WEB**

暴力団関係企業等の排除を徹底

- ▶ 警察当局と連携し、公共工事から暴力団関係企業等の排除を徹底しています **WEB**

SA・PAのテナント会社との協働



「地域物産展」の開催

- ▶ 「地域物産展」を開催し、地域の魅力発信に取り組んでいます **WEB**

SA・PAのテナント会社との継続的な取り組み

- ▶ SA・PAのテナント会社向け研修会・講習会を実施
- ▶ 誤給油の危険性への認識を深め、防止徹底を図っています **WEB**

防犯講習会（不当要求含む）

- ▶ 警察署の協力のもと、防犯意識の向上を目的にした訓練を実施しています **WEB**

SA・PAのテナント会社と地域企業のビジネス創出

- ▶ ビジネスマッチングの開催

公正な取引関係

基本的な考え方

「公共調達に係る契約に関する事務を適正かつ円滑に処理し、競争性・公正性・透明性を確保しつつ会社の経営の効率化を図る」という目的達成のため、基本方針をもとに取り引きを行っています。

契約の基本方針

1. 競争原理と経済性の追求
2. 品質の確保とさらなる向上
3. 契約機会の提供と拡大
4. 適正な契約相手方の選定
5. 法令等の遵守

発注事務に係る綱紀保持

社内規程を制定し、社会からの信頼を確保できるよう努めています

発注者の綱紀保持に関する社内規程を制定し、発注事務に対する社会の信頼確保に向けて取り組んでいます。

この規程には、社員が遵守すべき事項として、情報の適切な管理、事業者との応接方法及びこれらに抵触した事実を確認した場合の通報義務等を定めています。

またこの取り組みについて、事業者の方々からの理解、協力を得るために、ウェブサイトや入札に関する指示書でお知らせしています。

関連ページ

▶ [発注者綱紀保持](#)

契約に関する情報公表と適正な契約相手方の選定手続き

契約手続きの透明性確保のため、入札・契約情報を公表しています

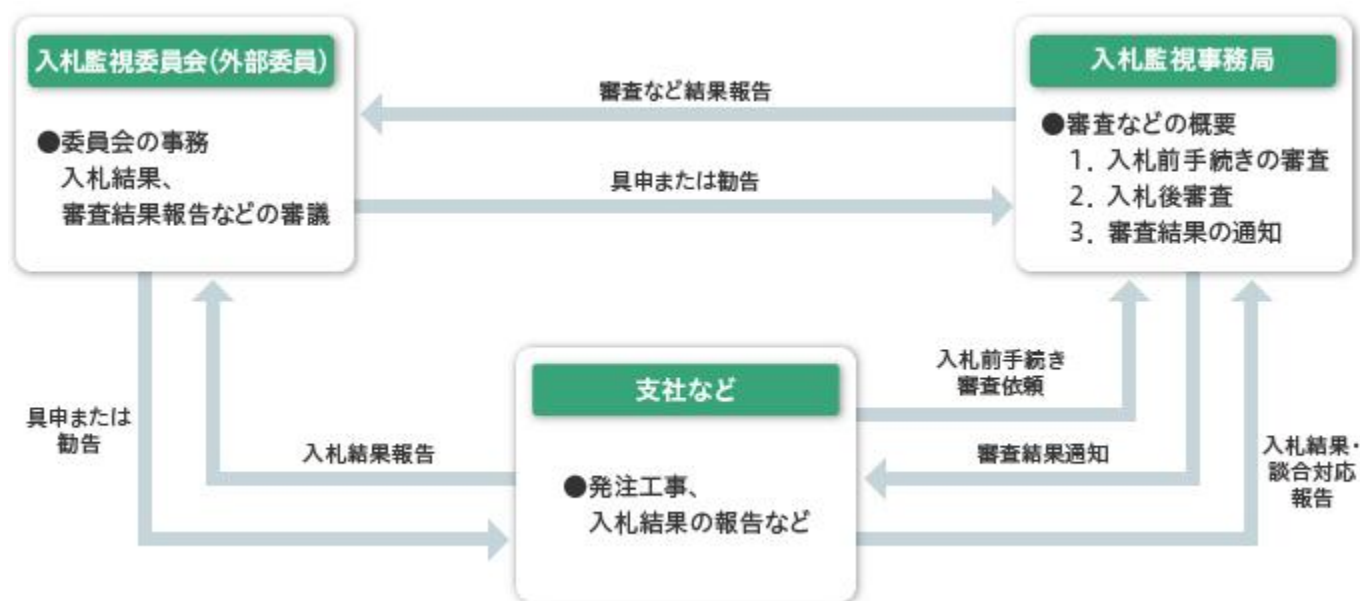
「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」に基づき、公共調達に係る契約手続きの透明性を確保するため、工事・調査等の入札・契約情報をウェブサイト内の「調達・お取引」で公表しています。

入札手続きの過程および結果について、外部有識者による審議を受けウェブサイト上で概要を公表しています

入札手続きの過程や手続きの透明性を確保するため、各支社に弁護士、大学教授など外部有識者からなる「入札監視委員会」を設置し、定期的に審議を受けています。なお、委員会の審議概要は、ウェブサイトの「調達・お取引」で公表しています。

また、社内においても事業部門から独立した「入札監視事務局」を設置し、工事の発注単位等の事前審査、入札・契約結果に関する事後審査、契約に関するデータ収集・分析を実施しています。

▼入札手続きなどの監視体制



関連ページ

- ▶ 調達・お取引
- ▶ 入札監視委員会の審議概要

暴力団関係企業等の排除を徹底

警察当局と連携し、公共工事から暴力団関係企業等の排除を徹底しています

警察との連絡協議体制をいっそう強化し、公共工事からの暴力団関係企業等の排除を徹底するため、「公共工事からの暴力団関係企業等の排除に関する合意書」（2013年3月29日）を警察庁との間で締結しました。

警察との緊密な連携のもとに十分な情報交換等を行い、この合意書に基づく警察からの排除要請があれば、速やかに必要な排除措置を講じるなど、適切に取り組んでいます。

SA・PAのテナント会社との協働

「地域物産展」の開催

「地域物産展」を開催し、地域の魅力発信に取り組んでいます

地域色豊かな特産品をSAにおいて販売する地域物産展を、2014年5月から原則毎月第2土曜・日曜に開催しています。地域商材を多くのお客さまに知っていただくことで地域の魅力をアピールし、地域に喜んでいただくことを目的としています。

「平成28年熊本地震」から1年が経過した2017年4月の地域物産展では、九州の一部サービスエリアにおいて、復興支援を目的としたイベント「SAPA絆プロジェクトfor熊本」を開催。熊本県商品の販売のほか、各市町村によるPRブースやゆるキャラの登場、お客さま参加型のメッセージパネルの作成、熊本県の高校生によるパフォーマンスを実施しました。

2017年11月には、「秋の味覚大物産展」を開催。季節の野菜・果物を中心に品揃えし、ウェルカムゲート設置の一部エリアでは近隣地域へのチラシの折り込み・配布を実施し、地域のお客さまにもご来場いただきました。

今後も各テナント会社や地元の商工会等と協働しながら継続開催することで、より多くのお客さまに地域の魅力を発信していきます。



SAPA絆プロジェクトの様子for熊本
(九州自動車道 古賀SA 上り線)



秋の味覚大物産展の様子
(山陽自動車道 吉備SA 下り線)

SA・PAのテナント会社との継続的な取り組み

SA・PAのテナント会社向け研修会・講習会を実施

お客さまに、安全に、そして安心してSA・PAを利用していただくことが、あらゆるサービスの前提です。

SA・PAのテナント会社を対象に、アレルギー知識の習得及びアレルギー表示ミスの撲滅を目的としたアレルギー講習会を12月に開催しました。

さらに、中核SSとして指定されている西日本管内の全ガステーションを対象に、防災意識の向上並びに災害時の燃料油安定供給体制の構築を目的とした災害対応研修会を11月に実施しました。

お客さまに安心してSA・PAを利用していただけるよう、今後も継続して講習会等を実施する予定です。



アレルギー講習会の様子

誤給油の危険性への認識を深め、防止徹底を図っています

高速道路における誤給油による車両停止は、死亡事故にもつながりかねない非常に危険な事象です。

そこで2016年度に、誤給油撲滅を目指して、誤給油対策本部を設置し、セルフ給油お客さま向けの誤給油防止ポスターやステッカー掲示、ウェブサイトや各種広報物による広報強化を実施しています。

また、誤給油防止教材（DVD）を製作して従業員教育の強化を図り、再発防止に向けたテナントやメーカーとの意見交換会などを実施しました。

2018年度も従業員の認識を深める誤給油防止への取り組みを継続して実施します。



誤給油防止訓練の様子



誤給油防止訓練の様子

防犯講習会（不当要求含む）

警察署の協力のもと、防犯意識の向上を目的にした訓練を実施しています

2017年度は、防犯意識の向上と犯罪抑止を目的に、防犯訓練を実施しました。警察署の協力のもと、各現場責任者および従業員が参加し、店内強盗シミュレーションや情報伝達等の模擬訓練、カラーボールの投てき訓練等を行いました。

2018年度も防犯意識の向上を目的とした防犯訓練を実施します。



防犯訓練の様子

SA・PAのテナント会社と地域企業のビジネス創出

ビジネスマッチングの開催

地域産品の販路拡大や新たな地域の逸品の開拓、地域の食材を活かした食事メニューの開発などを目的に、地域企業とSA・PAのテナント会社による商談会（ビジネスマッチング）を開催しています。2017年7月に(株)西日本シティ銀行・(株)長崎銀行・(株)豊和銀行と連携して実施した『九州ハイウェイ大商談会』では、計140社が参加し、延べ297商談のうち、45商談が成約に至りました。この取り組みにより、地域社会の活性化に貢献してまいります。



ビジネスマッチングの様子

グループ社員

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

人材の育成



キャリアマネジメントの取り組み

- ▶ 社員のキャリア・能力開発を支援する人事制度の構築に取り組んでいます **WEB**
- ▶ 目指す人材像 **WEB**

人材育成の考え方

- ▶ NEXCO西日本グループの使命を担っているグループ社員一人ひとりの成長を支援します

資格取得の支援

- ▶ 公的資格の取得を奨励・支援しています **WEB**

採用選考

- ▶ 人物像に重きを置いた採用選考を実施しています **WEB**

研修制度

- ▶ 技術力・専門力を高めるための研修を行っています **WEB**

ダイバーシティの推進



ダイバーシティ推進の考え方

- ▶ 一人ひとりの社員がより活躍できる組織作りを行っています
- ▶ 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画（抜粋） **WEB**

仕事と家庭の両立支援

- ▶ ワーク・ライフ・インテグレーションの実現に向けた環境整備に取り組んでいます
- ▶ 次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画（抜粋） **WEB**

障がい者の雇用促進

- ▶ 障がい者が働きやすい職場づくりに取り組んでいます **WEB**

定年後再雇用制度

- ▶ 定年退職者に活躍の機会を提供しています **WEB**

働き方改革



働き方改革の考え方

- ▶ 働き方改革を通じた生産性の向上に取り組んでいます

具体的な取り組み策

- ▶ 社員の健康管理の強化に取り組んでいます **WEB**
- ▶ 安心して働ける職場環境づくりを進めています **WEB**
- ▶ 新技術の開発・導入により生産性の向上を図っています **WEB**

グループ会社の取り組み



西日本高速道路エンジニアリング関西（株）

- ▶ 女性技術者会議を開催しています

西日本高速道路メンテナンス中国（株）

- ▶ 清掃員の安全確保に取り組んでいます

西日本高速道路エンジニアリング四国（株）

- ▶ 業務の効率化に取り組んでいます

西日本高速道路メンテナンス九州（株）

- ▶ 高速道路上での作業の安全性向上に取り組んでいます

人材の育成

キャリアマネジメントの取り組み

社員のキャリア・能力開発を支援する人事制度の構築に取り組んでいます

NEXCO西日本グループが将来にわたって、「100%の安全・安心」を追求するとともに、円滑で快適な高速道路サービスを提供し、国民の皆さまから信頼される企業であるためには、現場主義に徹した自律型人材を育成する必要があります。

そこで、社員の成長と会社の成長をつなぐための人材育成指針として「目指す人材像」を設定し、その実現に向けたキャリア・能力開発支援を柱とした人事制度の構築に取り組んでいます。

目指す人材像

私たちは、「100%の安全・安心」を追求し、円滑で快適な高速道路サービスを提供するために、『現場主義に徹して、自ら考え行動し、自己変革し続けるプロフェッショナルな人材』を目指します。

人材育成の考え方

NEXCO西日本グループの使命を担っているグループ社員一人ひとりの成長を支援します

当社グループでは、自律型人材の育成や自己変革組織を実現するため、「社員の成長、人材育成」「リーダーシップ・マネジメント力強化」「組織力・現場力強化」の3つを柱とした人事制度の構築に取り組んでいます。

若年層のうちは、幅広く業務の全般を学び、OJT※を通じて自ら目的意識を持って考え行動する「自律型人材」への成長を促すとともに、グループ理念である「高速道路の安全・安心を最優先に、お客さまの満足度を高める」ため、グループ会社間における人事交流を実施し、実践力を備えた人材の育成に努めています。

※ OJT(On-the-Job Training)：職場内において、管理監督者の責任のもとで行われる教育訓練全般。

資格取得の支援

公的資格の取得を奨励・支援しています

NEXCO西日本では、業務に密接（直結・有益）する資格の取得を奨励・支援するため「資格取得支援制度」を導入し、受験費用の補助や報奨金の支給などを行っています。

▼資格取得支援制度による資格取得例

技術士、防災士、コンクリート診断士・宅地建物取引士、建築士・危険物取扱者など多数

採用選考

人物像に重きを置いた採用選考を実施しています

「自立」と「成長」を積極的に担う多才な人材を確保するため、当社グループが求める才能、人材像をより明確に定義した採用選考活動を実施しています。

また、大阪、福岡、東京で会社説明会を実施し、先輩社員との座談会を通じて、当社グループの使命や実際に働く社員の想いを伝える取り組みを行っています。2018年度の新入社員は135人（男性106人、女性29人）※です。

※集計範囲：NEXCO西日本

NEXCO西日本が採用に当たって求める人材

1. 目的意識や信念を持って活動する人材
2. チームワーク志向と使命感、熱い思いを持った人材
3. 旺盛な好奇心・探究心、向上心、チャレンジ精神を持った人材
4. 地域社会への貢献に意欲ある人材

研修制度

技術力・専門力を高めるための研修を行っています

保全事業の高度化・効率化、新規建設事業や大規模更新・修繕事業など、着実な事業実施を支える技術者をサポートすべく、茨木技術研修センター（I-TR＝アイトレ）を活用し、計画設計・建設・維持補修・更新など一連の高速道路事業に関わる技術研修を通年実施し、グループ会社社員も含めた技術力の向上や専門技術者の育成に取り組んでいます。

I-TRでは、劣化した実構造物やETC設備・料金機械設備など様々な「実物」を設置しており、体験実習を行うことで理解度の向上を図っています。

研修内容は、社内外の情勢等により求められる高速道路技術の変化に対応すべく随時見直しを行っており、昨今では、工事安全管理、点検診断技術、リニューアル技術、耐震補強技術などに関する研修の充実を図っています。

また、これら研修実施に加えて、学協会や外部機関が主催する学会や委員会等へ社員の積極的な参画を促しています。

▼I-TRで実施している主な研修

分野	目的	研修内容
橋梁	建設基礎技術の習得、点検・診断・補修・更新など保全技術の習得	実構造物や実物教材の活用により、技術変遷や劣化メカニズム、長期保全のポイントなどを解説 打音点検や非破壊検査などを体験実習
舗装		実構造物や実物教材の活用により、舗装構成の理解や点検・補修工事での留意事項などを体験実習
土工		実験装置や実物教材の活用により、斜面安定の理解や荷重試験などを体験実習
工事安全管理	工事中重大事故リスクマネジメントの習得	足場や安全装具など実物教材の活用により、工事中安全の基礎を解説 重大事故アセスメントなどを体験実習
特定更新	専門知識の習得、技術的課題の把握と課題解決能力の向上	実構造物の活用により、劣化メカニズムや床版取り替え技術を解説
点検・診断		実構造物の活用により、点検・診断技術を解説し、体験実習
ETC設備	設備構成の知識や障害対応の習得	実物シミュレーターの活用により、各機械の操作方法を解説、障害対応を体験実習
料金徴収		実物シミュレーターの活用により、各機械の操作方法を解説、動作検証や障害対応を体験実習



実構造物を活用した打音点検



auto CIMA Systemによる撮影・診断

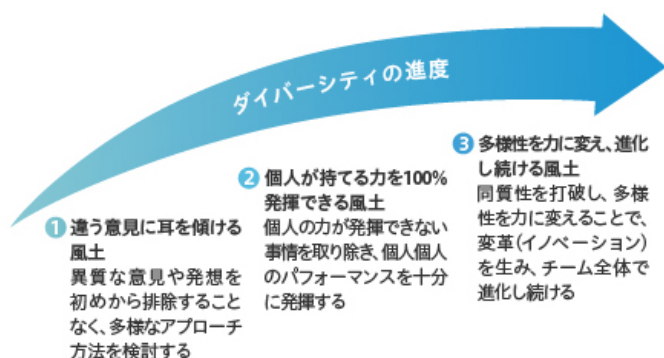
ダイバーシティの推進

ダイバーシティ推進の考え方

NEXCO 西日本では、『違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ』というビジョンを策定し、一人ひとりの社員がより活躍できる組織作りを行っています

様々な違いを持った社員一人ひとりが自律・成長することにより、会社を取り巻く様々な環境の変化にしなやかに対応できる組織を作り、そのパフォーマンスを最大化させることを目的とし、経営課題として、「社員の意識醸成」「活躍を後押しするしくみや制度の構築」の両面から長期的、継続的に取り組んでいます。

違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ



ダイバーシティ推進ビジョン

社員の活躍を支援する切り口の一つとして、女性の活躍推進に取り組んでいます。長年培われた男性中心の働き方を見直し、課題を抽出。女性社員同士のネットワーク構築や、女性社員と経営幹部との意見交換会の実施など、女性社員のキャリア意識向上、相互理解のための取り組みを展開しています。

現在、女性活躍推進法に基づき策定した行動計画をもとに、「採用」「育成」「環境整備」の各側面から女性の活躍を推進しています。

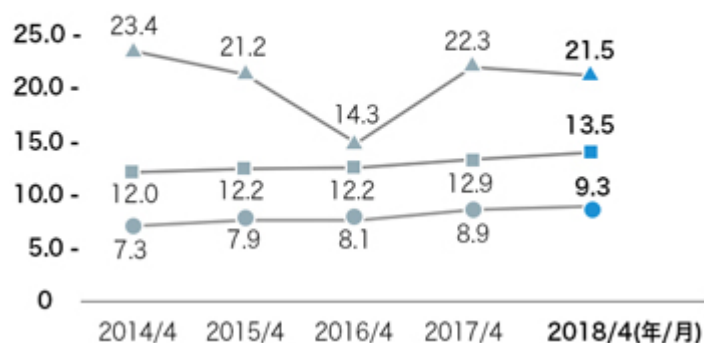
女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画（抜粋）

＜目標＞ 平成28年4月1日～平成33年3月31日

1. 新規採用に占める女性の割合を30%以上に拡大する
2. 社員のキャリア形成支援を図る
3. あらゆる社員が働きやすく活躍できる環境を構築する

▼女性社員の比率（NEXCO西日本）

■ 全社員に占める比率 ● 総合職に占める比率
▲ 新入社員の女性比率



ワーク・ライフ・インテグレーションの実現に向けた環境整備に取り組んでいます

「ワーク・ライフ・インテグレーション」^①とは、会社での仕事（ワーク）と個人の生活（ライフ）を柔軟かつ高次元に統合（インテグレート）することで、生産性や成長の拡大を実現するとともに、生活の質を上げ、充足感と幸福感を得ることを目指すものです。

「ワーク・ライフ・インテグレーション」の実現に向けて、仕事と家庭の両立を支援する取り組みを進めています。また、ボランティア休暇などの特別休暇や、リフレッシュ休暇、メリハリ休暇、メモリアル休暇などの年休取得促進制度などを導入し、社員が仕事も家庭も充実させ、両者の相乗効果でより活躍できるよう、制度の充実や環境整備に取り組んでいます。

次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画（抜粋）

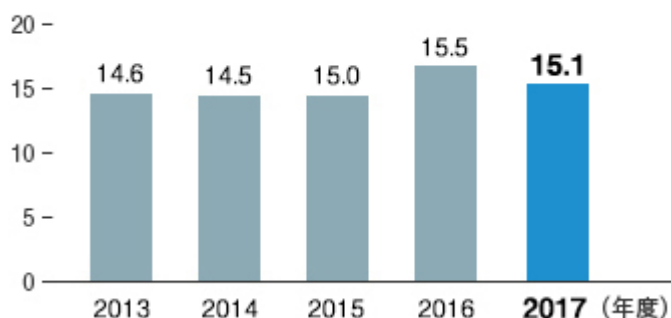
<計画期間> 平成29年4月1日から平成31年3月31日まで

目標1 育児休業等制度の周知や育児参加に対する意識啓発に取り組み、男性社員の積極的な育児参画を目指す。

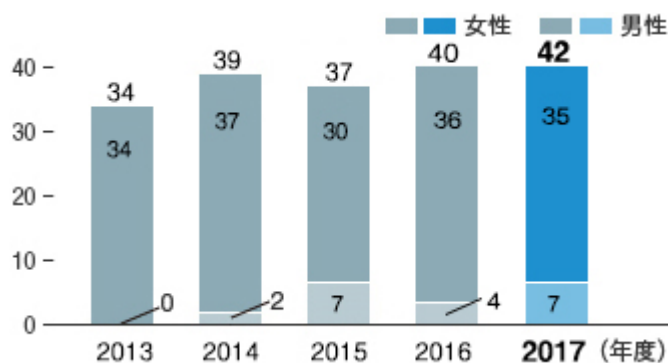
目標2 働きやすい職場環境整備のため、両立支援に資する制度等の拡充を図る。

目標3 総実労働時間の短縮に向け、休暇の取得促進等を図り、社員のワークとライフの充実を目指す。

▼有給休暇取得実績（単位：日）



▼育児休業取得実績（単位：人）



（注）対象・集計範囲はいずれも、NEXCO西日本

※2011年度は年次有給休暇および夏季特別休暇の日数を、2012年度以降は年次有給休暇およびポジティブ休暇の日数を合算しています

健康診査等の受診	妊娠中または出産後における保健指導及び健康診査を受けるときの勤務免除
通勤緩和	母体又は胎児の健康保持への影響が認められるとき、1日につき1時間までの勤務免除（オフ・ピーク通勤）
産前産後休暇	出産予定日の6週（多胎14週）間前から、 出産後8週（例外により6週）間を経過する日までの間の特別休暇
配偶者出産休暇	配偶者が出産する際の3日間の特別休暇
子の養育休暇	出生した子または小学校就学始期に達するまでの子育てを養育するための5日間の特別休暇
育児休業	子が3歳になる前日までの休業（開始から1週間は有給）
部分休業（短時間勤務）	3歳までの子を養育するとき、1日最大2時間までの休業（短時間勤務）
子の看護休暇	小学校就学始期までの子を看護するための 5日間の休暇（子が2人以上の場合は10日間）
育児時間	1歳までの子を養育するために1日2回、1回につき30分以内の勤務免除
両立支援面談	妊娠・出産・育児などのライフイベントと仕事を両立しながら活躍し続けることを支援するための面談を実施
介護休業	要介護者の介護のため、通算して184日以内の休業
介護短時間勤務	要介護者の介護のため、始業時または終業時において1日最大4時間までの時間単位休業
介護休暇	要介護者の介護のため、毎年5日以内の特別休暇 （対象家族が2人以上の場合は、毎年10日以内）

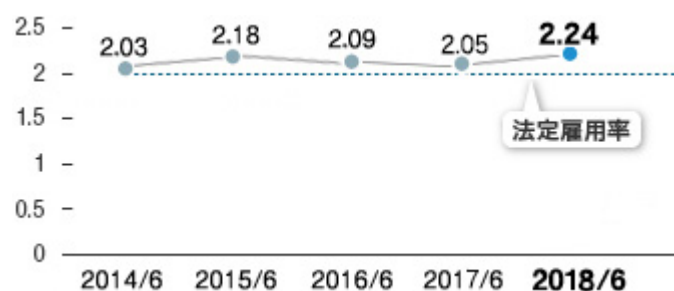
障がい者の雇用促進

障がい者が働きやすい職場づくりに取り組んでいます

当社グループでは、障がい者が自立し、社会参加できるように、障がい者の採用を継続的に行っています。また、職場環境に関して、[バリアフリー](#) 化などのハード面と健康相談などのソフト面の両面で、障がい者が働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

当社の2017年6月現在の障がい者雇用率は2.05%（53人）です。

▼障がい者雇用率の推移（NEXCO西日本）（単位：％）



定年退職者に活躍の機会を提供しています

定年退職者のキャリアを活かし、働きがいを持って活躍できる機会と場を拡大するため、再雇用制度を導入しています。2017年度は、当社の定年退職者のうち、継続雇用希望者7人全員を再雇用しました。

※集計範囲：NEXCO西日本

働き方改革

働き方改革の考え方

働き方改革を通じて生産性を向上させるべく、会社と社員が一体となって取り組んでいます

社員がイキイキと健康的に能力を発揮できる環境を整えることは、企業にとって重要な課題です。当社の使命は高速道路の安全・安心の実現ですが、それを実現する社員の健康と安全を守ることにも会社の重要な責務です。

そこで、柔軟な勤務体系の導入や業務の効率化による時間外労働の削減、ダイバーシティの推進などにより、社員にとって働きやすい職場環境を実現するとともに、社員一人ひとりが「決められた時間内でどうすれば効率的に業務を遂行できるのか」という目標を持ち、社員にとって働きやすい職場環境づくりを推進していきます。

具体的な取り組み策

社員の健康管理の強化に取り組んでいます

当社では社員の心身の健康と安全を預かる会社として、社員の健康管理の強化を強く意識しています。特に産業医との面接指導や、産業医・看護師と連携した社員の健康管理の強化及び過重労働による社員の健康障害の防止に取り組んでいます。

また、当社が目指す[ワーク・ライフ・インテグレーション](#)の実現のためには、“社員の健康”が重要であることから、健康増進策の一環として、日々の運動を推奨する施策「ウォーキング制度」を導入しています。



看護師による健康相談の様子

安心して働ける職場環境づくりを進めています

社員が安心して働けるよう、こころと体の健康管理に取り組んでいます。

当社では、2015年12月からの「心理的な負担の程度を把握するための検査（ストレスチェック）」の法定義務化に先行し、2013年度から「こころの健康診断」としてストレスチェックに取り組んでいます。

具体例として、メンタルヘルスケア体制の整備やメンタルヘルスケア講習の実施、健康診断、産業医・看護師による健康相談、人間ドックの利用補助や健康保険組合の各種保険事業などがあり、社員のこころと体の健康管理に取り組んでいます。

また、さまざまなライフイベントを迎える社員が、仕事と家庭をともに充実することができるよう、妊娠・出産・育児・介護に関する各種休暇制度や勤務の制限などの制度の整備面とあわせて、その制度が利用しやすくなるようガイドブックを作成して周知するなど、社員が安心して働き引き続き活躍できるような環境づくりを進めています。



制度紹介のための各種ガイドブック

新技術の開発・導入により生産性の向上を図っています

建設時における道路構造の見直しや新しい工法を採用することで、安全性の向上と施工時の省力化に加え、完成後の維持管理面での負担軽減も視野に入れるなどさまざまな点で工夫・検討を実施しています。

また、供用中の道路管理の面においても、当社やグループ会社独自の技術力を活かした点検技術の開発・導入などを積極的に実施し、効率化と品質向上を追求することで、生産性の向上を図っています。

グループ会社の取り組み

西日本高速道路エンジニアリング関西（株）

女性技術者会議を開催しています

当社グループで主に点検・管理を実施しているエンジニアリング系会社では、女性技術者ネットワークと総合的な技術力強化に向け「女性技術者会議」を開催しています。2017年度は6社24名が参加し、各社の女性活躍に関する取り組み内容の紹介や、事前に収集したアンケート結果を基に「問題提示→解決策考案→全体発表」と課題解決型のグループ討議を行いました。

今後、女性技術者がより活躍していく環境にするために、女性技術者から意識改革を行い、女性が活躍することによって社員全員が働きやすい「より良い会社」作りを進めていきたいと考えています。



グループ討論の様子

西日本高速道路メンテナンス中国（株）

清掃員の安全確保に取り組んでいます

西日本高速道路メンテナンス中国（株）では、SA・PAで働く清掃員のヘルメットに風船を取り付けて作業を行っています。

これは、駐車場清掃作業の際、清掃員が作業をしていることをお客さまにお知らせすることで、車両と作業員が接触する事故を防止する目的で行っています。当初は恥ずかしいという声もありましたが、今では珍しいとお客さまから一緒に写真を撮って欲しいという声もいただきます。

現場で働く清掃員の更なる安全確保に向けて、これからも改良を重ねながら業務改善に取り組んでいきます。



SA・PA清掃作業の様子

西日本高速道路エンジニアリング四国（株）

業務の効率化に取り組んでいます

西日本高速道路エンジニアリング四国（株）では、冬用タイヤ規制の省力化・効率化、渋滞時間短縮によるサービス向上を目的として、「冬用タイヤ自動判別システム」の開発に取り組んでいます。

冬用タイヤの確認は、今までは作業員の目で1台1台確認を行っていましたが、多大な時間を要し、時には確認待ちの渋滞が発生することがありました。

そこで、カメラの画像処理技術により、昼夜天候にかかわらず冬用タイヤかどうかを自動判別するシステムを開発しました。

2017年度は試行導入を行い、確認作業の負担が軽減される効果があったことから、今後は本格導入に向けて、動作の安定性、判別の高精度化を実現し、渋滞緩和と確認作業の負担軽減につなげていきます。



冬用タイヤ自動判別の様子

西日本高速道路メンテナンス九州（株）

高速道路上での作業の安全性向上に取り組んでいます

西日本高速道路メンテナンス九州（株）は、主に高速道路の路面損傷補修などのメンテナンス業務を行っています。メンテナンスなどの実施にあたり、高速道路本線を規制するためラバーコーンの設置が必要になりますが、これまでは重さが約4kgもあるラバーコーンの設置・回収を手作業で行っており、荷台からのみ出しや一般車両との接近など、非常に危険なうえ、作業員に負担のかかるものでした。

これを改善するためロボコーン（ラバーコーン自動設置回収車）を開発し、規制にかかる一連の作業を機械化することで、作業員の安全性向上と負担軽減を図っています。現在全国の高速度道路で53台稼働しており、今後も導入していく予定です。

ほかにも、安全資機材や工事機材の改良による作業効率の改善を行うなど、高速道路上での作業の安全性向上と作業員の負担軽減に取り組んでいます。



ロボコーンによるラバーコーン設置の様子

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

環境経営の推進

環境マネジメントの推進

- ▶ 「環境基本計画」に基づき活動を推進しています
- ▶ 中期計画「環境基本計画2020」に基づく環境アクションプラン2017の取り組み（達成状況）

事業活動と環境負荷

- ▶ 活動全体での環境負荷について定量的な把握に努めています **WEB**

低炭素社会の実現

交通渋滞の解消

- ▶ 高速道路整備やETC利用の普及促進でCO₂削減を目指しています **WEB**

省エネルギーの推進

- ▶ 電気使用量の3割以上を占めるトンネル照明のLED化を推進しています **WEB**
- ▶ オフィスでの省エネ活動を継続しています **WEB**

充電システムの整備

- ▶ SA・PAにおける急速充電システムの整備を進めています **WEB**

創エネルギーの推進

- ▶ SA・PAや料金所などへ太陽光発電設備の設置を進めています **WEB**
- ▶ TOPICS：高速・一定速度の走行による環境効果 **WEB**

CO₂以外の温室効果ガス抑制

- ▶ フロン排出抑制の取り組みを進めています **WEB**

循環型社会の形成



建設副産物の3R

- ▶ 建設廃棄物や建設発生土の再利用・再資源化に努めています [WEB](#)

緑地管理の3R

- ▶ 刈草や剪定枝を緑化資材に転用する「緑のリサイクル」を行っています [WEB](#)
- ▶ 緑地の雑草を抑制する植物を植栽し、刈草の減量に努めています [WEB](#)

事業活動により発生する廃棄物の3R

- ▶ SA・PAで発生するゴミの3Rを進めています [WEB](#)
- ▶ 大型・特殊車両の再利用を促進しています [WEB](#)

環境に配慮した調達

- ▶ 公共工事についても方針を定めてグリーン調達に取り組んでいます [WEB](#)

自然と共生する社会の推進



自然環境に配慮した道路整備（エコロード）の推進

- ▶ 2つの軸を定め、エコロードを推進しています [WEB](#)

生物多様性の保全

- ▶ 自然への影響を最小限に抑えるため、さまざまな対策を実施しています [WEB](#)
- ▶ 「地域性苗木」を育成・植栽し、生物多様性の保全に配慮しています [WEB](#)

野生動物の事故防止

- ▶ 動物侵入防止柵の設置に取り組んでいます [WEB](#)

沿道環境の保全

- ▶ 道路交通による騒音の低減に努めています [WEB](#)

環境経営の推進

環境マネジメントの推進

「環境基本計画」を策定して活動を推進しています

NEXCO西日本グループでは2008年に「環境方針」制定し、2011年からは5か年の中期計画として「環境基本計画」を策定して、環境保全に取り組んでいます。

環境基本計画は、環境方針の柱である「[低炭素社会](#)」の実現」「[循環型社会](#)」の形成」「自然と共生する社会の推進」という3テーマで構成し、環境管理会議において、毎年度、計画達成に向けた具体目標（[アクションプラン](#)）を立て、実績を評価しています。



「府中湖PAに整備したビオトープ」（高松自動車道） 土捨て場跡地を利用したビオトープの整備

環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、[持続可能な社会](#)の形成を目指します。

取り組みの実施にあたっては、環境側面に関係する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に見直すことで継続的に改善します。

（2008年制定、2011年一部改定）

低炭素社会の実現に取り組みます

未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるよう、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組みます。

循環型社会の形成に取り組みます

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃棄物等の発生抑制（リデュース）、循環資源の再使用（リユース）及び再生利用（リサイクル）に取り組みます。

自然と共生する社会の推進に取り組みます

人と生きものが豊かに暮らせる社会を目指し、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組みます。

中期計画「環境基本計画2020」に基づくアクションプラン2017の取り組み

2016年度から2020年度を対象に「環境基本計画2020」を策定、その計画に基づく年度目標「環境アクションプラン2017」を設定し、グループ一体となって、環境保全・改善に積極的に取り組みました。

低炭素社会の実現の取り組み概要

高速道路の自動車交通によって発生する二酸化炭素排出量を削減するための渋滞対策や、事業活動に伴う電気使用量の削減、太陽光発電の導入、及び樹林化などを実施しています。

循環型社会の形成の取り組み概要

天然資源の消費を抑制し、事業活動に伴って発生する廃棄物の3R（Reduce[削減]・Reuse[再利用]・Recycle[再資源化]）を推進するとともに、環境負荷の少ない製品・資材を調達するグリーン調達に取り組んでいます。

自然と共生する社会の推進の取り組み概要

動物侵入防止柵を設置するなど、野生動植物や自然環境の保全対策を反映させた道路整備を進めています。また、沿道地域の静穏な生活環境を守るため、遮音壁の新設・改良などを推進しています。

▼「環境アクションプラン2017の達成状況」

▶ PDF版 (1.02MB) 

実行目標計画の取り組み 項目			活動内容	指標	アクションプラン2017	
					目標	実績
低炭素社会の実現	円滑な交通の確保	高速道路ネットワークの整備	新規高速道路のネットワーク整備を実施する	開通延長	44km	44km
	省エネルギーの推進	電気使用量の削減	オフィス活動に要する電気使用量を削減する	電気使用量	2015年度実績より2%以上削減する (2015年度 153kWh/m ²)	7.2%増加 (164kWh/m ²)
			道路施設の維持管理に要する電気使用量を削減する	電気使用量	2016年度実績より1%以上削減する (2016年度 71.5千kWh/km)	0.8%削減 (70.9千kWh/km)
		ガス使用量の削減	オフィス活動に要するガス使用量を抑制する	ガス使用量 (都市ガス+LPGガス)	2015年度実績より抑制する (2015年度 0.4m ³ /m ²)	13%削減 (0.35m ³ /m ²)
		太陽光発電の導入の推進	新設料金所等に太陽光発電を設置する	導入量	160kW	160kW
	二酸化炭素吸収源対策	道路緑化等によるCO ₂ の固定	盛土のり面等の樹林化整備を推進する	整備面積	94ha	112ha
	技術開発	新技術・新材料の開発	再生アスファルト混合物の適用性を検討する	—	再生アスファルト混合物（市中一般再生骨材、鉄鋼スラグ）の適用性を検討し、一般再生材の設計要領化の可否を判断する	・配合率および混合物の配合基準に関する室内試験を実施 ・技術基準での規定方法を検討
			次世代車両用スタンド整備に向けた新エネルギー補充用技術を開発する	—	次世代自動車の社会動向を踏まえた、適時・適正なインフラを整備する	EV急速充電器を計2基整備 NEXCO西日本管内の休憩施設306箇所のうち132箇所に整備完了

実行目標計画の取り組み項目			活動内容	指標	アクションプラン2017	
					目標	実績
循環型社会の形成	環境に配慮した製品・資材等の調達の推進	グリーン調達の推進	事務用品における特定調達物品等の調達率100%を目指す	調達率	特定調達物品等の調達率100%を目指す	特定調達物品等の調達率100%を達成（規格等により適合商品がない場合を除く）
		廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進	一般廃棄物（資源となるものを除く）の排出量を減量する	－	一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努める	一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努めた
			植物系廃棄物（草刈等）の再資源化を推進する	再資源化率	95%を目指す	96.4%
			建設発生土の再利用を推進する	再利用率	80%を目指す	96.5%
			アスファルトコンクリート塊の再資源化を推進する	再資源化率	99%を目指す	100%
			コンクリート塊の再資源化を推進する	再資源化率	99%を目指す	100%
			休憩施設での発生ゴミの再資源化を推進する（再資源可能なもの）	再資源化率	100%を目指す	100%
			建設発生木材の再資源化を推進する	再資源化率	95%を目指す	96.3%
			建設汚泥の再資源化を推進する	再資源化率	90%を目指す	95.0%
自然と共生する社会の	自然環境の保全	エコロードの推進	動物侵入防止対策を推進する（保全）	設置・改良箇所	96箇所	99箇所
			動物侵入防止対策を推進する（建設）	設置延長	66km	67.6km
			地域性苗木を設置する	設置本数	約60,000本	約40,000本

	実行目標計画の取り組み 項目		活動内容	指標	アクションプラン2017	
					目標	実績
推進	生活環境 の保全	道路交通 騒音対策	高機能舗装の 敷設を推進する	敷設延長	150車線・km	117車線・km
			遮音壁の設置 を推進する	設置延長	20km	20km

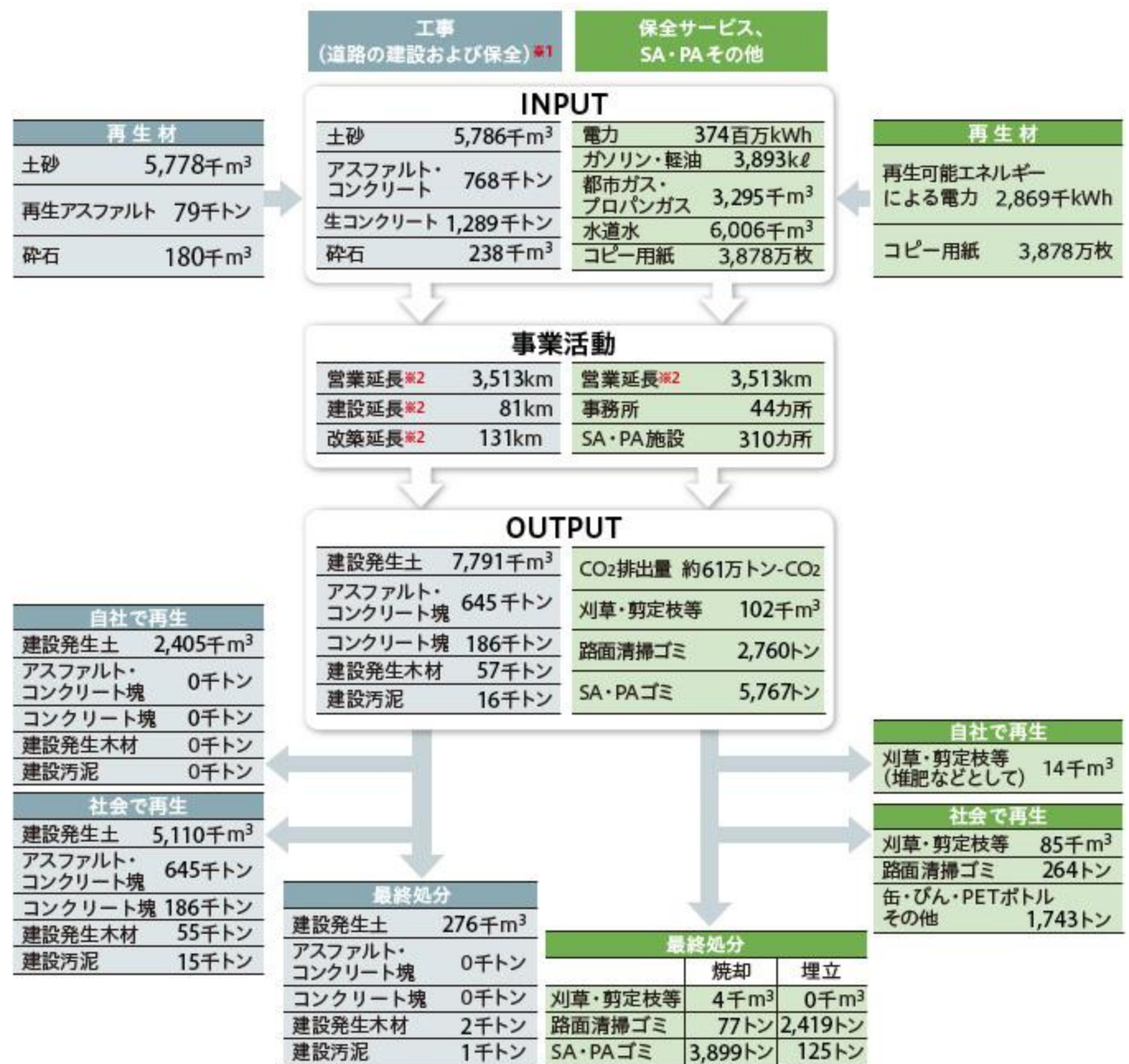
活動全体での環境負荷について定量的な把握に努めています

当社グループでは、高速道路の建設、維持管理、SA・PAなど休憩施設の運営などすべての事業活動が環境にどの程度負荷を与えているのか、できる限り定量的に把握するよう努めながら、環境に配慮したさまざまな取り組みを推進しています。

これらの事業活動による2017年度の環境負荷の**マテリアルフロー**（原材料から廃棄物までのモノの流れ）は以下のとおりです。主なものとして、5,786千m³の土砂、768千トンのアスファルト・コンクリート、1,289千トンの生コンクリート、3,878万枚のコピー用紙、374百万キロワットアワーの電気使用量、3,893キロリットルの自動車燃料、6,006千m³の水道水などがあります。

また、高速道路の建設では、**盛土** 工事で大量の土砂を必要とする一方、切土部分では大量の土砂を排出します。そこで当社では、土砂の最終処分が少なくなるよう、自社または自治体等関係機関での再生利用を推進しています。2017年度の最終処分量は、276千m³となりました。

▼事業活動に伴うマテリアルフロー




※1：2017年度にしゅん功（完了）した工事のマテリアルフロー

※2：2018年3月末現在

低炭素社会の実現

交通渋滞の解消

高速道路整備やETC利用の普及促進でCO₂削減を目指しています

自動車は加速時に多量の燃料を消費するため、高速道路の整備による渋滞対策やETC  利用の普及による料金所での一旦停止車両の減少は、自動車交通によるCO₂排出量の削減に大きな効果をもたらします。2017年度のETC利用率は88.7%となり、ETC運用開始前と比較して、CO₂排出量が約1.8万トン削減されたものと推定されます。

2017年度は新たに5区間44kmが開通しました。これによるCO₂削減量は5万トンと算定されています。

今後も高速道路整備やETCレーンの複数化により交通混雑を解消することで、自動車交通によるCO₂排出量削減に貢献していきます。

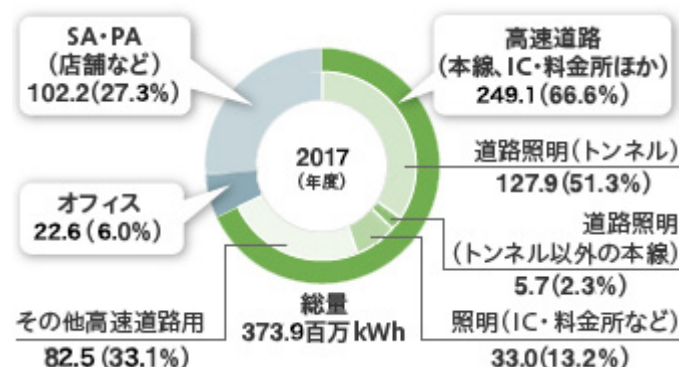
省エネルギーの推進

電気使用量の3割以上を占めるトンネル照明のLED化を推進しています

当社グループが使用する電気の3割以上は、高速道路のトンネルに設置された照明によるものです。これらをすべてLED化すると、トンネルでの電気使用量の約4割の削減が見込まれます。このため、当社ではトンネル照明のLED化を推進しています。

現段階では2018年度までに全体の16.5%にまで拡大する計画を立てています。2017年度末時点で122本のトンネルでLED化を完了し、2018年度は新たに25本のトンネルのLED化を予定しています。

▼電気使用量の内訳（単位：百万kWh）




オフィスでの省エネ活動を継続しています

2017年度も、前年度に引き続きオフィスにおける省エネ活動の取り組みとして、執務室内の照明の調整や昼休みの一斉消灯、エレベーターの稼働台数制限、空調温度の設定、パソコンの省エネモード設定のソフト対策や、執務室の照明のLED化やエアコンを省エネ製品に取り替えるなどのハード対策を実施しました。しかしながら冬の気温低下等の影響で、執務室床面積あたりの電気使用量が、2015年度比で約7.2%程度増加となりました。

今後も引き続き、更なるオフィスにおける省エネ活動に取り組んでまいります。

充電システムの整備

SA・PAにおける急速充電システムの整備を進めています

政府が掲げる**低炭素社会**  の実現にあたり、次世代自動車（電気自動車やプラグインハイブリッド車）の普及は必要不可欠であるといわれています。

高速道路の利便性向上、地域への貢献および次世代自動車の普及・技術発展の実現に向けいっそうの推進が図れ、高速道路の価値最大化に寄与することを目的とし、ジャパンチャージネットワーク（株）との業務提携を結び、協働により、次世代自動車用急速充電インフラの整備を進めました。2017年度は、新たに2カ所の整備を進め、2018年3月末時点で累計132カ所※に設置しております。

※**ハイウェイオアシス**  への設置は含まない

創エネルギーの推進

SA・PAや料金所などへ太陽光発電設備の設置を進めています

太陽光発電設備をSA・PAや料金所、高速道路の**遮音壁**  などに設置し、その電力を休憩施設や道路設備に活用しています。

2018年3月現在の発電設備容量は2,904キロワット(計88カ所)でした。

今後も太陽光発電整備による創エネルギーの拡大を進めていきます。

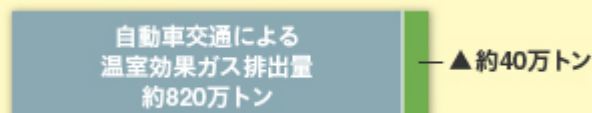
T OPICS

高速・定速走行による環境効果 高速道路は、CO₂排出の抑制に有効です

当社管内の高速道路を走行する自動車のCO₂排出量は、年間約780万トン（2016年度）と推計されます。これらの自動車が一般道路と同じ速度で走行した時のCO₂排出量は、年間約820万トンで、高速道路は年間で約40万トンのCO₂排出を抑制していることになります。



また、自動車の走行ではCO₂のほか、粒子状物質（PM）、窒素酸化物（NOx）などが排出されます。高速道路では走行速度が一般道路に比べて一定で速いため、これらの排出が減り、大気汚染も抑制されています。

▼高速・定速走行による温室効果ガス排出の削減量※



※「自動車排出係数の算定根拠」
（2003年12月国土交通省国土技術政策総合研究所）より作成。

フロン排出抑制の取り組みを進めています

低炭素社会  実現に向けた取り組みの一環として、CO₂よりもオゾン層を破壊する影響が大きく、地球温暖化  の要因の一つになっているフロンガスの排出抑制に取り組んでいます。2015年度は、2015年4月に施行されたフロン排出抑制法※を受け、各社屋や料金所、休憩施設等で使用している業務用エアコンや製氷機等の簡易点検、詳細点検を実施しました。点検の結果、2017年度の「フロン類算定漏えい量」は86 t-CO₂でした。

※フロンガスを発生する設備・機器の使用にあたって、設備の管理者に対して、フロンガス漏えいの有無を調べる簡易点検もしくは定期点検の実施と、漏えいを発見した場合の設備整備と修理点検の記録作成、一定量（1,000 t-CO₂）以上の漏えいがあった場合の報告を義務付けた法律。

循環型社会の形成

事業活動に伴って発生する廃棄物の3R（Reduce[削減]・Reuse[再利用]・Recycle[再資源化]）を推進することにより、天然資源の消費を抑制し、環境負荷の少ない製品・資材を調達するグリーン調達に取り組んでいます。

建設副産物の3R

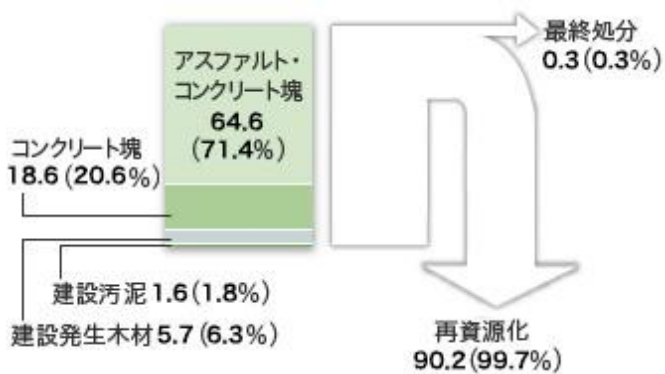
建設廃棄物や建設発生土の再利用・再資源化に努めています

事業活動に伴って排出される建設廃棄物・建設発生土などの現場内での再利用を推進し、現場で再利用しきれないものについても、他の工事現場や再資源化工場への持ち込みを進めるなど、最終処分（埋め立て）をできるだけ少なくしています。

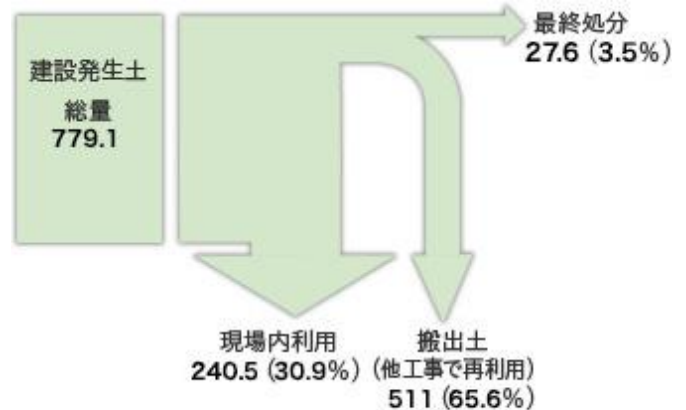
また、アスファルト・コンクリート塊やコンクリート塊といった建設廃棄物についてはコンクリートや舗装の骨材や基礎砕石として、建設発生土は道路の盛土材などとして、再利用しています。

今後も建設副産物の3Rの推進に取り組んでいきます。

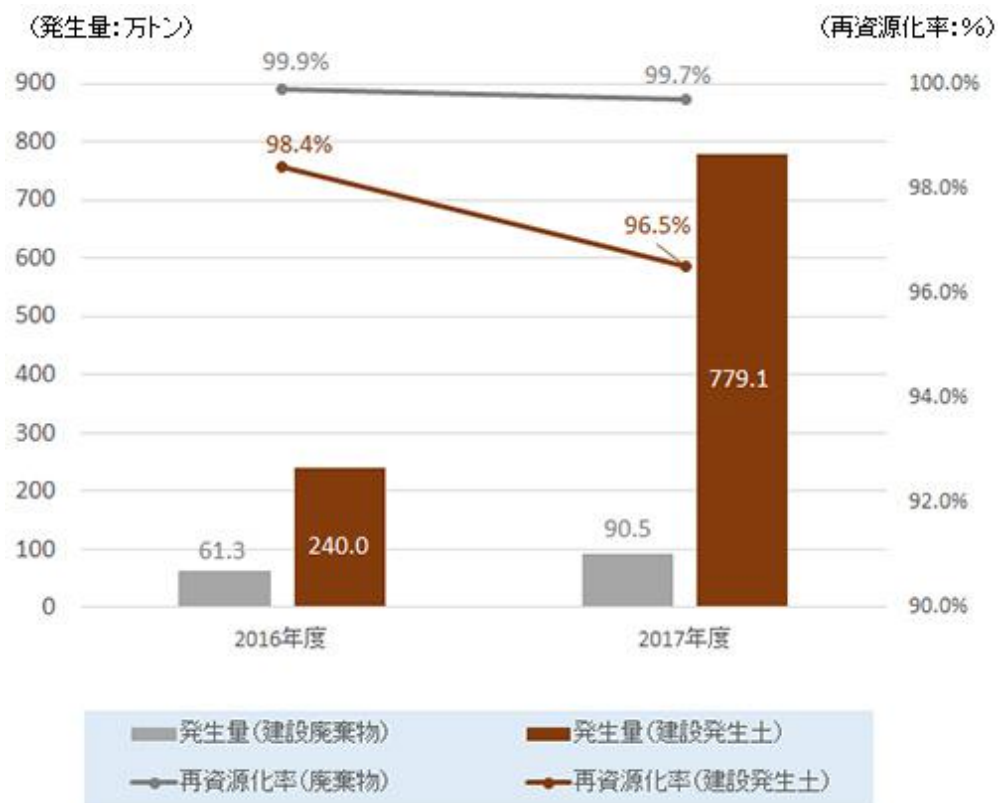
▼建設廃棄物の再資源化の状況（単位：万トン）



▼建設発生土のリサイクルの状況（単位：万トン）



自工区および他の建設工事で発生した土砂を受け入れ、利用



建設廃棄物・発生土の発生量の推移
及び再資源化率の推移

刈草や剪定枝を緑化資材として再利用する「緑のリサイクル」を行っています

高速道路の緑地からは、維持管理の際に刈草や剪定枝が大量に発生します。これらから、主に建設事業で使用する堆肥やチップを自社ブランドで製造する「緑のリサイクル」を行っています。2017年度は約1,735m³の堆肥を生産しました。

緑地の雑草を抑制する植物を植栽し、刈草の減量に努めています

高速道路緑地の草刈りの手間軽減と刈草の減量化を図るために、当社では選抜育種したテイカカズラ（商品名：eQカズラ）を植栽しています。eQカズラは、生育に伴い地表面を覆い隠すことで雑草の侵入を抑制するため、維持管理コストを従来の約10分の1にでき、生態系への悪影響もありません。エコエリア山田の太陽光発電設備周辺にも防草対策として植栽しています。

2017年度までに約121万本を高速道路の緑地等に植栽しており、今後は高速道路の既開通区間への導入を推進いたします。

なお、この技術は、当社とグループ会社の西日本高速道路エンジニアリング九州（株）が共同で開発（特許：第4642049号）しています。



eQカズラによる雑草抑制（大分道 エコエリア山田）

事業活動により発生する廃棄物の3R

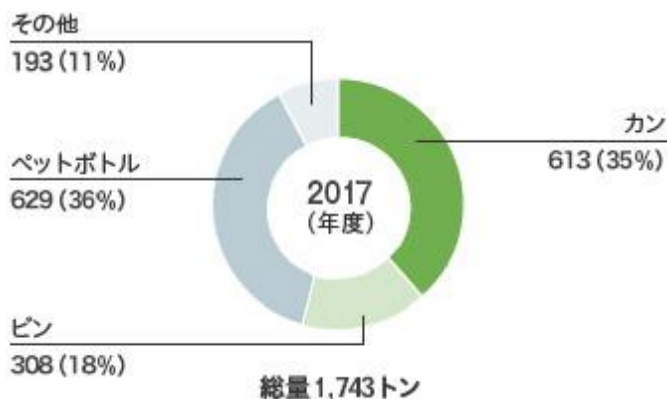
SA・PAで発生するゴミの3Rを進めています

当社グループでは、お客さまにゴミの分別のご協力をいただくとともに、よりきめ細かな分別を実施し、SA・PAにおけるゴミの3Rを推進しています。

再資源化可能なゴミはリサイクル工場に運搬し、資源の有効利用に貢献しています。2017年度は、SA・PAで発生したゴミ5,767トンのうち約30%にあたる1,743トンを再資源化しました。

今後もお客さまに引き続きゴミの分別や家庭ゴミの持ち込み抑制にご協力いただきながら、ゴミの削減・再資源化に取り組んでいきます。

▼SA・PAのゴミ再資源化を図った廃棄物の内訳（単位：トン）



大型・特殊車両の再利用を促進しています

当社グループでは、高速道路での使用には耐えられず更新時期を迎えた除雪車などの大型・特殊車両について、解体処分をせず一般競争入札で売却することで、資源の有効利用を図っています。売却された車両は再整備のうえ、国内の一般道や海外で再利用されます。

2017年度は標識車や散水車、除雪車など41台を売却しました。今後も車両の再利用を推進し、資源の有効利用を図っていきます。



散水車

環境に配慮した調達

公共工事についても方針を定めてグリーン調達に取り組んでいます

当社では、環境省の「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」に準じて、[グリーン調達](#)の基本方針を定めています。

事務用品は、2006年度にグリーン調達率100%を達成し、2017年度も継続達成しています。公共工事に関しては、2017年度は対象とした66品目のうち、43品目についてグリーン調達しました。

引き続き、事務用品については環境省の方針に準拠するとともに、公共工事については、当社設計要領との整合性を確認したうえで、グリーン調達の方針に基づく調達を実施していきます。

自然と共生する社会の推進

動物侵入防止柵を設置するなど、野生動植物や自然環境の保全対策を反映させた道路整備を進めています。また、沿道地域の静穏な生活環境を守るため、遮音壁  の新設・改良などを推進しています。



自然環境に配慮した道路整備（エコロード）の推進

2つの軸を定め、エコロードを推進しています

エコロードの推進にあたっては、道路による自然環境への影響を緩和する「マイナスの低減」、道路空間を利用して自然環境を創出する「プラスの付加」という2つの軸を定め、さまざまな対策に取り組んでいます。

マイナスの低減

1. 回避：保全対象部分を避けて路線を選定

回避した路線
自然環境保全上の重要な部分を
避けて路線選定を行う



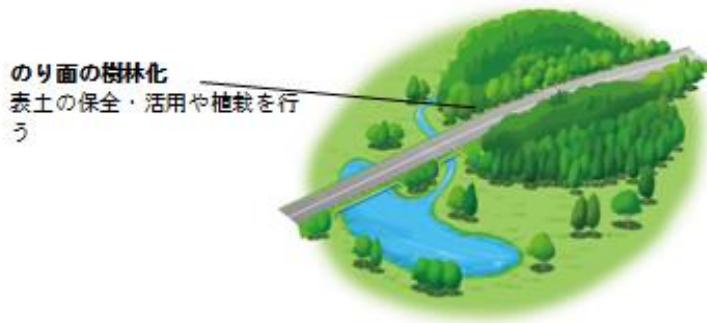
2. 低減（最小化・均衡）：自然に及ぼす影響を最小化

動物の移動経路の確保
横断構造物や侵入防止柵の
設置

地形改変の最小化
トンネルや橋梁構造の採用



3. 低減（修復・再生）：のり面 や表土の緑化等



4. 代償：近隣同様の生息・生育環境を整備



プラスの付加


道路のり面や環境施設帯、SAを活用し、緑化や水辺整備によって動植物の生育環境を創出



「府中湖PAに整備したビオトープ」（高松自動車道） 土捨て場跡地を利用したビオトープの整備

生物多様性の保全

道路建設による自然の消失を最小限に抑えるため、建設前後にさまざまな対策を実施しています

当社グループでは、建設事業ごとに工事着手前に自然環境の調査を実施し、学識経験者を交えた委員会等で最適な自然環境の保全対策を検討しています。必要に応じて構造変更による隣接湿地の保存や希少植物の移植などを実施し、自然環境に及ぼす影響の最小化や生物多様性  の保全に努めています。

また、建設後においても、環境の経年変化や保全措置の効果を把握するためモニタリングし、適切な管理を行うことで、自然環境保全の質的向上にも努めています。

「地域性苗木」を育成・植栽し、生物多様性の保全に配慮しています

自然環境が豊かな地域で道路を建設する場合は、その地域に自生する樹木の種子を採取して育てた「地域性苗木」を高速道路ののり面 [のり面](#) に植樹しています。地域性苗木は、地域の遺伝子を持つことから、「遺伝子の保全・種の保全・生態系の保全」という生物多様性の保全に寄与できると考えています。

2017年度末までに約12.6万本の地域性苗木を植栽しており、今後も、建設工事が進む新名神高速道路などで積極的に取り組んでいきます。



地域性苗木の植樹

野生動物の事故防止

動物侵入防止柵の設置に取り組んでいます

高速道路に野生動物などが侵入すると、動物が車にひかれる危険があるばかりでなく、動物を避けようとしたドライバーが交通事故に巻き込まれる恐れがあります。

そこで、当社では、動物の道路への侵入防止柵を設置しています。また、ドライバーへの注意喚起を促すための標識設置などの対策も講じています。




シカ侵入対策（フェンスの嵩上げ）



小中型動物侵入対策（排水溝の閉塞）

道路交通による騒音の低減に努めています

当社グループでは、騒音の緩和を道路事業者の重要な責任の一つと捉え、沿道地域の土地の利用状況などを踏まえながら、[遮音壁](#)  の増設やかさ上げによる遮音壁の改良などに努めています。

また、老朽化した遮音壁の取り換えなどの改良工事も実施しています。今後も、必要に応じて沿道環境の保全に努めていきます。

社会貢献

WEB はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

社会貢献



社会貢献活動

- ▶ 社会貢献活動

「安全」への取り組み



交通安全の啓発活動

- ▶ 地域の高齢者や子ども向けの交通安全教室を開催しています

関係機関への講習会の実施

- ▶ ノウハウを活かした講習会に取り組んでいます

「環境」への取り組み



「つなぎの森」活動

- ▶ 西日本各地で森林再生に取り組んでいます

WEB

各種環境保全活動への参加

- ▶ アドプト・ロード・吹田ジャンクションに参加しています

「地域貢献」への取り組み



資機材やノウハウを活かした支援活動

- ▶ 相互協力協定に基づく除雪支援活動を実施しました

学生や地域の子どもたちの教育支援

- ▶ 大学生への講義を実施しています
- ▶ 校外学習活動として職場体験学習を実施しています **WEB**
- ▶ 大学と教育活動に関する協定を締結し、実習などを支援しています **WEB**

地域イベントへの参加やボランティアなどを通じた地域貢献

- ▶ 地域社会や住民と一体となった地域貢献活動を継続しています


グループおよびテナント会社との取り組み



グループ社員の社会貢献活動参加の奨励・支援

- ▶ 多種多様なボランティア活動への参加を支援しています **WEB**

社会貢献活動

NEXCO西日本グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR  活動方針のもと、事業以外においては、グループのノウハウを活かすべく事業活動に親和性の高い分野で活動することを基本としています。またボランティアや地域連携イベントへの参画については、社員本人やグループ会社の主体性を尊重しており、「安全」「環境」「地域貢献」の各分野で取り組んでいます。

「安全」への取り組み

交通安全の啓発活動

地域の高齢者や子ども向けの交通安全教室を開催しています

高齢者や子どもが地域で安心して暮らせるよう、地域の警察や交通安全協議会、市町村等と連携し、交通安全教室や講習会を行っています。

シルバー講習会では特に高速道路での逆走事故防止や緊急時の対処法などを中心に、幼稚園での交通安全教室ではキャラクターや紙芝居を使うなどわかりやすさを心がけながら、シートベルト着用の重要性や横断歩道での安全確認の仕方、飛び出し事故の怖さなどについてお伝えしています。

今後も地域の皆さまが安全に暮らせるよう各地域で開催していきます。



交通安全教室の様子

関係機関への講習会の実施

ノウハウを活かした講習会に取り組んでいます

当社グループのパトロール会社では、関係機関に対し交通規制に関する講習会を実施しています。

2017年、西日本高速道路パトロール関西（株）では兵庫県警・京都府警に続き、大阪府警からの要請を受け、道路上における受傷事故防止対策について、各署の交通課に勤務する警察官を対象に、道路上での安全確保に関する講義を行い、情報共有を図るとともに、机上実技では規制器材や発炎筒の使用方法、規制時の赤旗の振り方など実技を交えながら講義を行いました。当社で分析した高速道路特有の事故や現象等に真剣に耳を傾け、実技にも真剣に取り組んでいただきました。

今後もこうした業務でのノウハウを活かした取り組みを継続し、地域社会へ貢献していきます。



実技指導の様子

「環境」への取り組み

「つなぎの森」活動

西日本各地で森林再生に取り組んでいます

2008年度から西日本各地の地方自治体と協定を締結し、森林保全に取り組んでいます。グループ社員やその家族が参加し、自治体や森林組合とともに、2017年度は3カ所、約7ヘクタール（累計で7カ所、約85ヘクタール）で植林や間伐を行いました。今後も引き続き、西日本各地で自治体などと協力し、森林保全に取り組んでいきます。



つなぎの森 関西 南紀龍神 下草刈り活動の様子と参加者



つなぎの森 四国 高知大豊町 下草刈り活動の様子と参加者

アドプト・ロード・吹田ジャンクションに参加しています

当社グループでは、地域に愛されるきれいな道路環境づくりや地域の環境美化を目的として、「アドプト・ロード・吹田ジャンクション」に参加しています。

アドプト・ロードとは、私たちが身近に利用する道路を自分たちの子供のように育てていくというコンセプトのもと、吹田ジャンクション周辺道路の清掃などの美化活動を継続して実施していくものです。

当社グループでは、吹田ジャンクション周辺に限らず西日本の各地において環境保全活動に社員が自主的に参加しており、2017年度はのべ10,800人が参加しました。

これからも地域を愛し、地域とともに生きる企業グループを目指していきます。



アドプト・ロード・吹田ジャンクションに参加した
ボランティアスタッフ

「地域貢献」への取り組み

資機材やノウハウを活かした支援活動

相互協力協定に基づく除雪支援活動を実施しました

2018年2月5日から8日にかけて、北陸地方西部の福井県嶺北地方・石川県加賀地方を中心に記録的な大雪となり、石川県と福井県を結ぶ国道8号では一時約1,500台の車が立ち往生するなど、大規模な交通障害が発生しました。

西日本高速道路メンテナンス関西（株）では、当社と近畿地方整備局が締結している相互協力協定に基づき、除雪作業の支援要請を受け、2月8日～10日の3日間にわたって、作業員4名、作業車2台を出動させ、国道8号を中心にのべ74時間除雪作業の支援を行いました。

今後も災害などの有事の際には、当社グループが有する資機材やノウハウを活かした支援を実施していきます。



除雪支援活動の様子

学生や地域の子どもたちの教育支援

大学生への講義を実施しています

西日本高速道路エンジニアリング中国（株）では、広島工業大学都市デザイン工学科における年間15回の「道路工学」講座を実施しています。道路構造、景観、環境など道路に関する様々な分野の専門的な内容についての講義のほか、[土工](#)、橋梁、トンネルなどの建設現場等の見学も行っており、この講座への取り組みは30年以上にわたって実施しています。2017年度におけるグループ全体での同様の取り組みは8大学、のべ42回にのぼり、今後もこうした学生への教育支援を継続していくことで、地域や社会に貢献していきます。



スマートIC 現場見学の様子

校外学習活動として職場体験学習を実施しています

当社グループの料金収受会社では、地域との交流をはかり、高速道路や料金所への理解を深めていただくために、地元小中学生に対して職場見学会や料金所での職場体験学習を実施しています。

具体的には高速道路の社会的役割の説明や、発券機横での通行券の手渡し、料金所ブースでの料金収受などを体験してもらっていますが、実際に高速道路を利用するお客さまより「がんばれ」と励ましの言葉をいただき、子どもたちも真剣に収受作業に取り組んでいました。

今後もこうした校外学習活動への支援を通じ、地域の将来を担う子どもたちの育成に貢献する活動に取り組んでいきます。また、職場体験学習に参加した子どもたちが大人になって高速道路を利用する際は、料金所で教わったことを懐かしく思い出し、安全運転してくれることを願っています。



料金所見学の様子
(西日本高速道路サービス中国(株))



料金収受体験学習の様子
(西日本高速道路サービス四国(株))

大学と教育活動に関する協定を締結し、実習などを支援しています

西日本高速道路エンジニアリング四国(株)では、地域と連携した活性化への取り組みとして、高知県大豊町で指定管理者事業・アグリ事業を行っています。2015年度に、高知大学地域協働学部と「地域協働による教育活動実施に関する協定」を締結し、指定管理者事業等を学生教育の場として提供しています。今後もこれらの教育活動等を通じて、地域の活性化・地域とのつながりを強化していく取り組みを実施していきます。



現地実習(椎茸の仮伏せ)の様子



ディスカッションの様子

地域イベントへの参加やボランティアなどを通じた地域貢献

地域社会や住民と一体となった地域貢献活動を継続しています

西日本高速道路パトロール関西（株）では、地域のために活動し、地域の方々に愛される企業を目指して、大阪マラソンでのボランティアに参加しています。

大阪マラソンは約3万人が参加する日本でも有数の市民マラソンで、2017年度は大会前日のランナー受付や、ゼッケン配布のボランティアとして活動しました。ランナー受付では職業柄、極力受付待ちの渋滞を発生させないよう、丁寧に應對しつつも簡潔明瞭な説明に徹するなど工夫しながら実施しています。

他にもグループ各社では、グループ発足当初から、地元の福祉施設や幼稚園で行われる季節の行事への参加、料金所で育てた花の鉢の寄付など、季節や地域行事にあわせたボランティアを実施しています。

今後も地元の方々との交流を通じて、地域の活性化に貢献できるような取り組みを継続してまいります。



ランナー受付の様子



老人ホームへ花の寄贈
(西日本高速道路サービス中国（株）)



SS沖縄バンド倶楽部による県警主催防犯イベント出演
(西日本高速道路総合サービス沖縄（株）)

グループおよびテナント会社との取り組み

グループ社員の社会貢献活動参加の奨励・支援

多種多様なボランティア活動への参加を支援しています

グループ各社では、安全・環境・地域貢献の分野に限らず、献血やAED講習会、エコキャップや古本の収集寄付などのボランティアを幅広く実施しています。ボランティアの実施にあたっては、企画・提案から参加方法までグループ社員個人の自主的な活動を基本としており、2017年度はのべ11,800人の社員が各種ボランティア活動に参加しました。

会社としての支援については、グループ会社によって制度の違いはありますが、ボランティア休暇制度を導入しているところや、障害保険の付保や消耗品の購入を会社経費とするなど、ボランティア活動に参加する社員を支援しています。



ボランティア清掃の様子



ビーチクリーンイベント






献血の様子



献血車

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

NEXCO西日本グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、ステークホルダーとの対話で得られたご意見を参考にしながら、CSRの重要課題を特定しています。また、2030年に向けて世界的な優先課題やあるべき姿を明らかにしている「持続可能な開発目標(SDGs)」に、当社グループのマテリアリティを中心とする関連した取り組みを通じて貢献することを目指しています。

重要課題	ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)
			管理のポイント・指標
 お客さま	交通安全の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● お客さまセンター(高速道路利用者) ● SA・PAに設置した利用者向け投書コーナー「ハイウェイポスト」(高速道路利用者) 	死傷事故率※1(自動車走行車両1億台kmあたりの死傷事故件数) 車限令違反車両取締台数(高速道路上で実施した車限令違反車両取締における措置命令台数) 逆走事案件数※1(交通事故または車両確保に至った逆走事案件数) 人等の立入事案件数(歩行者、自転車、原動機付自転車等が高速道路に立入り、保護した事案件数)
	快適な高速道路空間の提供	<ul style="list-style-type: none"> ● SA・PAインフォメーション(高速道路利用者) ● CS推進オピニオンリーダー意見交換会(外部有識者) ● 現場責任者会議等(SA・PAテナント会社) ● 包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体) 	顧客満足度(CS調査で把握する維持管理に関するお客さまの満足度(5段階評価)) 年間利用台数 通行止め時間※1(単位営業延長(上下線別)あたりの雨、雪、事故、工事等に伴う年平均通行止め時間) 本線渋滞損失時間※1(渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間) 路上工事による交通規制時間(道路1kmあたりの路上作業に伴う交通規制時間)
	SA・PAのお客さま満足施設への変革		Wi-Fiサービスの提供箇所数※3 SA・PAインフォメーションの日本政府観光局(JNTO)の外国人観光案内所認定数(カテゴリー1)※3
 社会	社会基盤である高速道路の整備と長期保全	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業説明会(地域住民) ● 設計協議(地域住民) ● お客さまセンター(高速道路利用者) ● SA・PAに設置した利用者向け投書コーナー「ハイウェイポスト」(高速道路利用者) 	新規開通路線延長 スマートIC新規設置箇所数 快適走行路面率(快適に走行できる舗装路面の車線延長) 要補修橋梁数
	災害対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 包括協定・災害協力協定・連携協定(当社事業エリアの各府県・政令指定都市、陸上自衛隊) 	災害発生時、高速道路には、被災地域の救急・復旧・復興のインフラとしての役割が求められています。 南海トラフ地震被害に備えての資機材の新規備蓄箇所
	高速道路を通じた地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体) 	地域物産展実施エリア※2 地元が販売・イベント等によりSA・PAを利用した日数 ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れるゲート)新規設置数 地域振興や観光振興を目的とした企画割引等の販売件数
	透明性の高い経営と着実な債務の返済	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業評価監視委員会(財界・学術界の外部有識者) 	国民の資産である高速道路を管理する事業者として、透明性の高い経営が求められています。 また、高速道路機構の債務返済を着実なものにしていくため、経営の効率化が求められています。 高速道路機構の債務削減
 投資家・国民の皆さま	積極的な情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業説明会(機関投資家) ● 個別投資家訪問(機関投資家) ● 記者会見(マスメディア) ● アンケート調査(コミュニケーションレポート読者) 	社長定例会見(毎月開催) facebookを活用した広報展開(NEXCO西日本公式facebook登録者数の増) CSR報告書での企業活動報告

※1 集計期間:2017年1月1日～12月31日

※2 西日本高速道路サービス・ホールディングス(株)が主催するもの

※3 2018年5月末実績





持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals:SDGs)






2015年9月、国連サミットにて「持続可能な開発目標(SDGs)」が全会一致で採択されました。2030年までに達成するべく、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動等に関する17のゴールが宣言されています。



KPI(マネジメントアプローチ)						関連ページ
	目標	実績	次年度の目標	集計範囲	関連するSDGs	
	6.8件/億台km	6.6件/億台km	後日、ウェブサイト に掲載	NEXCO西日本事業エリア の全国路線網		25ページ
	――	896台	――			30ページ
	――	74件	後日、ウェブサイト に掲載			25ページ
	――	1,014件				――
	3.6ポイント	3.6ポイント			26ページ	
	――	1,011百万台			WEB	
	――	57時間	WEB			
	――	638万台・時	WEB			
	――	126時間/km	WEB			
	――	196カ所	――			28ページ
	――	67カ所	――			28ページ
	46km	46km	――	NEXCO西日本事業エリア	 	29ページ
	6カ所	6カ所	4カ所			30ページ
	98%	98%	後日、ウェブサイト に掲載			WEB
	――	655橋	――			19ページ
	4カ所 累計 232カ所	―― 累計 228カ所	4カ所 累計 232カ所			WEB
	――	70カ所	――			 
	――	のべ2,527日	――		28ページ	
	――	3カ所 (累計70カ所)	――		34ページ	
	――	208千件	――			
	8ページの「高速道路機構の債務残高」を ご覧ください。			(旧道路関係4 公団)		8ページ
	――	11回	――	NEXCO西日本		35ページ
	登録者数 15,000人	登録者数 18,937人	登録者数 25,000人			WEB
	1回	1回	1回	NEXCO西日本グループ		50ページ

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

重要課題		ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)	
				管理のポイント・指標	
 お取引先	公正な取引関係	<ul style="list-style-type: none">● 入札監視委員会 (外部有識者)	国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。	入札監視委員会の実施回数	
	SA・PAの テナント会社との 協働	<ul style="list-style-type: none">● 現場責任者会議等 (SA・PAテナント会社)	お客さまの多様なニーズに応えるため、SA・PAのお取引先さまとの協働を重視しています。	安全・安心にかかる講習等 誤給油防止訓練	
 グループ社員	「安全・安心、 信頼され成長する 企業グループ」を 担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none">● キャリア相談窓口 (NEXCO西日本社員)● 経営懇談会、労使協議会 (NEXCO西日本労働組 合員)● 外部講師による研修 (グループ社員)	中期経営計画に定めた「安全・安心、信頼され成長する企業グループ」を実現するため、一人ひとりが仕事を通じて自律的に成長していける人材育成と、組織・会社の自己変革が重要だと考えています。	階層・職種別研修 資格取得支援制度の利用者数 女性管理職者比率	
	 環境保全	低炭素社会の実現	<ul style="list-style-type: none">● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客さま、地域住民、従業員、専門家)	高速道路では、自動車から大量のCO ₂ が排出されるため、道路運営全体で、その排出量削減が求められます。	<ul style="list-style-type: none">● 環境アクション プラン● 省エネレギー 活動
循環型社会の形成		高速道路の建設では、大量の建設副産物が発生するため、その削減が求められています。		<ul style="list-style-type: none">● 環境アクション プラン● 環境物品等の 調達の推進	事務用品における特定調達物品等の 調達率 植物系廃棄物(草刈等)の再資源化率 建設発生土の再利用率 アスファルトコンクリート塊の 再資源化率 コンクリート塊の再資源化率
自然と共生する 社会の推進		<ul style="list-style-type: none">● 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民)● 鵜殿ヨシ原の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) <p>その他、必要に応じて外部委員会を設置</p>	高速道路の建設では、沿道地域の自然環境に影響を及ぼすため、その影響の緩和が重要になります。また、沿道地域の生活環境を守るため、道路交通による騒音の低減が求められています。	<ul style="list-style-type: none">● 環境アクション プラン● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進● 周辺的生活環境への影響を減らす道路づくり	動物侵入防止対策の設置・改良箇所 遮音壁の設置(設置延長)
 社会貢献		「安全」「環境」 「地域貢献」の 取り組み	<ul style="list-style-type: none">● 高速道路交通警察隊(当社事業エリアの各府県)● 高速道路安全協議会(当社事業エリアの各府県)	社会インフラを管理する公共性の高い企業として、地域社会への貢献が求められています。	交通安全啓発活動 職場周辺や各地域での清掃活動 つなぎの森活動

KPI(マネジメントアプローチ)						関連ページ
	目標	実績	次年度の目標	集計範囲	関連するSDGs	
	—	8回	—	NEXCO西日本		WEB
	—	年2回	—	飲食物販テナント事業者		36ページ
	—	年1回	—	元売テナント事業者等		36ページ
	—	のべ710回	—	NEXCO西日本グループ	 	WEB
	—	192名	—	NEXCO西日本		WEB
	—	8.8%	—	NEXCO西日本グループ		WEB
	2016年度実績より1%以上削減する(2016年度71.5千kWh/km)	0.8%削減	2015年度実績より4.3%以上削減する(2015年度73.9千kWh/km)	NEXCO西日本事業エリア	 	40ページ
	160kW	160kW	—			40ページ
	次世代自動車の社会動向を踏まえた、適時・適正なインフラを整備する	EV急速充電器を計2基整備 NEXCO西日本管内の休憩施設306箇所のうち132箇所に整備完了	次世代自動車の社会動向を踏まえた、適時・適正なインフラの整備、インフラ技術を検討する	NEXCO西日本事業エリアのSA・PA		40ページ
	100%	100% (規格等により適合商品がない場合を除く)	100%	NEXCO西日本		40ページ
	95%以上	96.4%	95%以上	NEXCO西日本事業エリア		40ページ
	80%以上	96.5%	80%以上			40ページ
	99%以上	100%	99%以上			40ページ
	99%以上	100%	99%以上			40ページ
	96箇所	99箇所	88箇所	NEXCO西日本事業エリア	 	40ページ
	20km	20km	—			40ページ
	—	のべ142回	—	NEXCO西日本グループ	 	41ページ
	—	のべ2,100回 10,800人	—			41ページ
	—	3カ所のべ6.7ha	—	NEXCO西日本管内実施箇所(全7カ所のべ100ha)		WEB

財務報告

連結損益計算書

(単位: 億円)

区分		2017年度	2016年度	増減
営業収益	高速道路事業	15,679	8,812	6,867
	料金収入	7,643	7,457	185
	道路資産完成高	8,002	1,324	6,677
	その他	34	29	4
	関連事業	533	540	▲ 7
	SA・PA事業	330	335	▲ 5
	その他の事業	202	205	▲ 2
	計	16,213	9,352	6,860
営業費用	高速道路事業	15,691	8,784	6,907
	道路資産賃借料	5,511	5,332	178
	道路資産完成原価	8,002	1,324	6,677
	管理費用	2,177	2,126	50
	関連事業	472	473	▲ 1
	SA・PA事業	280	280	0
	その他の事業	192	193	▲ 1
	計	16,164	9,257	6,906
営業利益	高速道路事業	▲ 11	28	▲ 39
	関連事業 (うちSA・PA事業)	60 (49)	66 (55)	▲ 6 (▲ 5)
	計	48	94	▲ 46
経常利益		73	114	▲ 40
当期純利益 ※1		230	159	70
厚生年金基金代行返上益関係を除く当期純利益 ※2		42	76	▲ 33

※1 「当期純利益」には、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

※2 前期比較のため、厚生年金基金代行返上益関係を控除した当期純利益を記載しています。

主要な経営指標等の推移

回次		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
営業収益	(億円)	8,866	10,120	8,841	9,352	16,213
経常利益	(億円)	61	79	128	114	73
親会社株主に帰属する 当期純利益	(億円)	34	30	73	159	230
純資産額	(億円)	1,593	1,614	1,567	1,798	1,990
総資産額	(億円)	9,295	9,517	11,758	14,385	11,708
1株当たり純資産額	(円)	1,675.73	1,699.19	1,648.61	1,891.16	2,093.11
1株当たり当期純利益金額	(円)	36.64	31.81	77.60	167.91	242.37
自己資本比率	(%)	17.1	17.0	13.3	12.5	17.0
自己資本利益率	(%)	2.1	1.9	4.6	9.5	12.2

高速道路事業トピックス

- 2017年度の当社管内の高速道路の通行台数は、前期比1.8%増の286万台／日となり、料金収入は、対前期185億円増の7,643億円となりました。
- 営業費用のうち、高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期178億円増の5,511億円となりました。
管理費用は、雪氷対策費用(除雪費用等)の増加などにより、対前期50億円増の2,177億円となりました。
- 以上のことなどから、高速道路事業の営業利益は、対前期39億円減の▲11億円となりました。
- 道路資産完成高は、新名神高速道路(高槻JCT・IC～神戸JCT)の完成などがあり、対前期6,677億円増の8,002億円となりました。

なお、道路建設にかかった経費と同額の債務を高速道路機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益や損失は発生しません。

関連事業トピックス

- SA・PA事業は、降雪による通行止めなどが影響し、収益減となったことなどにより、営業利益は対前期5億円減の49億円となりました。
- 関連事業全体の営業利益は、SA・PA事業の利益減が影響し、対前期6億円減の60億円となりました。

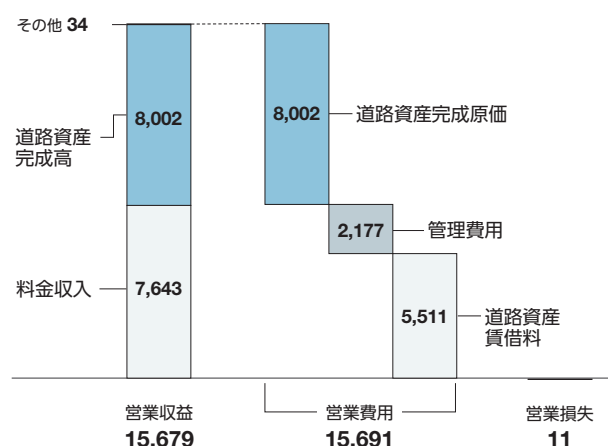
全事業の業績

- 当期純利益は、厚生年金基金の代行返上※に伴う特別利益271億円及びそれに伴う法人税等調整額▲83億円を計上したことなどにより、対前期70億円増の230億円となりました。

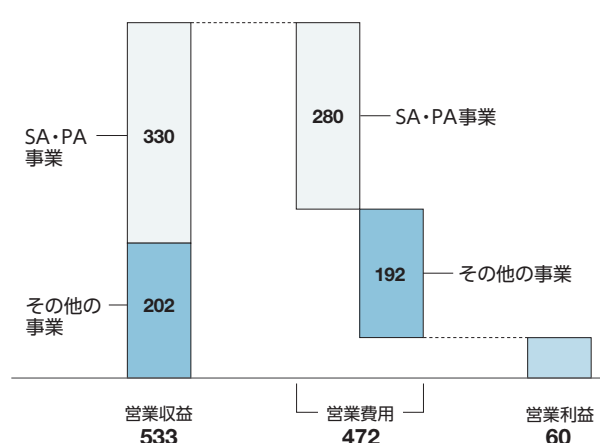
なお、これらの厚生年金基金代行返上益関係を除いた当期純利益は、対前期33億円減の42億円となります。

※当社が加入していた建設関係法人厚生年金基金は、厚生年金基金の代行部分について、2017年5月1日付で厚生労働大臣から過去返上の認可を受けました。

高速道路事業の損益 (単位:億円)



関連事業の損益 (単位:億円)



NEXCO 西日本グループ 税務ポリシー

NEXCO西日本グループは、グループ理念や行動憲章に基づき適正な納税をおこないます。また、社会基盤を支える高速道路会社として良好な財務体質を維持するとともに、社会貢献の一つとして社会的責任を果たします。

われわれは、この税務ポリシーに基づき、公正性や透明性を確保し、適切な会計・税務管理を実施していきます。

1. 法令遵守

NEXCO西日本グループは、法人税法や消費税法等を常に遵守するとともに税法改正を適時適切に把握して適正な納税義務を果たします。

2. 税務コーポレートガバナンス

NEXCO西日本グループは、社内外の講習等を通じて社員の税務知識向上を目指すとともに、社内規程等に基づく適正な実務遂行により、税務コンプライアンスの充実を図ります。また、法令等に基づかない税務上の判断や節税、脱税はおこないません。

3. 税務当局との関係

NEXCO西日本グループは、税務リスクが懸念される取引について、顧問税理士等を交えた十分な検討をおこなうことでリスク回避に努め、税務当局との良好な関係を維持します。

また、税務当局からの情報開示要請等には適切に対応するとともに、税務的判断に見解の相違が生じた場合は真摯な対応で解消に努めます。



関西学院大学専門職大学院
経営戦略研究科 教授

山本 昭二様

NEXCO西日本グループのコミュニケーションレポート2018を読んでみるとグループの活動がつぶさに理解できるとともにどの様な点が大きな問題になっているのかが的確に示されている。高速道路は既に「造って提供する」から「使って価値を生む」という段階に進んでおり、最後の段階である「生活に根ざした価値共創」も垣間見えている。新しい路線の開通によって渋滞が解消されたことは素晴らしいことで、引き続き利便性を高める着実な努力が望まれる。また、防災対策や安全対策などの使い手にとって利用価値の高いサービスの提供も数多く触れられている。サービスエリアの拡充や九州北部豪雨への対応など、日本の高速道路のサービス水準の高さを示すものであり、利用者

にとっての利便性を保証している。また、本グループの保全技術がアメリカで採用され、インフラの維持に貢献していることは素晴らしい成果である。

また、共創価値の向上は数多くのサービスの基盤となるものであり、地域観光への貢献、サービスエリアの地域からのアクセスの確保など社会との繋がりを高めるための施策が多面的に実施されていることは大変心強い内容となっている。

高速道路から価値が生み出される一方で、その実現を阻むような事象も発生してきている。残念ながら2017年度も重大な事故が発生し一層の安全対策が望まれる事態となっている。熟練した作業員の確保の難しさや新たな工法の採用による習熟への時間の必要性など改善すべきことは多いだろうが、レポートでも取り上げられるようにグループを挙げて取り組みを続けて欲しい。

最後に、逆走問題のように高速道路のハードウェアの改善だけでは解決が難しい問題も発生してきている。これを自動運転の普及も含めたドライバーの変化と捉えたとより価値を高めるための投資対象として考えることも可能になるのではないだろうか。是非、ドライバーの意識変革を含めた積極的な対応を望みたい。

第三者意見をうけて



取締役
常務執行役員

芝村 善治

今年度の第三者意見は、前年度に引き続き、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授の山本昭二様からいただきました。貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

当社グループは24時間365日、高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担い、各事業を遂行しています。そのうえで、山本様のご意見のとおり、地域観光への貢献、サービスエリアの地域からのアクセスの確保など、社会との繋がりを高める「共創価値の向上」の施策を実施しながら、社会基盤である高速道路を通じて社会の持続的な発展に貢献することを目指しております。

また、近年の建設現場での重大事故を踏まえた工事安全性向上への取り組みについては、ゼロ災害を目指し受発注者一体となって安全対策を進めるとともに、九州北部豪雨をはじめとした自然災害における対応については、災害対応計画を継続的に見直し、防災訓練の中でより実効性のある体制の構築に取り組むなど、高速道路の早期復旧を目指した対策を実施してまいります。一方、逆走対策のように高速道路のハードウェアの改善だけでは解決が難しい問題については、一般企業から公募した技術を取り入れながら、関係機関と連携して対策に取り組んでまいります。これらの取り組みについて、当社グループに対する理解を深めていただくため、継続して情報発信に努めてまいります。

今後もインフラを管理する企業グループとして環境の変化に対応し、地域と連携した取り組みを通じて高速道路ネットワークの価値を最大化させ、持続的に成長してまいります。

頂戴したご提言を踏まえ、コミュニケーションレポートの更なる充実に活かしていくとともに、NEXCO西日本グループ一体となった事業への取り組みに活用させていただきたいと存じます。

NEXCO西日本グループでは、ステークホルダーの皆さまに当社グループのCSRに対する考え方や取り組みをわかりやすくお伝えするとともに、ご意見・ご期待を把握するためのコミュニケーションツールとして、「コミュニケーションレポート」を編集・発行しています。

レポートは「全体版」と「要約版」の2つのメディアで発行しており、詳細な取り組みを網羅的に報告する「全体版」では、ウェブサイトに掲載することで、ステークホルダーの皆さまが情報にアクセスしやすいように工夫しています。また、重要な取り組みを冊子にコンパクトにまとめた「要約版」では、ビジュアルを多用することで、親しみやすく手に取りやすいレポートを目指しました。

報告対象期間：

2017年4月1日～2018年3月31日
(一部2018年4月1日以降の内容も含みます)

発行時期：

2018年7月(前回:2017年7月、次回予定:2019年7月)

参考にしたガイドライン等：

- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」(持続可能な社会の実現に向けて、組織の目標と実績について報告するための国際的ガイドライン)
- (財)日本規格協会「ISO26000:2010」(企業を含むあらゆる種類の組織の社会的責任に関する包括的ガイダンス)

「コミュニケーションレポート2018」各メディアの情報内容



レポートへの主なご意見と改善のポイント Q & A (「コミュニケーションレポート2017」読者アンケートより)

Q 視覚的に楽しそうな記事にして、高速道路事業の硬いイメージがある専門的な説明をわかりやすくして欲しい。

A イラストと数字で取り組み状況をわかりやすく誌面に取り入れ、お客さまが興味を持っていただけの工夫をしました。

Q サービスエリアなど、地域とのタイアップや施設の充実、顧客サービスにかかわる情報を知りたい。

A 特集ページにおいて、NEXCO西日本ならではの取り組みの現状をお伝えするよう、タイムリーな話題を取り上げています。

Q 災害対策や安全確保のための努力が伝わり良かった。今後も詳しく聞きたい。

A 災害に強い道路を目指し、耐震補強や高速道路の長期保全、インフラ整備にも触れ、事業全体の理解を深めていただける内容に改善しました。